

此斥候ハ通常下士一名ヲ斥候長トナシ兵卒二三騎ヲ屬ス
斥候長ハ第一章第三七ノ規定ニ基キ斥候ヲ指揮シ野外要務令騎兵搜
索勤務ノ要領ニ準シ動作スルモノトス

第八七 縦列行軍中敵襲ヲ蒙リタルトキハ護衛隊ノ有無ニ係ラ
ス各幹部ハ部下ノ沈着ト集結トニ力ヲ盡シ縦列長ノ命ヲ俟ツヲ要ス
若シ事急ニシテ命ヲ受クルノ邊ナキトキハ敵方ニ對シ車陣ヲ作り其
車輛ハ之ヲ密接シテ輾木ヲ内方ニ轉向シ輪卒ヲシテ輓馬ヲ保持セシ
メ現在スル火力ニ依ツテ之ヲ防禦スルヲ務ム可シ

第八八 夜行軍ニ在テ各幹部ノ注意スヘキハ縦隊中ノ集結ヲ正シ
ク保持スルコト人馬疲勞ノ原因タル撞着ヲ避クルコト及道路ヲ誤ラ
ズルニ在リ

其二 馬廠、架橋縦列、野戰病院、野戰電信隊及獨立旅團糧食縱

列

第八九 行軍ヲ爲スニスル馬廠、架橋縦列、獨立旅團糧食縦列ノ集合
隊形ハ輻重兵操典ノ規定ニ準ス但架橋縦列ノ工兵監視員ハ屬スル亦
隊ノ後方若クハ左翼ニ位置ス

第九〇 野戰病院橫隊ニ集合スルトキ衛生材料車ハ部隊ノ左方六
米突ニ行李車ハ部隊ノ中央後方十二米突ニ縦隊ニ在テハ衛生材料車
ハ部隊ノ後方十二米突ニ行李車ハ其後方十二米突ニ位置ス

第九一 野戰電信隊ハ通常二線ニ集合シ材料車及行李車ハ第一線
タル通信員及建築員ノ後方十二米突ニ位置ス

第九二 馬廠、架橋縦列及野戰病院野戰電信隊ニ屬スル車輛部隊及
獨立旅團糧食縦列ノ行軍隊形モ亦輻重兵操典ノ規定ニ準ス但架橋縦
列ノ監視員タル工兵下士兵卒ハ屬スル小隊ノ後尾ニ在テ行進ス要ス

レハ分隊若クハ若干車輛毎ニ之ヲ分屬セシムルヲ得然レトモ時機ニ依リ全監視員ヲシテ縱列ノ先頭若クハ後尾ニ在テ行進セシムルコトアリ

野戰電信隊架設作業ヲナシツ、行軍スルトキハ軍用電信教範ノ規定ニ據ルヘシ

第九三 以上ノ外行軍ニ關シテ糧食縱列ノ要領ニ準據スヘシ

第三編 宿營 第一章 通則

第九四 宿營ハ分テ合營村落露營及露營ノ別アリト雖モ輜重ハ勉テ合營スルモノトス

第九五 毫モ敵ニ關スル虞ナキトキハ行軍合營ヲ爲シ人馬ヲ休養

シ供給ニ顧慮スルヲ要ス

第九六 敵ニ關スル虞多キカ其他敵情ナル警備ヲ要スルトキハ警急合營ヲナス警急合營ハ勉テ建制部隊毎ニ一家屋ニ合營シ服裝ヲ整ヘ裝具ヲ身邊ニ置キ眠臥シ凡テ窓戸ヲ開キ各家屋ニ少クモ兵卒(輸卒)一名點燈シテ警戒ヲナス又時ノ形勢之ヲ要スルトキハ荷物ハ卸脱スルモ馬裝ヲ解クコトナク休憩スルコトアリ

警急合營ハ行李ニ於テ之ヲナスコト屢々アリト雖モ輜重ニ在テハ稀有ニ屬スルモノトス

第九七 行軍連日ナルトキハ馬匹ノ保育疎漏ニ流レ易キヲ以テ日數ヲ經ルニ從ヒ一層愛撫ヲ加ヘ馬體ノ検査及手入飼與ヲ嚴ニ行ハシムヘシ就中飲水ハ十分ニ與ヘ馬匹ヲシテ之ニ飽カシムルコトヲ勉ム可シ

第九八 合營ノトキハ幹部ハ殊ニ其監視ヲ倍蕪シ武器馬具車輛ノ手入身體ノ清潔荷物携帶口糧蹄鐵ノ保存ヲ圖ル可シ且ツ屢々宿舍及馬繫場ヲ巡視シ而シテ軍隊ト合主トノ親睦ヲ保持スヘシ

第九九 行李輜重ノ緊急集合場ハ通常馬繫場(車廠)トス
警報アレハ直ニ緊急集合場ニ集合シ命ヲ俟ツ可シ

第一〇〇 行李輜重宿營ニ際シ馬繫場ニ於ケル動作概ネ左ノ如シ

一、馬繫終レハ小隊長(高級監視員)ハ部下分隊長(次級監視員)ヲ集メ諸勤務ノ人員脱鞍分配ノ時限水與ノ方法ヲ命令シ直ニ手入飼養ニ移ラシム可シ

二、裝具ヲ脱スル時ハ諸動作ニ妨害トナラサル地點ニ分隊(各次級監視員)ノ監視區分)毎ニ併置ス乘馬具及鞍駄具ハ馬匹ノ近傍ニ小隊(部隊)毎ニ集置ス尙ホ濕氣ヲ妨ク爲メ屋舍堂宇ナキトキハ鞍架ヲ

急造スル等ノ處置ヲナシ而シテ雨天及夜間ハ之ニ雨覆ヲ掛ク可シ

三、脱鞍後ハ能ク馬體ヲ検査シ浮腫疾病落鐵疲勞等アレハ上官ニ報告シ獸醫ノ診斷治療ヲ受ケシメ蹄鐵ヲ改裝スル等ノ保護ヲナシ又馬具荷物裝具ノ破損セルモノハ速ニ修理ヲ加ヘ又ハ其手續ヲナス可シ凡テ此等ノ處置ヲ迅速ナラシムルハ不時ノ發途異變ニ應シ得ヘキ要件ニシテ幹部ノ特ニ留意スヘキ事項タリ

四、水與ハ場所ノ廣狹ニヨリ全小隊部隊若クハ分隊(監視區分)交互ニ飲馬場ニ至ルヘシ又水與器ヲ以テ馬繫場ニ於テ飲水セシムルトキハ各既衛兵ハ協力シテ順次ニ飲水セシメ脱漏ナキヲ要ス

五、飼養終レハ鞍駄具ノ手入ヲナシ然ル後裝具ヲ執リ各幹部引率シテ宿舍前ニ至リ入舎前ノ命令ヲ達シ入舎セシムルモトス又豫

備卒ハ車輛手入了レハ前項ニ準シテ舍營ニ就クモノトス(露營ニ在テハ休宿地ニ至リ第三部ニ示セル要領ニ基キ設備ヲナシ然ル後休憩ニ就クモノトス)

之レヲ要スルニ馬繫場ノ動作ハ順序正シク且齊一ナルヲ要ス之カ爲メ諸動作ハ號令ニ從ヒ施行スルモノトス

第一〇一 舍營中ハ常ニ發程ノ準備ヲ怠ル可ラス故ニ武器、銃具、馬具等ハ其位置ヲ正シ且臥床ハ各其方向ヲ一定シ假令夜中不意ニ發程スルモ混雜ヲ起サ、ルニ注意スルヲ要ス

縦列ニ在テハ行李ハ其用ヲ終ルヤ直ニ捆包シ或ハ車載シ置クモノトス

第一〇二 行李、輜重露營ニ際シテハ野外要務令ニ規定セル露營ノ通則ヲ適用ス

第一〇三 露營ニ於テ馬匹ハ勉メテ森林其他掩蔽下ニ馬繫シテ保護ヲ加ヘ疲勞ヲ感セシムルコトヲ計ル可シ

第一〇四 翌日ニ係ル命令ハ指定ノ時間ニ各小隊長(高級監視員所屬本部ニ至リ之ヲ受クヘシ此際其日ニ係ル諸般ノ報告ヲナスモノトス)

第二章 行李

第一〇五 行李ハ行進及戰鬪間ハ大、小行李各分離スト雖モ宿營間ニ特別ノ場合ヲ除ク外相合スルモノトス故ニ宿營勤務ハ其隊高級監視員ノ令下ニ屬シ大行李ト協力スルモノトス

第一〇六 師團命令ニ依テ大行李ヲ宿營地ニ招致スルトキ大行李長ハ各部隊ノ宿營地要スルハ舍營司令官ニ就テ指示ヲ受クルモノトシ(前之ニ到ルヘキ道路ノ景況トテ顧慮シ勉メテ宿營地ニ近接シテ後

命令ヲ下シ各其部隊ノ宿營地ニ分進セシム

第一〇七 分進ニ際シ高級監視員ハ大行李長ヨリ敵情ハ大要各部
隊ノ宿營地採ル可キ道路其距離給養ノ種類ヲ確實ニ指示ヲ受クルヲ
要ス

第一〇八 分進ノ命令ハ通常口演ス以テスルモノニシテ行進中ニ
在テハ大行李長道路ノ側方ニ停止シ各高級監視員逐次來着スル毎ニ
之ヲ傳達シ又停止中ニ在テハ受命者ヲ集メテ之ヲ達シ又ハ大行李長
監視員ノ位置ニ到リ下命スル等時間ヲ徒費セサル如キ方法ヲ用ユル
ヲ要ス

第一〇九 前衛大行李等ニシテ尙ホ遠ク行進スル部隊ノ大行李ハ
監視員中高級故參者ヲシテ之ヲ指揮セシメ其宿營地ニ至リ分進セシ
ムモノトス

第一一〇 各部隊高級監視員ハ分進命令受領後分進路ニ入りテ後
部下ニ必要ノ命令ヲ與ヘ合營地ニ至ルヘシ

第一一一 高級監視員ハ合營地ノ若干前ニ於テ次級監視員一名ニ
其大行李ヲ引率スヘキヲ命シ自ラ所屬隊本部ニ先行シ本部炊事場
繫場宿舎ノ設備ニ關シ所要ノ命令ヲ受領シ而ル後勉メテ速ニ炊事場
ヲ實見シ尙ホ之ニ通スル道路ヲ撰定シ大行李ノ停止點ニ至ルモノト
ス

第一一二 大行李宿營地ニ到着スレハ先ツ其入口ニ停止ス(他ノ大
如トナク)高級監視員ハ此地點ニ於テ本部炊事場馬繫場ノ位置及各次
級監視員ニ積載品卸脱ノ位置ヲ指示シ其卸脱間馬繫場飲馬場ノ偵察
ヲナス

第一一三 荷物卸脱後各次級監視員ハ之ヲ高級監視員ニ報告シ然

後馬匹ヲ繫キ手入飼養ヲ大シ宿舍ニ入ルモノトス

第一一四 各部隊大行李馬繫場ニ至レハ高級監視員ハ小行李ノ人員ト共テ部下ノ勤務割ヲナシ其業務ニ服セシム

第一一五 戦闘ノ景況若クハ其目的ニヨリ大行李ヲ其部隊所在地ニ招致セズ 指令ノ地點ニ集團シテ宿營スルトキハ大行李長ハ糧食糲列舍營ノ要領ニ準シ時宜ニ適當ナル宿營處置ヲナスモノトス

第一一六 大行李舍營中警報アリハ殊ニ沈靜且迅速ニ出發準備ヲ整ヘ命ヲ俟ツモノトス

第一一七 大行李露營ノ設備ハ左ニ要領ニ依ルモノトス但シ大行李ハ所屬隊ト共ニ露營シ或ハ獨立シテ露營スルコトアリ今示サント

露營所ハ歩兵大隊ニ於ケル大行李相合シテ露營ヲナス場合ニテ大行李又ハ小行李ノ各獨立スルカ若クハ他部隊大行李ノ露營

ニ在テハ此要領ニ準スルモノトス

一 行李ハ常ニ横隊ヲ以テ露營シ小行李ハ大行李ノ右翼ニ位置ス兩行李ノ間隔ハ八歩(六米各馬ノ間隔ハ三步(二米)兩列ノ距離ハ四歩(三米)トス第一列ハ號令ニ從ヒ轉回シ第二列ニ對向シ其正面幅ヲ領ス

然ル後荷物ヲ卸脱シ各列ノ後方六歩ノ處ニ集積ス

荷物卸脱後總員ノ二分ノ一ヲ以テ繫杭ニ駢植シ或ハ繫馬索ヲ張リ然ル後馬繫ス

戰備ノ度脱鞍ヲ許ストキハ馬具ハ各馬列ノ後方三步(二米)ニ置ク大行李監視員ノ乘馬ハ其兩翼ニ二列トナシ小行李監視員ノ乘馬ハ其第一列大隊長ノ副馬ハ第二列ノ右翼ニ置ク

二 其他ノ設備ハ圖ノ如シ(附表第一)

警報ニ際リ監視員ハ直ニ人員検査ヲ行ヒ駄載セシメ出發準備ヲ
ナシ大隊長ニ報告スヘシ

第三章 輜重

第一一八 各縦列病院等梯隊ニ編合セラレタル時其宿營法ハ一地
ニ開進スルコトナク沿道ノ諸村落ヲ利用シ數團トナリ宿營スルモノ
トス

第一一九 宿營中梯隊ノ各部ハ自ラ必用ノ警戒ヲナサ、ル可ラス
形勢殊ニ危殆ナルトキハ護衛兵ヲ附セラル、モノトス

第一二〇 時ノ形勢之ヲ許ストキハ設營隊ヲ派遣シ之ヲシテ宿營
ノ設備ヲナサシムルヲ要ス此設營隊ノ人員ハ該時ノ景況若クハ部隊
ノ大小ニ依リ定ムヘシト雖トモ糧食縦列ニ在テハ概ネ半縦列長一名
曹長給養掛喇叭手各一名トス妨ナキトキハ之ニ行李分隊ヲ屬ス

設營隊ハ指示セラレタル舍營地若クハ露營地ニ到着スレハ其設備ヲ
ナシ然ル後曹長若クハ軍曹一名縦列ヲ迎フルモノトス
第一二二 舍營ノ設備ハ第一ニ馬繫場車廠飲馬場ヲ撰定シ次ニ炊
事場及宿舍ノ配置ヲ定ムルモノトス之ニ關シ遵守スヘキ要領左ノ如
シ

一、馬繫場ノ撰定ハ須ラク注意ヲ加フヘシ馬匹ハ可成森林其他樹木
ノ在ル地ニシテ風雨ヲ避ケ得ル所ヲ撰フヘシ

二、馬繫場トシテ適當ナル森林ハ地面平坦乾燥ニシテ樹木ノ切株等
馬蹄ヲ傷クルモノナク樹木ハ其徑約三十珊知米突以下ニシテ其
間隔馬體ヲ容ル、ニ適シ其枝葉ハ樹幹ノ上部ニ於テ繁茂セルモ
ノヲ可トス

但其他雜木蔚茂セル森林殊ニ竹藪ハ決シテ馬繫場ニ用ユ可ラス

三、樹木疎散ナル森林ニ馬繋場ヲ設クルトキハ之ニ繋馬索ヲ張リ馬匹ヲ繋クヘシ若シ全ク樹木ナキ地ニ在テハ約十米突ノ間隔ニ杭ヲ駢植シテ之ニ繋馬索ヲ張ルモノトス

四、馬繋場ハ建制區隊ニ從ヒ境界ヲ定ムルヲ可トス如此スレハ監視ニ便ニシテ投宿出發ノ諸動作殊ニ不意ノ出發ニ際シ混亂ヲ豫防スルヲ得

五、飲馬場ハ水質ノ良否ニ從テ撰定スヘキモノニシテ清潔ノ河水ヲ第一トシ井水之ニ次キ沼澤ノ死水ハ已ムヲ得サルトキノミ之ヲ用ヒ海水ハ決シテ飲馬水ニ供ス可カラズ

河水ノ質純清透明ニシテ惡臭ナク砂礫上ヲ流走スルモノハ最も善良ナル飲馬水ニシテ市府村落ヲ流過スル河川ノ水ハ通常汚物ヲ含有スルモノナリ

沼澤ノ死水ハ魚鱗生活シ水草繁殖シ有機物溶解シ在ルヲ常トス然レトモ已ムヲ得サレハ飲馬水ニ供スルヲ得ヘシト雖トモ蛭ノ浮游セルモノハ決シテ其儘之ヲ用ユ可ラス

六、現在ノ河岸ヲ直ニ飲馬場ニ用ヒ得ルコト難キヲ常トス故ニ多少工事ヲ施シ同時ニ可成多數ノ馬匹ヲ飲水セシメ得ル構造ヲ爲スヲ緊要トス

七、適當ノ飲馬場ナク或ハ其地水量ニ缺乏スルトキハ飲水ヲ水與器ニ酌ミ馬匹ニ與フルヲ要ス然ルトキハ一日一馬ニ少クモ五升乃至八升ノ比例ヲ以テ要量ヲ積算スヘシ

八、車廠ハ可成馬繋場ノ近傍廣キ空地ニシテ出入容易ナルヲ良トス之レ縦列不時ニ發途スルコトアルモ混雜ナク迅速ニ準備ヲナシ得ルヲ以テナリ

車廠ハ全縦列一所ニ撰定スルヲ可トス然レトモ止ムヲ得サレハ
 二三ヶ所ニ分離シ或ハ廣キ道路上ニ設クルコトアリ然ルトキハ
 不時ノ發途ニ對シ深ク顧慮スルヲ要ス
 九、炊事場ハ本部ノ近傍ニシテ水利及各小隊トノ交通ヲ顧慮シ設備
 スルヲ可トス而シテ認識ニ便ナル爲メ晝間ハ標旗、夜間ハ燈火ヲ
 掲ク可シ
 十、糧秣分配ノ爲メ糧食ハ炊事場近傍、馬糧ハ馬繋場附近ニ分配所ヲ
 設備ス可シ
 十一、縦列等ノ給養ニ要スル物資ノ購買若クハ徵發ヲ行フトキハ其
 數量ト之ヲ收納スヘキ場所並時刻ヲ嚴達スルヲ要ス
 十二、本部ハ合營地ノ中央若クハ夫ヨリ前方ニシテ主道ニ沿ヒ交通
 便ナル地點ニ撰定シ認識ノ爲メ標旗、燈火ヲ掲クルコト炊事場ニ

同シ

兵舎ニ充ツル家屋ハ各馬繋場ヨリ遠隔セサルモノヲ撰フ可シ若
 シ家屋ノ數稀少ナレハ村落露營ノ法ヲ應用スルモ馬匹保護ニ對
 シテハ充分注意セサル可ラス
 宿舎ノ區分ハ建制區隊ニ從ヒ之ヲ定メ分隊以下ニ分割スルコト
 ナシ若シ止ムヲ得ス之ヲ區分スルコトアルモ每宿舎必ス一名ノ
 幹部ヲ附スルモノトス
 宿舎ハ可成階下ヲ使用シ而シテ其入口ニハ隊號及人員ノ數ヲ記
 シタル票紙ヲ掲ケ小隊長以上ノ宿舎ニハ職姓名ヲ記ス可シ此票
 紙ハ合營ヲ撤去スルトキ悉皆之ヲ除去スルコトヲ忘ル可ラス
 第一二二一 露營地ノ撰定ハ平坦乾燥ニシテ且隱蔽シ飲水、薪材、穀物
 秣藁ノ需用品ニ缺乏セサル地ヲ撰ム可シ又可成風力ヲ防遏シ且ツ周

圍共ニ馬匹ノ出入ニ妨ナキヲ要ス疎開セル森林其他樹木ニ馬匹ヲ繫
 キ得ル地ハ最モ便利トス
 若シ久シク露營セサルヲ得サルトキハ低地ニシテ周圍蔭蔽セルヨリ
 モ高地ニシテ且開轄ナル地ハ健康ニ利アリトス
 第一二二三 露營地ノ炊事場ハ其地區内ニ設クルモノナリト雖モ近
 傍ニ人家アルトキハ勉メテ之ヲ利用スヘシ但シ風ノ方向ハ常ニ顧慮
 スルヲ要ス

其一 糧食縦列

第一二一四 糧食縦列ハ全縦列一所ニ宿營スルヲ良トスト雖モ土地
 ノ景况ニヨリ若干部ニ區分セサルヲ得サル場合多シ若シ小隊毎ニ宿
 營區域ヲ定ムルトキハ各小隊長ヲシテ其區域内ニ於テ車廠馬繫場飲
 馬場及宿舍ヲ撰定セシムルコトアリ但シ行李分隊ハ可成炊事場附近

ニ合營スルモノトス

第一二一五 糧食縦列宿營地ニ到着シ各小隊長命令ヲ受領セハ車廠
 馬繫場飲馬場ヲ實見シ車廠ノ編成馬繫ノ順序ヲ定メ然ル後小隊ヲ誘
 導シ車廠ニ進入シテ脱駕シ次ヲ馬繫場ニ至リ第一〇三ニ示ス動作ヲ
 ナスモノトス但シ縦列長自ラ縦列ヲ誘導シテ車廠ヲ編成スルトキ各
 小隊長ハ脱駕ノ後馬繫場飲馬場ヲ實見スルモノトス
 行李分隊ハ指定セラレタル場所ニ荷物ヲ卸脱シ然ル後車廠若クハ馬
 繫場ニ至ルモノトス

第一二一六 糧食縦列ノ露營スルニ當リテハ縦隊横隊ヲ半縦列毎ニ
 側方ニ旋回シテ車廠ヲ作り各車ノ間隔ハ四步(三米突)兩列ノ距離ハ六
 步(四米突)トス各小隊ハ輓馬ヲ脱駕シ右向ヲナシテ行進シ車廠ヨリ六
 步ノ距離ヲ取リタル後左方ニ正面シテ其位置ヲ定メ馬列ヲ成形ス馬

列中各分隊ノ間隔ハ四步(三米突)各馬ノ間隔ハ三步(二米突)兩列ノ距離ハ四步(三米突)トス而シテ第一列ハ號令ニ從テ轉回シ第二列ニ對向シ其正面幅ヲ領ス

然ル後總員ノ二分一ヲ以テ馬ヲ保持セシメ繫杭ヲ駢植シ或ハ繫馬索ヲ張リ馬繫ノ準備ヲ爲ス

馬具ハ各馬列ノ後方三步ニ置キ武器及裝具ハ休宿地ノ前方五步ノ地ニ置ク縱列長、第一半縱列長、曹長、給養掛、炊事掛及第一半縱列ニ屬スル喇叭手ノ乘馬ハ第三小隊馬列ノ右翼兩列ニ軍醫、獸醫、炊事掛及第二半縱列ニ屬スル喇叭手ノ乘馬ハ第六小隊馬列ノ右翼兩列ニ置キ小隊長ノ乘馬ハ其小隊ノ右翼ニ位置ス

行李分隊ハ脫駕ノ後左向ヲナシテ行進シ前文ニ準シテ各馬ノ位置ヲ定ムルモノトス其他詳細ノ設備ハ圖ノ如シ(附表第二)

第一二二七 舍營、露營ノ如何ヲ問ハス 鞍馬車廠ヲ退去スレハ車廠司令ハ豫備卒ヲ集合シ小隊毎ニ車輛ノ手入積荷ノ修正ヲナサシム

車輛ノ手入ハ時間ヲ有スルニ從ヒ可成綿密ニ行フヘシト雖モ穀内ノ手入及塗脂ハ必ス之ヲ行フヘシ

第一二二八 宿營ニ於ケル舍營(露營)司令官ハ縱列長ニシテ宿營ニ關スル一般ノ指揮ヲ掌リ馬繫場ニ關スル事項ハ馬繫場擔任半縱列長(宿舍及衛兵ニ關スル事項ハ宿舍擔任半縱列長之ヲ執行スルモノトス)

第一二二九 宿舍ニ於テハ半縱列毎ニ小隊長一名、小隊毎ニ分隊長一名ヲ以テ日直ノ勤務ニ當テ小隊長一名ヲ車廠司令トナス又最近縱列ヨリ大隊本部(梯隊本部)ノ風紀衛兵トシテ輪卒若干名ヲ出スモノトス

但半縱列以下ニ於テモ毎小隊ニ分隊長一名ヲ日直トス

縱列ノ風紀衛兵司令ハ小隊長ヲ以テ之ニ任シ其衛兵ハ舍營ニ在テハ

縱列本部前ニ露營ニ在テハ衛兵所前ニ一哨ヲ出スモノトス然レトモ之ヲ要スレハ數個ノ哨兵ヲ要點ニ出シ警戒ニ任ス可シ又別ニ車廠衛兵司令一名及同衛兵若干ヲ置キ風紀衛兵司令ノ指揮ニ屬ス諸號音ハ通常之ヲ用ヒサルモノトス然レトモ若シ之ヲ用ユルトキハ衛兵ニ於テ之ヲ吹奏ス

風紀衛兵司令ハ宿營中ノ靜肅清潔ヲ維持スル爲メ之ヲ要スレハ巡察ヲ出シ且自ラ之ヲ行フヘシ

第一三〇 日直及衛兵ノ特別勤務規定ハ縱列長ノ命令ニ據ルヘシ

其二 馬廠、架橋縱列、野戰病院、野戰電信隊及獨立旅團糧食縱列
第一三二 馬廠、架橋縱列及獨立旅團糧食縱列ノ宿營ニ關シテハ糧食縱列ノ要領ニ準據スヘシ但シ露營ノ設備ニ在テ馬廠ハ分隊縱列ヲ外隊毎ニ側方ニ旋回シタル隊形ヲ以テシ其地積ハ縱百八十米突橫約

百米突ニシテ架橋縱列ハ小隊正面ノ部隊縱隊ヲ側面ニ旋回シタル隊形ヲ以テシ其地積ハ縱二百九十米突橫百米突トス
騎兵旅團糧食縱列ノ露營ニ要スル地積ハ縱百九十米突橫二百四十五米突ニシテ野戰砲兵旅團糧食縱列ハ縱三百十米突橫百五十米突トス但此縱列ニ在テハ其蹄鐵分隊ハ獨立シテ縱列ノ左翼ニ車廠及馬繫場ヲ設クルモノトス

第一三二 野戰病院、野戰電信隊ニ屬スル輜重人馬車輛ノ露營ハ當該部隊炊事線ノ後方ニ於テ糧食縱列ニ準シ設備ス可ク又其舍營モ糧食縱列ノ要領ニ準ス

第四編 輸送及糧秣補充

第一章 輸送物品ノ管理

第一三三 各幹部ハ輸送スル物品ニ對シ之ヲ受領セシ時ヨリ交付スルニ至ルマテ其管理ノ責ニ任ス但架橋縱列ノ材料ハ工兵監視員ト共同管理スルモノトス

第一三四 各幹部ハ常ニ物品ノ梱包ニ注意シ若シ破損等アレハ速ニ修理ヲ加ヘ又腐敗及濕氣ヲ豫防スルコトニ深ク顧慮ス可シ殊ニ豫備携帶糧秣ヲ輸送スル糧食縱列ニ在テハ天候善良ナル休日ヲ撰ミ之ヲ乾燥シ以テ腐敗等ノ生スルコトヲ豫防ス可シ但密閉シアル梱包ヲ開發スルハ縱列長ノ命令ニ據ルモノトス

第一三五 如何ナル場合ト雖モ行李輻重ハ其積載スル物品ヲ自己ノ給養ニ使用スルヲ禁ス

第一三六 不時ノ事變ニ際シ輸送物品ヲ耗失シ若クハ損害シ其用ニ適セサルニ至レハ速ニ其旨ヲ所屬長ニ報告スヘシ

第一三七 各幹部ハ其部下ノ車馬ニ積載スル物品ノ種類並現在量ハ各手簿ニ記載シ常ニ明カナルヲ要ス

第二章 糧秣補充(縱列ヲ除ク)

第一三八 宿營地ニ於テ大行李高級監視員ハ所屬部隊長ヨリ糧秣ノ補充ヲ命セラレタルトキ次級監視員ニ命シ所要ノ駄馬ヲ引率シ定時限ニ指定ノ分配所ニ至リ糧秣ヲ受領セシム

第一三九 次級監視員ハ部下ヲシテ駄馬附載品及裝具ヲ除去セシメ(雨覆、外套、水筒ハ此限ニアラス)遅クモ定時限十分前ニ指命ノ地點ニ至リ糧秣ヲ受領シ駄載シテ歸來スルモノトス

第一四〇 糧秣補充ノ際ハ輻重兵ノ外其部隊ノ陸軍計手若クハ下

士一名ヲ派遣シ受領ノコトニ任セシム若シ此等ノモノ派遣セラレザルトキハ監視員ハ糧秣傳票ヲ携行シ分配所ニ於テ之ヲ糧餉部員部員アラサルトキハ糧食縦列長ニ渡シ其記載高ニ應シ糧秣ヲ受領スヘシ

第一四一 總テ分配所ニ於テハ命セラレタル分配所規定ヲ嚴守スヘシ

第五編 小行李戰場ノ勤務

第一四二 戦闘開始ニ當リ第一線大隊ノ小行李ハ其隊ノ後方ニシテ指定セラレタル地ニ止マリ機ニ應シ命ヲ受ケ進退スルモノトス

第一四三 攻撃戦ニ於テハ彈藥ノ分配ヲ容易ナラシムル爲メ小行李中ノ彈藥駄馬ハ一時他ノ駄馬ト分離シ火線ノ背後ニシテ可成之ト遠隔セシ且掩蔽シタル地ニ位置スヘシ此位置ハ通常孤立大隊ニ在テ

ハ糧餉隊併立大隊ニ在テハ援隊ノ附近トス然レトモ事急ナルニ及ヘテ危險ヲ顧ミス火線ニ近邇ヲ勉ム可シ但シ二百米突以内ニ近ク可ラズ

彈藥駄馬ヲ他ノ駄馬ト區分スルトキハ小行李監視員ハ彈藥駄馬ニ屬シ器具衛生材料駄馬等ノ監視ハ輸卒中組長適任ノモノニ命スルモノトス

第一四四 戦闘間小行李監視員ハ常ニ所屬隊ノ進退ニ注意シ其所ニ在テ失ハサルヲ勉メ小行李ノ位置ヲ轉ス可キ時ハ敵ノ通視ヲ避ケ彈丸ヲ遮蔽シ得ヘキ地物ニ據リ所屬隊ノ隊形ニ基キ縦隊或ハ横隊ヲ以テ歩度ヲ速メテ躍進スヘシ

第一四五 彈藥ヲ分配スルニ當リテハ歩兵ノ助力ヲ受ケ彈藥箱ヲ卸脱シ其空箱ハ之ヲ積載シ必要ノ時機ニ於テ下スヘキ大隊長ノ命令

蓋キ步兵彈藥縱列ノ寶箱ト交換シ補充ヲ受クルモノトス
第一四六 步兵駄載器具ヲ交付スヘキ命アルトキハ監視員ハ器具
 駄馬ヲ引牽シ所要ノ地點ニ進ミ之ヲ交付シタル後遮蔽物ヲ利用シテ
 隱匿モシメ器具ヲ使用終ルヲ待タシメ監視員ハ彈藥駄馬ノ所在ニ歸
 還スベシ

假崩帶所開設ニ際シ衛生材料交陪ノ要領モ亦同シ

第二四七 工兵中隊ノ器具駄馬ハ中隊長ノ指定セル地點ニ於テ駄
 載器具ヲ又衛生隊ノ衛生材料駄馬ハ崩帶所ヲ開設スルニ方リ醫扱及
 擔架ヲ崩帶所ニ擔架ヲ擔架中隊ノ集合場ニ於テ卸脱シ然ル後妨トナ
 タサル地點ニ集合シアルモノトス

第二四八 豫備タル大隊工兵中隊并ニ衛生隊ノ小行李ハ常ニ其隊
 へ鐵籠ヲ共ニ連動スルモノトス

第六編 鐵道輸送

第一章 通則

第二四九 本編ハ輻重兵人員馬匹並ニ各種荷物ヲ鐵道ニ搭載卸下
 スル方法ヲ規定シ併セテ輸送一般ノ要領ヲ指示スルモノトス其搭載
 卸下法ハ糧食縱列ヲ基本トシ順序ヲ示スト雖モ此要領ハ以テ輻重一
 般ニ適用シ得可シ

第一五〇 搭載ニ供スル車輛ニ二種アリ一ヲ客車一ヲ貨車ト云フ
 客車ハ人員ヲ載セ貨車ハ荷物或ハ馬匹ヲ搭載スルモノニシテ無蓋有
 蓋貨車ノ二種アリ貨車ハ其種類多クシテ容積及重量ニ依リ幅員ヲ異
 ニス而シテ容積四乃至七噸重量五乃至十噸ノ各種アリ茲ニ普通多ク
 使用スル數種ノ有蓋貨車ニ就キ幅員ヲ示ス左ノ如シ但無蓋貨車ノ短
 側及長側ハ概ネ有蓋貨車ニ同シ

容積	積重	量短	側長	側	邊緣ノ高
有蓋貨車	四噸	六噸	一、米八四	四、米五九	一、米八一
全	五噸	五噸	一、米九六	四、米五五	一、米七五
全	六噸	七噸	一、米九九	五、米五一	一、米九七
全	七噸	七噸	一、米九八	五、米四九	一、米九九
全	七噸	十噸	二、米〇九	五、米五六	一、米九九

備考 無蓋貨車邊緣ノ高サハ各噸共ニ三十珊知乃至六十珊知ノ各種アリ

第一五一 有蓋貨車ニハ雨露ヲ厭ヒ燃燒シ易キ荷物ヲ搭載シ無蓋貨車ニハ多少雨露ヲ被ムルモ障害ナク火片ヲ受クルモ燃燒スル等ノ患ナキ荷物ヲ搭載スルモノトス
糧食品ハ雨露ノ爲メ腐敗スルノ恐アルヲ以テ無蓋貨車ニ搭載セサル

モノトス乾草藁等ノ如キ火災ノ虞アル物品ヲ止ムヲ得ス無蓋貨車ニ搭載スルトキハ必ス雨覆ヲ用ヒテ全部ヲ掩フヲ要ス
馬匹ノ輸送ニハ厩車、有蓋貨車、角獸車ヲ使用スルモ厩車、角獸車ハ其數

僅少ナルヲ以テ多ク有蓋貨車ヲ用ユ
有蓋貨車缺乏セル場合ニハ馬匹ヲ無蓋高側板貨車(側板ノ高サハ一米二〇以上)ニ搭載スルコトナリ然ルトキハ豫メ之ニ馬繫ノ裝置ヲナスヲ要ス

第一五二 一列車ヲ以テ輸送スヘキ部隊ノ指揮官ハ輸送指揮官通常其列車ニ乗組ム可キ高級故參ノ將校(下士)ノ任スル所ナリ

第一五三 輸送指揮官ハ鐵道ニ由テ輸送スル人員馬匹荷物ヲ百般ノ方法ヲ用ヒ嚴正ニ整頓スヘシ然レトモ列車ノ發着等ニ干涉セス鐵道吏員ノ職域ヲ侵ス可ラス

輸送指揮官ハ鐵道運輸上ノ規則ニ就テハ唯輸送スル人馬荷物ノミナ
ラス其一身モ亦鐵道吏員ノ所定ニ從ハサル可ラス

第一五四 輸送指揮官ハ直屬上官ヨリ軍用輸送券及輸送時間表ヲ
受領ス軍用輸送券ニハ發着停車場并ニ發着時刻等ヲ記載シ輸送時間
表ニハ長ク停止スル停車場或ハ之ヲ略スルモ給養停車場及時刻ハ必
ズ之ヲ明記シアルモノトス

第一五五 軍隊ハ發車ノ遅延スヘキ原因ヲ惹起シ或ハ發車時刻ヲ
遅延スヘキ請求ヲ爲スヲ得ス

逐次ニ輸送スル鐵道ニ在テハ其豫定ノ計畫ニ妨碍ヲ生スルハ最モ重
大ナル關係ヲ起スモノトス故ニ已ムヲ得サルトキハ食事時間ヲ短縮
シ或ハ之ヲ全廢シ以テ其遅延ノ時間ヲ償フコトアリ之カ爲メ列車長
若クハ驛長ニ要求スル事件ハ輸送指揮官ハ爲シ得ル限リ其要求ニ

第二章 乘車

第一五六 縱列ヲ一地ヨリ他ノ一地ニ輸送スルニ鐵道ヲ利用スル
トキハ豫メ其準備ノ完全ナルヲ以テ至要ノ事トス之カ爲メニハ通常
其前日ニ可成一將校(時宜ニ因リ輸送指揮官)ヲ停車場ニ派遣シ停車場
司令官若クハ驛長ト乘車ニ關スル諸事ヲ協議セシム即チ整列場乘車
場交通路及輸送準備ノ時間輸送準備ニ要スル使役兵ノ員數等ヲ定メ
所費ノ材料ヲ取集ス

第一五七 輸送指揮官ハ乘車前若干時ニ至リ一將校及若干ノ下士
兵卒ヲ停車場ニ派遣シ停車場司令官驛長ト協議シ搭載ニ要スル細部
ノ諸準備ヲナサシム即チ乘車スヘキ將校及下士兵卒ノ人員ニ應シテ
乘車ヲ配賦シ之ヲ其長俣ニ標記シ(客車番號及人員ヲ記ス馬匹ノ數ニ

應シテ貨車ノ數ヲ定メ之ニ番號ヲ附シ又各種荷物ノ爲メニハ無蓋及有蓋貨車ノ數ヲ定メ停車場ニ進入スヘキ順序ニ應シテ荷物貨車ヲ豫定シ以テ各貨車ノ長側ニ荷物ノ名稱及數量ヲ記シタル張紙ヲ貼附シ或ハ之ヲ白書シ以テ人ヲシテ人馬荷物ノ配賦ヲ一目瞭然タラシム可シ而シテ無蓋貨車ノ長側板ヲ垂開シ有蓋貨車ノ戸ヲ開キ棧橋ヲ架シ要スレハ之ニ藁蓆等ヲ布キ且貨車内ニハ繫馬索ヲ以テ若クハ他ノ索繩或ハ木材ヲ以テ胸網若クハ胸板ヲ張ルノ準備ヲ爲ス若シ馬匹ヲ繫留スヘキ準備ナキトキハ之ニ要スル鐵鎖ヲ裝着シ又要スレハ束藁ヲ以テ鞍枕ヲ製ス其他火災ヲ豫防スヘキ水桶束藁不時ノ事變ヲ通報スヘキ信號旗又ハ馬匹車ニ備フヘキ小量ノ乾秣等諸種ノ準備ニ遺漏ナキヲ要ス

右ノ諸準備完全ニシテ且指揮官及兵卒搭載ノ動作ニ熟スルトキハ一

列車ニ乗載シ得ヘキ輻重ノ乗車ニハ約一時三十分乃至二時間ヲ費スヲ以テ足レリトス

第一五八 搭載ニ要スル集合場ハ停車場ニ進入スルニ便ナル地ニテ一縱列ヲ集合スルニ足ルヘキ場所ヲ良トスト雖モ此幅員ナキ時ハ數ヶ所ニ撰定シ要スレハ停車場内ノ靜肅及軍紀ヲ維持スル爲メ哨兵ヲ配置スル準備ヲ爲シ置ク可シ

第一五九 輻重ノ乗車ハ列車ヲ連置シ其乘車ヲ各車同時ニ一側ヨチ行ハシムルヲ可トス或ハ列車ヲ分置スルヲ要スル時ト雖モ一列車ヲ三停車場ヨリ多ク分割セサルヲ要ス然ルトキハ人員馬匹荷物ハ各別ニ搭載ス第一ノ場合ニ在テ馬匹ト荷物トヲ同時ニ搭載スヘキ時ハ人員材料ノ配賦ヲ酌量スルヲ要ス

第一六〇 縱列停車場ニ着スレハ集合場ニ集合隊形ヲ作り荷物ヲ

卸脱シ車廠、軌馬列ヲ編成シ然ル後縱列長(若クハ輸送指揮官)ハ搭載ニ要スル人員ノ配附並必要ノ件ヲ指示シ且半縱列長若クハ小隊長ニ馬四荷物車輛ノ各擔任司令ヲ命ス

第二六一 乗車ヲ執行スルトキ本教程ニ示サ、ル號令ノ外ハ場合ニ應スル適當ナル號令詞ヲ用ヒ之ヲ快活ニ發唱スルヲ要ス決シテ號令詞ニアラサル言詞ヲ唱フルコトアルヘカラス

第二六二 停車場近傍ニ在テハ號令ニ小笛ヲ使用スルヲ嚴禁トス

其一 荷物ノ搭載

第二六三 荷物擔任司令ニ任セラレタル半縱列長若クハ小隊長ハ命令ヲ受クルヤ配賦セラレタル人員ヲ俾メ(分隊長ハ司令ノ正面ニ歩ハ地ニ二列各兵ハ分隊長ノ後方ニ歩ノ地ニ二列ニ整列ス)裝具ヲ脱シ

之ヲ定所ニ置カシメ搭載スヘキ荷物ノ種類ト貨車ノ員數トニ依テ其人員ヲ三分シ其一部ヲ運搬ニ他ノ一部ヲ搭載ニ充テ荷物ノ順序及種類ヲ示シ其各部ノ指揮官分隊長ニ命ス然ル後司令ハ搭載時間ニ至ルハ左ノ號令ヲ下ス

列車に積め

此號令ニテ運搬部ハ荷物ヲ搭載スヘキ貨車ノ一側ニ運搬シ來テ搭載部ニ渡シ搭載部ハ貨車ニ在テ之ヲ受ケ順序正シク搭載ス可シ

第二六四 各種荷物ノ搭載ハ左ノ要領ニ依ル

貨車一輛ニ搭載スル荷物ノ員數ハ歐數若クハ車數ニ依テ定ム故ニ貨車ノ容積ニ餘裕アリト雖モ之ヲ充塞セサルコトアリ

荷物搭載ノ爲メ一貨車ニ要スル人員ハ種類ニ依テ異ナリト雖モ概テ四名乃至八名トス之ヨリ多キトキハ却テ混雜ヲ生スヘシ

以ノ如キ偏平ノ荷物ハ平ラニ置キ彈藥箱ノ如キ角形ノ荷物ハ之ヲ并
 桁ニ重積シ共ニ前後兩短側ヨリ始メ中央ニ於テ終ル如クス
 架橋材料ハ板橋桁等ヲ長側ト平行ニ併ヘ之ヲ下層トナシ其上ニ舟體
 (分解シテ)ヲ立テ兩短側ヨリ中央ニ向ツテ對向スル如ク數個ヲ抱合シ
 其一側ニ生スル空隙ニハ冠材、脚材、負桁材、鈎篙、棧等ノ長材ヲ重積シ對
 向セル鐵舟ノ間ニ生シタル空隙ニハ鐵索、綱、緊木、細具、袋、雜具、袋ヲ積ム
 電信材料ハ一方ノ短側ニ器具箱ヲ他ノ短側ニ絡車ヲ積ミ兩側ヨリ中
 央ニ積ミ來リ而シテ天幕、梯子、踏板、其他器具等ハ中央ノ空隙ニ積載ス
 若シ駄馬具ヲ馬匹ト各別ニシ貨車ニ搭載スルトキハ力木ヲ短側ト平
 行シテ三脊ヲ併ヘ各六脊ヲ重積シ充分間隔ヲ閉テ兩短側ヨリ積ミ中
 央ニ於テ終ル
 凡テ荷物ノ搭載ニ於テ空隔ヲ存シ遊動ノ原因ヲ生セシム可ラス又

物體ニ依リ莖莖等ヲ下間ニ挾ミ毀損摩擦ヲ防ク手段ヲナスヘシ

第一六五 荷物ノ搭載終レハ長側板ヲ起シ或ハ棧橋ヲ撤シ之ヲ貨

車内ニ整置シ全ク搭載ヲ終リ指定ノ地ニ集合シ裝具ヲ着ケ以テ乗車
 ノ命令ヲ待ツ此時尚ホ未ダ搭載ヲ終ラサル部隊アレハ協力セシムヘ
 シ

總テ荷物車ニハ火災ノ虞アル物品ヲ積載セシ時ノ外看守兵ヲ置クコ
 トナキヲ以テ最後ノ注意周到ナルヲ要ス可シ

一 其二 車輛ノ搭載

第一六六 輻重車輛ノ搭載ニ三法アリ

- 其一 車輛ノミ分解シタル搭載 二輪輻重車
- 其二 車輪及轆木ヲ分解シタル搭載 四輪輻重車
- 其三 車輪ト前軸ヲ分解シタル搭載

第二六七 車輪ヲミ分解シタル搭載法ハ輸送後直ニ縱列ヲ運轉スル場合ニ用ヒ車輪及轆木ヲ分解シタル搭載法ハ鐵道輸送ヨリ直ニ船舶輸送ニ移ル場合等ニ用フルモノトス

第一六八 車輛搭載前準備スヘキモノ左ノ如シ

一、枕 一車輛ニ四個宛

車輛用ノ荷網ヲ應用シテ之ヲ作ル其形狀稍楕圓ニシテ長ヲ約二十珊知米突中徑約十五珊知米突トス其法荷網ノ中央ヲ車臺ノ幅丈ケ餘シ其兩端ヨリ卷キテ之ヲ作ル故ニ荷網一條毎ニ二個ノ枕

ヲ用イ得

二、荷網 一貨車ニ十二條宛

一輛重車附屬ノモノヲ應用ス

三、小綱 一車輛ニ一條宛車輛附屬ノモノヲ應用ス

轆木ヲ分解シタル搭載法ノミニ用フ

第二六九 車輛ヲ搭載ハ豫備卒ノ任スル所トス此時列車ノ都合ニ依リ搭載ヲ爲サ、ル小隊アルトキハ搭載小隊ニ協力スヘシ

第一七〇 車輛擔任司令ハ搭載準備ノ爲メ左ノ號令ヲ下ス

一、車輛ヲ解け (車輛と轆木を解け)

此號令(四輪輻重車ハ車輛を解け)ノ號令ノミヲ用ユルモノトスニテ分隊長ハ司令ノ正面ニ歩ノ地ニ一列各兵ハ分隊長ノ後方ニ歩ノ地ニ二列ニ整列ス茲ニ於テ小隊長ハ裝具ヲ脱シ之ヲ定所ニ置カシメ一組トナリ車輛ヲ分解スヘキ人員ヲ告示シ解散シテ車輛(車輛及轆木)ヲ分解セシム其法三人一組トナリ二輪輻重車ニ在テハ一人ハ轆木間ニアツテ兩手ニテ轆木ヲ高ク上ケ他ノ二名ハ車輛ノ兩側ニ在テ車輛ヲ脱シ終リ小轆帽及軸轄ヲ車輛ニ依メ而シテ車輛ハ屬スル車輛ノ後方ニ内

方ヲ下ニシ重子置キ(轅木ハ轅接鐵ヨリ解キ隔錐ヲ外側ニシ前後各二
 ケ所ニ於テ小綱ヲ以テ縱木ニ結着ス)又四輪輻重車ニ在テハ一名ハ轅
 木間ニ在ツテ縱軸栓及同割栓ヲ抽キ縱軸ヲ下方ニ脱セシム同時ニ他
 ツ二人ハ後車輪ノ兩側ニ在テ車輪ヲ脱シ終ツテ穀帽及軸轄ヲ車輪ニ
 嵌メ之ヲ屬スル車輛ノ後方ニ内方ヲ下ニシテ重ネ置キ次テ車臺ノ前
 部ヲ杠起シテ前車軸ト分離シ車臺ヲ前車軸ノ直後ニ置キ更ニ前車輪
 ノ兩側ニ移リ後車輪ト同一ノ動作ヲナス此時轅木間ニアル一名ノ兵
 卒ハ縱軸ヲ前車軸ヨリ全ク脱去シ且前車輪分解ノ補助ヲナスモノト
 ス(前車軸ハ轉飯架ヲ上方ナラシムルニ注意スヘシ)逐次此ノ如クシテ
 第二列ヨリ始メ次ニ第一列ニ移リ分解全ク終レハ以前ノ地ニ二列ニ
 集合ス茲ニ於テ司令ハ搭載スヘキ車輛及貨車ノ數ニ依リ其人員ヲ二
 分シ其一部ヲ運搬ニ他ノ一部ヲ搭載ニ充テ各部ノ指揮ヲ分隊長ニ命

ス

第一七 一車搭載時限ニ至リテ車輛擔任司令ハ左ノ號令ヲ下ス

此號令ニテ

人員ハ八名一組トナリ配屬セラレタル貨車ニ至
 リ四名ハ貨車ノ搭載側ニ他ノ四名ハ貨車内ニアツテ貨車ノ短側ト平
 行ニ荷綱四條各三條ツヲ連テ貨車内ニ配置シ餘端ハ貨車ノ長側板上
 ニ垂下シ(附圖第一)搭載準備ヲナス運搬部ノ人員ハ二輪輻重車ニ在テ
 ハ二人一組トナリ第一車臺第二車輪ノ順序又四輪輻重車ハ車臺ノ運
 搬ニ任スルモノハ四人一組其他ノ運搬ニハ二人一組トナリ第一車臺
 第二車輪第三前軸轅木ヲ附着シタル儘ノ順序ヲ以テ車輛ヲ搭載スヘ
 キ貨車ノ一側ニ運搬シ來テ搭載部ニ渡シ搭載部ハ貨車ニ在テ之ヲ受
 メ左ノ方法ニ依リ順序正シク搭載スヘシ但木部鐵部ノ接觸部ニハ荷

網次以之作レ枕等ヲ挿ミ軌條ヲ爲メ毀損等を生セサルニ注意スル
 ヲ要スルハ一節ニテモ、其ノ要領ハ、第一、普通一車ニ三十
 第二車七三三輛重車輛ヲ六噸無蓋車ニ搭載スルハ通常一車ニ三十
 輛輛乃至二十八輛四輪輻重車六十輛乃至十二輛トス其法左ノ如シ
 一、二輪輻重車ニ在テハ荷網掛テ下ニシ車軸ノ一端ヲ貨車ノ長側板
 二、三輪輻重車ノ後端ヲ其短側板ニ接着シ車軸ノ相重テサカサ度トシ
 三、四輪輻重車ノ相對向スル如ク貨車ノ各側ニ車臺三個宛配置ス逐次同
 四、五輪輻重車ヲ以テ六個宛重ネ積ミ次ニ相對向スル車臺ノ中間ニ前方長側板
 六、七輪輻重車ヲ接シ縱ニ車輪ヲ三個並列シ尙ホ之ニ接シ設ク幅間ニ位置スル
 如ク更ニ三個並列シ逐次同法ヲ以テ搭載側ノ長側板ニ至リ尙ホ
 一、殘餘ノ車輪ヲ積ムルニキキ車臺上ニ重ネ積ミ荷網兩覆ハ中央車輪ノ
 上ニ載スルモノトス

一、四輪輻重車ニ在テハ第一ニ搭載スヘキ車臺ハ之ヲ反轉シテ導板
 一ヲ上方ニ向ケ而シテ車臺ノ後端ヲ貨車ノ後部短側板ニ接着セシ
 二、三輪輻重車ノ兩長側板ノ中央ニ置キ次ニ第二ノ車臺ハ導板ヲ下方ニシ車臺
 三、四輪輻重車ノ前部短側板ニ接着セシメテ第一車臺上ニ積ミ其後第三
 五、第七ノ車臺ハ第一ノ車臺又第四第六第八ノ車臺ハ第二ト同
 方法ヲ以テ逐次八個ヲ重ネ積ミ更ニ二個ノ車臺ヲ已ニ積ミ重ネ
 タル車臺ト兩長側板下ノ間ニ在ル空隙ニ各一個宛車軸ノ一端ヲ
 貨車ノ床板ニ接着セシメテ寄セ掛ケ而シテ貨車ノ前部ニ車輪ノ
 内方ラ下ニシテ空隙ヲ生セサル如ク積ミ重ネ其上ニ前軸(轆木ヲ
 附シタル儘ヲ長側板ニ平行シテ十個重疊シ其後端ヲ車臺ニ接セ
 シメ然ル後荷網兩覆縱軸一貨車ニ積載スルモノヲ集メ小綱ヲ以
 テ結束スラ空隙ニ積ムモノトス

以上ノ動作了リタル後最初貨車内ニ配設シタル荷綱ヲ以テ車臺及車輪ヲ緊締シ終テ貨車用雨覆ヲ其上ニ加ヘ貨車用大荷綱ヲ掛ケ之ヲ捫ル(附圖第二第三)

各車臺下ニハ枕ヲ其前後兩端ニ置キ其動搖ヲ防キ尙ホ轆木部鐵部等摩擦ノ慮アル部分ハ藁又ハ藎等ヲ挿ミ損傷ヲ豫防スルヲ要ス
轆木ヲ分解セサル搭載法ニアツテハ相對向セル轆木ヲ摩擦セサル爲メ常ニ同側ニ於テ組合スモノトス

第一七三 電信材料用車輛ノ搭載法ハ二輪輻重車ノ要領ニ從ヒ成ルヘク多數ノ車輛ヲ搭載スルノ方法ヲ執リ實施スルモノトス

總テ輻重車輛ノ搭載ニハ車體ト車輪ヲ分載セサルニ注意スヘシ
第一七四 搭載全ク終レハ指定ノ地ニ集合シ裝具ヲ着ケ以テ乗車ノ命令ヲ待ツ

其三 馬匹ノ搭載

第一七五 馬匹擔任司令タル半縱列長若クハ小隊長ハ輓馬列ヲ分解シテ一列トシ先頭ヨリ番號ヲ唱ヘシメ之ヲ六馬毎ノ各班ニ分チ然ル後乗車堤ニ進入シ其先頭將ニ第一馬匹車ト齊頭ニ到ラントスルトキ擔任司令ハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ進め 止れ

此號令ニテ先頭ヨリ逐次間隔ヲ縮メ各班馬匹ヲシテ其搭載スヘキ車側ニ正對シ駐止整頓セシム次ニ司令ハ左ノ號令ヲ下ス

各班番號

此號令ニテ各班毎ニ番號ヲ唱ヘシム此時二馬ヲ保持スルモノハ二個ノ番號ヲ唱フ可シ

分隊長ハ同班中ノ隣兵ニ自己ノ馬ヲ保持セシメ其分隊ノ正面ニ出ツ

次ニ司令ハ左ノ號令ヲ下ス
 奇(偶)數兵馬を持て 鞍を卸せ
 此號令ニテ奇(偶)數兵卒ハ二馬ヲ保持シ而シテ偶(奇)數兵ハ自己ノ馬匹ヨリ脫鞍シ各馬ノ直後ニ米突ヲ隔テ一線上ニ整置ス此時小隊長分隊長ノ乘馬ヲ有スル班ハ先ツ其乘馬ヨリ脫鞍スルモノトス
 鞍具ヲ脫スルヤ鞍鞍上ニ頸上革、後喉革、鞅網鞅及袴革ノ順序ニ重ネ鞍下毛布四ツ折リトナシタルモノヲ以テ之ヲ卷キ結揚ニテ鞍鞍ノ穹隆部ニ就テ數回卷キテ之ヲ締ム又乘馬具ハ鏡ヲ騎坐革上ニ十字ニ掛ケ腹帶ヲ其上ニ載セ鞍下毛布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
 右ノ準備終レハ一名ハ第一號馬匹ヨリ車内ニ牽入ル、準備ヲナシ他二名ハ棧橋ノ側ニ至リ乘車ノ助手ヲ爲ス
 寒氣殊ニ甚シキトキハ馬匹ニ鞍下毛布ヲ着スルコトアリ然ルトキハ

結揚若クハ小綱ヲ以テ之ヲ締ムヘシ
第一七六 乘車準備全ク終レハ擔任司令ハ左ノ號令ヲ下ス

列車に乗せ

此號令ニテ各班第一號馬ヲ車内ニ導キ車中ニ入り左方ヘ轉回シ次テ左方ヘ再ヒ轉回シテ其馬ヲ入口ニ反セル長側ニ添ヒ頭ヲ貨車ノ中央ニ向ハシメ牽綱控綱(乘馬ハ野繫繩)ヲ以テ隔棒ノ銀(天井ニ定着セル鐵)ニ繫キ次ニ第二號馬ヲ導テ車中ニ入り之ヲ退却セシメ第一號馬ノ右方ニ駢接シ之ヲ繫カシム
 第三號馬ハ車中ニ導キ之ヲ退却セシメ既ニ駢列セル第二號馬ノ右方ニ入レ前ト同法ヲ以テ之ヲ繫ク
 第四號馬ヲ導キ車中ニ入り右方ニ轉回シ次ニ右方ヘ再ヒ轉回シテ入口ニ反セル長側ニ沿ヒ馬頭ヲ貨車ノ中央ニ向ハシメ前ト同法ニ從ヒ

其馬ヲ繫ク次ニ第五號馬ヲ導キ車中ニ入り退却ノ法ヲ以テ既ニ繫ケル馬匹ノ左方ニ駢接シ以テ第六號馬モ同法ニ依リ之ヲ繫ク

第一七七 馬匹ヲ搭載シ終リ空手トナリタル兵卒ハ逐次乗車ノ助手ニ加ヘ繫索ヲ以テ胸綱胸板ヲ張ラシム即チ車ノ兩入口ナル柱ニ定着セル環ニ貫通シテ緊張シ終レハ棧橋ヲ脱シテ之ヲ貨車ノ中央ニ二列ニ重疊ス要スレハ助手ヲシテ二個ノ鞍枕ヲ車内ニ送ラシメ車内ノ兵ハ兩馬列間ノ空部ニ於テ反對入口ニ接シ馬列ト平行シテ之ヲ棧橋上ニ併列ス(鞍枕ハ束藁ヲ以テ之ヲ作ル其形三角柱體ニシテ長サ零米八十高サ零米四十トス此柱體ハ中徑約零米二十五長サ零米八十ナル圓筒柱三個ヲ併接シテ縛紮ス)

輓具乗鞍者クハ馱鞍ハ三脊ヲ重ネ鞍尾ヲ入口ノ方ニ向ハシメ入口ニ反スル方ヨリ始メ枕上ニ二列ニ安置ス而シテ第一號馬ノ鞍上ニハ第

二號第三號馬ノモノ第四號馬ノ鞍上ニハ第五號第六號馬ノ鞍ヲ重ネルヲ法トス

馬糧囊ハ輓具第二列ノ側方入口ノ方ニロラ内方ニシ其三個ヲ積ミタルモノ四個併置シ水與器麥袋繫馬索ハ順序正シク其上ニ置ク爲シ得レハ小量ノ乾秣ヲ各馬匹車内ニ備フルヲ良トス

然ル後各兵ヲ客車前ニ集合シ乗車ノ命令ヲ待ツ此時各班ノ第一第二號兵(第一第二第三號兵)ハ車中ニ留リ看守兵ト爲ル看守兵ハ輓具ノ積載終レハ直ニ入口ニ綱ヲ張り且僅ニ空隙ヲ存シテ入口ヲ閉ツ

第一七八 馬匹搭載ニ當リ若シ頑抗乗車ヲ嫌フトキハ他ノ馬匹ヲ誘導シ頑馬ハ之ヲ尾シテ入ラシム可シ此種ノ馬ヲ搭載スルニハ二名ノ助手尾根ヲ上ケテ其後方ヨリ強ク押シ其進入ヲ促ス可シ又ハ兩眼ヲ縛シ若クハ棧橋前ニテ二三回連續旋回セシメ直ニ之ヲ誘導シ或ハ

飛節ノ上方ニ小綱ヲ懸ケ左右同時ニ之ヲ引キ車内ニ導クヲ良トス
 第二七九 馬匹搭載ハ各班同時ニ搭載スルト奇偶二班ヲ合シ逐次
 搭載スルトノ二法アリ其第二法ニ在テハ奇數班ヲ先ニシ偶數班ニ及
 マ可キモノトス

其四 人員ノ乗車

第一八〇 客車ニハ其入口ノ側ニ乗車スヘキ人員ヲ標記シアルヲ
 以テ荷物車輛馬匹搭載後各小隊長ハ兵卒ヲシテ裝具ヲ執ラシメ客車
 前ニ整列セシム茲ニ於テ輸送指揮官ハ小隊長ヲシテ各客車ニ乗車ス
 ヘキ人員ヲ配當セシム次ニ乗車ヲ命ス各小隊長若クハ分隊長ハ部下
 ヲ率ヒテ順序正シク乗車シ其位置ヲ指示シテ榻床ニ倚坐セシメ裝具
 ハ之ヲ榻下或ハ足間ニ置カシム搭載全ク終レハ衛兵ヲ撤シ前記ノ法
 ニ由リ乗車セシム

軍隊ノ乗車ハ遅クモ發車時間五分前ニ於テ必ス之ヲ終ルヲ要ス輸送
 指揮官ハ各擔任司令ヲ從ヘテ檢査ヲナシ然ル後乗車ノ終了セルコト
 ヲ停車場司令官(驛長)ニ申告ス
 車窓ハ別命ナケレハ開放シ入口ヲ開閉ハ鐵道吏員ニ委任ス可シ

第三章 運行

第一八一 輸送指揮官ハ半縱列長若クハ小隊長ニ客車馬匹荷物及
 車輛貨車ヲ配當シテ之カ監視ニ任セシム又客車毎ニ高級故參者ヲ以
 テ班長トナシ其取締ニ任ス
 運行中各車ノ班長ハ車内ノ秩序ヲ維持シ且與ヘラレタル命令ヲ遵守
 セシムル任務ヲ有ス又班長ハ特ニ注意シテ命令ナク一人モ下車セシ
 メサルヲ要ス
 班長ハ運行中大ナル異變例之人馬ノ生命ニ關スル事件等發生スルト

キハ豫定ノ記號ヲ以テ之ヲ急報シ其他ノ事故ハ直ニ臨機ノ處置ヲナシ時機ヲ得ルニ從ヒ上官ニ報告スルモノトス

第一八二 五分以下ノ停車ニアリテハ全ク下車スルヲ許サス全員各個ノ下車ヲ許スハ少クモ十分間停車スル停車場ニ限ルモノトス
輸送指揮官ハ發車前ニ於テ下士兵卒ノ下車シ得ヘキ次停車場ヲ驛長又ハ列車長ヨリ申告ヲ受クモノトス
列車停止スレハ驛長ハ直チニ停車時間ヲ輸送指揮官ニ報告シ然ル後先ツ將校ノ車ヲ開扉スルモノトス
各個ノ下車ヲ許シタルトキハ半縱列若クハ小隊長ハ其車ヲ出テ、下車シタル兵卒ノ其坐席ニ歸着スルヤ否ヲ監視シ且班長ヲシテ報告セシムベシ
第一八三 輸送指揮官及半縱列長小隊長ハ停車ノ時ヲ以テ馬匹、荷

物車輛車輿車ヲ監視セシム

第一八四 長時間停車シ下車シテ兵員ノ休憩ヲ許スヘキトキハ輸送指揮官ハ先ツ半縱列長及小隊長ヲ下車セシメ再ヒ乗車スヘキ時刻其他必要ニ命令ヲ下シ衛兵ヲシテ所要ノ哨兵ヲ配置セシメ豫メ停車前其準備ヲ要ス然ル後進メノ號令若クハ號音ヲ用井兵卒ヲ下車セシメ客車前ニ整列セシメ引導シテ休憩所ニ至ルヘシ
給養ノ爲メ下車スヘキトキハ其停車場ニ到着セサル前下車ニ際シ携帶スヘキ品目ヲ豫告スヘシ兵卒ハ武装スルコトナク食器其他必要ノ品目ノミヲ携帶ス
給養停車場ニ於テハ馬匹看守兵及衛兵ハ輪番ニ交代シテ喫食セシム若シ時間乏シキトキハ食品ヲ送與スヘシ
再ヒ乗車スヘキ時限ニ至レハ輸送指揮官ハ氣を付けノ號音ヲナス此

號音ヲ各班長ハ兵卒ヲ車前ニ誘導シテ人員ヲ検査シ乗車セシム
 半縱列長、小隊長ハ缺員ノ有無ヲ檢シ衛兵ヲ撤シ輸送指揮官ハ列車ヲ
 巡檢スルニト發車停車場ニ於ケル如シ
 第三、八五番乗車中遵守スヘキ禁令概ネ左ノ如シ
 第一、車中ニ於テ爆藥其他爆裂ノ虞アル物品ヲ弄スヘカラス
 第二、運行間車外ニ頭又ハ手足ヲ出スヘカラス
 第三、客車入口ノ扉ヲ開クヘカラス
 第四、貨車入口ニ坐シ又ハ貨車ノ側板ニ腰ヲ掛クヘカラス
 第五、大聲放歌シ又ハ小笛若クハ之ニ類似スル音響ヲ發スヘカラス
 第六、安リニ車中ノ位置ヲ變換スヘカラス
 第七、安座ニ下車スヘカラス
 第八、車輪裝備品ヲ毀損シ其他車内ヲ不潔ナラシムヘカラス

九、此藥類、弩銃ヲ載セタル車中ニ於テ喫煙スヘカラス
 十、寒冷ノ候葉ヲ客車内ニ敷キタルトモハ車内ニ於テ喫煙スヘカ
 ラス

十一、特ニ許可ナケレバ刀ヲ脱シ又ハ脚絆ヲ脱スヘカラス
 第十二、馬四看守兵ノ任務ハ左ノ諸項ノ如シ

- 一、汽笛ノ聲アルカ或ハ出發若クハ停止ニ方リテハ温言ヲ以テ馬
 匹ヲ慰撫シ其沈靜ヲ勉ム可シ又運行中ト雖モ動搖多キ時或ハ
 音響強キ時等ハ時々慰撫スルヲ要ス
- 二、各馬匹貨車ノ入口ハ僅ニ餘隙ヲ存スル如ク之ヲ鎖スヘシト雖
 モ馬匹鎮靜ナルニ至レハ僅カニ之ヲ開クモ妨ケナシ
- 三、運行中重大ナル異變例之人馬ノ生命ニ關スル如キ事件發生ス
 ルトキハ豫定ノ記號ヲ爲シ以テ之ヲ急報スヘシ其他ノ事故ハ

- 直ニ臨機ノ處置ヲナシ停車中時機ヲ得ルニ從ヒ直屬上官ニ報告スルモノトス
- 四 運行間ハ時々馬匹ニ乾秣ヲ與テ而シテ其消耗量ハ停止ノ時報告ス可シ
- 五 長キ運行ニ在テハ馬匹沈靜ナル時ヨリ緊張セル控綱ヲ緩メテ稍々自由ヲ與ヘ而シテ乘馬ハ野繫勒ト喰換ヘ駄馬ハ轡銜ヲ脱シ之ヲ束ネテ鞍上ニ置キ下車若干分前ニ至レハ勒ト喰換ヘテ爲シ下車ノ際混雜ナキニ注意ス可シ
- 六 看守兵ノ交代ハ通常二乃至三時間毎ニ列車停止ノ場合ニ於テス
- 七 長キ運行ニ在テハ飼養豫定ノ停車場ニ到レハ麥袋ニ麥ヲ入レ之ヲ與テ又水與テ爲メニハ水與器ニ水ヲ汲ミ助手ヲシテ之ヲ

搬致セシムルヲ以テ看守兵ハ之ヲ受取リ各馬ニ分與スヘシ然レトモ行程十二時以上ニ至ラザレハ通常水與スルコトナシ
 車中ニテハ一水與器ノ水ヲ以テ二馬ニ與フルヲ程度トス

第四章 下車

- 第一八七 下車停車場ニ到着スヘキトキハ豫メ其前ノ停車場ニ於テ一般ニ知得セシメ武裝ヲ完備シ且下車ニ要スル諸準備ヲ整頓セシムヘシ
- 第一八八 乘馬ニ野繫勒ヲ裝シアレハ馬匹看守兵ハ勒ト改裝シ鞍馬ニハ銜ヲ喰マシムルヲ要ス
- 第一八九 下車停車場ニ着スレハ輸送指揮官ハ先ツ半縱列長小隊長及衛兵ヲ下車セシメ所要ノ哨兵ヲ配置シ集合場及交通路ヲ實視シ各部卸下ノ擔任司令及人員ノ配附ヲ定メテ之ヲ達シ其他必要ノ命令

注意ヲ與ヘ然ル後兵員ヲ下車セシム

其一人員ノ下車

第一九〇 輸送指揮官ヨリ下車ノ命令アレハ分隊長及兵卒ハ順序正シク靜肅ニ下車シ客車前ニ二列ニ整列セシム茲ニ於テ各部ノ卸下擔任司令ハ所屬ノ人員ヲ集メ裝具ヲ定所ニ脱セシメ卸下準備及卸下ヲ爲ス

其二 馬匹ノ卸下

第一九一 縱列長輸送指揮官下車ヲ命スルヤ馬匹擔任司令ハ所屬ノ兵卒ヲ集メ所定ノ位置ニ裝具ヲ置カシメ之ヲ馬匹車ノ前ニ導キ其馬匹ノ所在ヲ示シ馬匹看守兵ヲシテ出口ノ方ヨリ逐次ニ鞍ヲ取リテ之ヲ車外ノ兵卒ニ渡サシム車外ノ兵卒ハ之ヲ運ヒテ列車ヨリ四乃至六米突ヲ隔テ鞍尾ヲ列車ノ方ニシテ一線上ニ整列ス

次ニ車内ノ兵卒ハ鞍枕及棧橋ヲ出ス車外ノ兵卒ハ鞍枕ヲ運ヒ去リ棧橋ヲ架シ然ル後助手ハ其側方ニ位置ス右ノ準備終レバ司令ハ左ノ號令ヲ下ス

列車より卸せ

此號令ニ於テ左(右)方馬列ノ胸綱胸板ヲ解カシメ第一號馬ヨリ順次ニ導キ車ヲ出テ之ヲ其鞍ノ後方約二米突ノ所ニテ貨車ヲ背ニシテ整列セシム但第一號馬ヲ出スヤ之ヲ助手ニ渡シ更ニ車内ニ歸テ第二號馬ヲ誘導ス此時一名ノ助手ハ橋側ニ在テ馬匹ノ誘出ヲ助ケシム馬匹ヲ貨車ヨリ誘出スルニハ最モ緩徐ナルヲ要ス然ラサレハ馬匹ハ速ニ貨車ヨリ出ントシテ騷擾シ棧橋ヲ飛越シ又ハ貨車ト乗車堤トノ間隙ニ陥入シ負傷スルコトアリ

各看守兵ハ馬匹悉皆下車スレハ胸綱胸板ヲ脱シ之ヲ鞍ノ位置ニ運

七機橋ヲ撤シテ之ヲ所定ノ場所ニ整備シ定位ニ就キ自己ノ馬匹ヲ受取ル可也

第一九二 馬匹悉皆下車スレハ司令ハ左ノ號令ヲ下ス
鞍を設け

此ノ令ニテ小隊長ハ兵卒ヲシテ輓具ノ結束ヲ解キ之ヲ馬背ニ裝シ裝具ヲ取り然ル後定位ニ就カシメ小隊長ハ擔任司令ニ報告シ命ヲ待ツ可シ

時宜ニ依リ下車停車場ニ着スル前馬匹看守兵ヲシテ輓具ヲ裝セシムルコトアリ

其三 車輛ハ卸下

第一九三 縱列長(輸送指揮官)下車ヲ命スルヤ車輛擔任司令ハ所屬ノ兵卒ヲ集メ所定ノ位置ニ裝具ヲ脱シ人員ノ區處ヲ定メ然ル後左ノ

號令ヲ下ス

列車より卸せ

此號令ニテ卸下及運搬部ハ貨車ニ至リ卸下部ハ車輛ヲ取テ運搬部ニ授ケ運搬部ハ之ヲ指定ノ位置ニ運ヒ二列ニ排列スルコト全ク搭載ト反對ノ操作ヲナス卸下全ク終レハ擔任司令ハ卸下及運搬部ノ人員ヲ合シテ車輪(車輪及轆木)ヲ裝シ車廠ヲ作ラシム

其四 荷物ノ卸下

第一九四 縱列長(輸送指揮官)下車ヲ命スルヤ荷物擔任司令ハ所屬ノ兵卒ヲ集メ所定ノ位置ニ裝具ヲ脱シ人員ノ區處ヲ定メ長側板ヲ垂下シ或ハ機橋ヲ架シ然ル後左ノ號令ヲ下ス

列車より卸せ

此號令ニテ卸下及運搬部ハ貨車ニ至リ卸下部ハ荷物ヲ取テ運搬部ニ

授ケ運搬部ハ之ヲ示定ノ位置ニ運ヒ整頓スルコト全ク搭載ノ時ト反
對ノ操作ニ依リ卸下ス可シ

第七編 船舶輸送

第一章 通則

第一九五 本編ハ輻重兵人員馬匹並ニ各種荷物ヲ船舶ニ搭載卸下
スル方法ヲ規定シ併セテ輸送一般ノ要領ヲ指示スルモノトス其搭載
卸下法ハ糧食縦列ヲ基本トシ順序ヲ示スト雖モ此要領ヲ以テ輻重一
般ニ適用シ得可シ

第一九六 海運ニ使用スル船舶ハ總テ汽船ニシテ勉メテ大ナルヲ
要ス馬匹ヲ輸送スルモノハ毎ニ然リトス
凡テ發船地ヨリ送達地ニ到ル迄ハ其船舶ヲ變換セサルヲ通則トス

第一九七 部隊ノ乗船上陸ヲ指揮シ且其内部ノ秩序ヲ嚴正ニ保持
スル爲メ各船舶ニ輸送指揮官ヲ置ク此指揮官ハ通常其船舶ニ搭載ス
ルキ部隊ノ高級故參者ヲ以テ之レニ充ツ

第一九八 敵地ニ在テ行フヘキ上陸及乗船ノ動作ハ夜間ニ於テス
ル場合多キヲ以テ注意周到ニシテ畫策違算ナク毎ニ馬匹ノ搭卸ヲ誤
ルナキヲ要ス

第一九九 上陸ノ成否ハ搭載法ノ適否ニ原因ス故ニ荷物及馬匹ヲ
搭載スルニ當テハ意ヲ用ヒ着港後先ツ卸サント欲スルモノハ最後ニ
搭載ス可シ亦重量ノ物ハ下方ニ輕量ノ物ハ上方ニ置クヘシ然ラサレ
ハ上陸ニ當テ混雜ヲ生スルノ害アリ

第二〇〇 乗船上陸ハ其時機一定シ難シト雖モ可成滿潮ノ時ヲ計
リ其動作ヲ執行スルモノトス

第二一〇 一 乘船ニハ荷物(車輛及馬匹)ヲ先トシ人員ヲ最後トス其乘船及上陸ニ要スル時間ハ天候ノ良否埠頭ヨリ船舶ニ至ル距離ノ遠近乗船上陸準備ノ完否及小汽船ノ有無ニ依リ著シク差異ヲ來ス可キモノトス

第二章 乘船

第二一〇 一 各團隊長ハ晚クモ其船舶出帆ノ時限二十四時前ヲ要ス所要ノ職員ヲ乘船スヘキ碇泊場ニ派遣シ運輸通信官衙或ハ兵站官衙ト交渉シ乘船ニ關スル諸準備ヲナサシメ其報告ニ基キ輸送指揮官ニ乘船ニ關スル命令ヲ與ヘ且輸送券ヲ交付ス

第二一〇 二 輸送指揮官(縱列長)ハ乘船開始概ネ三時間前所要ノ職員及使役兵ヲ船舶ニ差遣ス此職員ハ監督將校若クハ船員ト協議シ居室馬欄及材料置場ヲ配當シ其所定ノ區畫ニ從ヒ將校ノ官氏名部隊ノ番

號拜ニ員數ヲ揭示シ又荷物馬匹ノ搭載ニ要スル諸物件ノ準備完全ナルモヲ點檢シ意見アレハ之ヲ監督將校若クハ船員ニ通告スヘシ其物件概ネ左ノ如シ

- 一 鈎揚網 一條 船起重機用豫備
- 二 吊網 六條 長サ六十米徑二十五密理馬箱或ハ容積大ナル荷物鈎揚
- 三 鈎卷(第四圖) 六個 一荷物重機揚ニ少クモ三個
- 四 馬絡(第五圖) 六個 一馬起重機揚ニ少クモ三個
- 五 小網 若干 長サ六米徑八密理具捆包用
- 六 懸帶鈎(第六圖) 馬數ニ同シ 麻布製用
- 七 桶、手桶 十頭ニ付一個 既用
- 八 囊播、箒 二十頭ニ付一個 既用
- 九 提灯、蠟燭 一甲板ニ二若クハ三個 既用

- 一 消毒藥 若干 既用 格發兒 石灰ヲ攪用ス
- 二 清涼劑 若干 既用 各馬ニ硫酸曹達十五瓦ノ割
- 三 壓搾秣、麥 若干
- 四 麥粉、穀 若干

第一〇四 輸送指揮官、縱列長ハ適時ニ乘船場ニ至リ整列場、埠頭若クハ棧橋、解纜等ニ關シ運輸通信官、衛若クハ兵站官、衛ト所要ノ協議ヲナシ部隊到着セハ之ニ乘船ノ準備ヲ爲サシムルモノトス

- 第二〇五 縱列乘船ニ當リテハ縱列長ハ部下下士ニ乘船指揮ノ分擔ヲ命ス其ノ大要左ノ如シ
- 一 荷物及車輛擔任司令 下士一名ニ兵卒二名ヲ屬ス
 - 二 馬匹擔任司令 下士一名之ニ兵卒二名ヲ屬ス
 - 三 運送船ニ移リ搭載一般擔任司令 下士一名之ニ兵卒二名ヲ屬ス

第一〇六 糧食縱列ハ乘船場ニ至レハ集合場ニ集合隊形ヲ遣リ荷物ヲ卸脱シ車廠及鞍馬列ヲ編成シ車輛ハ分解シ馬匹ハ脫鞍セシメ乘馬ハ勒ト野繫勒ト喰換ヘ而シテ各小隊長ハ馬匹疾病ノ有無ヲ檢査シ豫メ準備シアル物件ヲ以テ馬具及飼養具ノ梱包ヲ爲ス其要左ノ如シ

- 一 乘馬具ハ一脊毎ニ笠ヲ騎坐革上ニ十字ニ舉ケ勒ヲ鞍褥下ニ置キ勒下毛布ヲ以テ之ヲ包ミ野繫韁ヲ以テ堅ク纏結シ標牌ヲ付スヘシ
- 二 鞍具ハ一脊毎ニ頸上革、緩喉革、鞍網及袴革ノ順序ニ鞍鞍上ニ重テ結揚ヲ以テ其穹隆部ニ於テ數回卷キテ之ヲ締メ鞍下毛布ヲ以テ之ヲ包ミ小綱ニテ堅ク纏結シ標牌ヲ付スヘシ
- 三 水與器、手入具、馬糧囊等ハ成シ得レハ分隊毎ニ一ニ取纏メ小綱ヲ以テ堅ク之ヲ捆リ標牌ヲ付ス可シ

第二〇七 馬匹乗船前ニハ可成其體力ヲ熾盛ナラシム可カラス否
 ラザレハ乗船ニ際シ騷擾蹴跳ノ憂アルノミナラス又熱症ヲ惹起スコ
 トアルヲ以テナリ故ニ乗船前若干時間ハ緩徐ノ運動ヲナシメ且可
 成飼量ヲ減スルヲ良トス馬腹飽滿ノ際馬絡ヲ用ヒテ釣上スルトキハ
 頗ル馬體殊ニ腸胃ヲ害ス且減食ノ後乗船セシメハ位置ノ變更ニモ關
 ラス容易ニ食ニ就ク利アレハナリ

其一 荷物ノ搭載

第二〇八 荷物擔任司令ハ乗船スヘキ荷物ヲ検査シ其順序ヲ整ヘ
 而シテ搭載ヲ始ムルニ先テ諸端艇ヲシテ海岸ニ平行密着シテ相並列
 セシメ之ニ荷物ヲ搭載スルヤ逐次ニ船舶ニ向ツテ航進セシム

第二〇九 荷物ヲ搭載セル端艇船舶ノ許ニ到レハ端艇ノ使役兵ハ
 荷物ヲ逐次ニ鈎卷ニ載セ或ハ吊綱ヲ十字ニ懸ケ然ル後起重機ノ鈎ヲ

上ヨリ受取リ確實ニ之ヲ各荷物ノ吊綱ニ嵌入シ落陸ノ虞ナカラシメ
 然ル後之ヲ甲板上ニ鈎揚セシム其起重機ノ使用ハ船員ニ委スルモノ
 トス

小梱包ノ荷物ハ起重機ニ托セスシテ端艇ノ使役兵ニ手渡シスルヲ良
 トス

第二一一〇 船舶ノ使役兵ハ指示セラレタル持場ニ就テ荷物ヲ受取
 リ起重機ノ鈎ヲ外シ荷物ヲ指示ノ位置ニ搬送シ之ヲ正シク船艙内ニ
 積載ス此時船艙内ノ容積ヲ遺漏ナク使用スルニ注意ス可シ

彈藥ハ乗船前之ヲ取纏メ特ニ指示セラレタル場所ニ格納シ而シテ哨
 兵ヲ配置ス

其二 車輛ノ搭載

第二一一一 車輛擔任司令ハ乗船スヘキ車輛ヲ貨車搭載法其二及其

三ニ依リテ分解セシメ順序正シク之ヲ端艇ニ運搬シ逐次船舶ニ向ツ
 テ航進セシム

第一一三 車輛ヲ搭載セル端艇船舶ノ許ニ至レハ端艇ノ使役兵ハ
 車臺三乃至五個ヲ重ネタルモノニ荷綱ヲ堅固ニ十字ニ懸ケ然ル後起重
 機ノ鈎ヲ上ヨリ受取り確實ニ之ヲ十字部ニ懸ケ甲板上ニ鈎揚セシム
 車輛ハ數個同時ニ鈎綱ヲ幅間ニ通シテ之ヲ締メ起重機ノ鈎ニ懸クヘ
 シ成ジ得レハ車輛ハ起重機ニ托セスシテ一個宛端艇ノ使役兵ヨリ船
 舶ノ使役兵ニ手渡スルヲ可トス

第一一四 船舶ノ使役兵ハ指示セラレタル持場ニ就テ車輛ヲ受ケ
 起重機ノ鈎ヲ脱シ指定ノ場所ニ搬送シ正シク之ヲ集積ス
 車臺及車輛ハ荷綱等ヲ以テ堅固ニ結束シ且之ヲ船體ノ部分ニ固定シ
 風波ノ爲メ遊動セザルヲ要ス

第一一四 車輛ノ搭載ハ荷物ノ搭載終リタル後之ヲ行フ順序ト
 ス

其三 馬匹ノ搭載

第一一五 馬匹擔任司令ハ馬匹馬具ノ整否ヲ検査シ乗船ニ先テ端
 艇ヲ集メ然ル後乗船ヲ命ス

小隊長(分隊長)ハ右翼ノ馬匹ヨリ順序ニ導キ馬匹乗船ノ埠頭ニ到リ端
 艇ニ移搭ス兵卒ハ馬ヲ船ト直角ニ位置セシメ且其頭ヲシテ盡ク同方
 向ニ向ハシメ輕牽綱ヲ保持ス

若シ頑抗又ハ恐怖ナル馬アリテ乗船ヲ肯セサルトキハ同一ノ端艇ニ
 搭スヘキ馬ノ内ニテ其順序ニ關ラス最モ沈靜ニシテ恐怖セサル馬ヲ
 撰テ先導セシムルカ若シクハ馬ノ兩眼ヲ縛シ或ハ尾根ヲ上ケテ其後
 方ヨリ強ク押シ其進入ヲ促ス可シ又ハ小綱ヲ飛節ノ上方ニ懸ケ左右

同時ニ之ヲ引キ船内ニ導クヲ良トス此場合ニハ馬ヲ船舶ニ鈎揚クル
 實際シ故ノ順序ニ復スヲ要ス
 使役兵ハ馬匹ノ乘船ヲ助ケ遂ニ馬具ヲ端艇ニ搬致ス時機ニ依リ此馬
 具ヲ馬匹ト各別ノ端艇ニ搭載スルコトアリ
 馬匹擔任司令ハ馬匹及馬具盡ク搭載シ終レハ逐次ニ其端艇ニ搭シ該
 船中ニ在ル使役兵ヲ指揮シテ馬匹等ヲ船舶ニ鈎揚セシメタル後船舶
 ニ移搭ス
 第二一六 棧橋或ハ浮橋ヨリ直ニ馬匹ヲ船舶内ニ牽入ルニハ前條
 ノ要領ニ依ル但乘船場ノ地形此法ヲ許スモ可成之ヲ避ケサル可カラ
 ス此方法ヲ用フルトキハ先ツ其馬匹ヲ上甲板ニ導キ此處ニ於テ馬絡
 ヲ裝シ起重機ニ托シ初メテ第二乃至第三層甲板ニ搭載セサルヲ得テ
 後ハテリ之ニ反シ斯ノ如キ地形ニ在テハ埠頭ニ於テ馬匹ヲ直ニ起重

機ニ托シ鈎揚クレハ事簡ニシテ時ヲ費ス少シ
 第二一七 馬匹ヲ搭載セザル端艇船舶ノ許ニ到レハ端艇ノ使役兵一
 名馬頭ヲ持テ三名ヲ使役兵ハ馬ノ兩側ニ在テ馬絡ヲ裝ス其法馬絡ヲ
 馬腹ニ副テ左右ニ起シ其内一名ノ使役兵ハ馬絡ノ吊縮ヲ保持シ他
 之一名ハ左右ノ結繩ヲ結合シ而シテ起重機ノ鈎ヲ上ヨリ受取テ堅固
 ニ之ヲ吊縮ニ嵌入シ次ニ此二名ノ使役兵ハ馬絡ノ鞅帶ヲ控着シ遂ニ
 鞅帶ニ及フ是ニ於テ船員ハ起重機ヲ使用ス
 馬絡ヲ忌避スル馬ハ其兩眼ヲ掩フ可シ
 起重機ノ運轉ハ船員ニ委ヌルヲ通則トス其要領馬ヲ引揚クルニハ埠
 頭ノ地ヲ離ルコト神速ニ且之ヲ餘口ヨリ下ストキハ最モ徐カナル
 ヲ要ス
 第二一八 船舶ノ使役兵ハ通常左ノ持場ニ就テ馬匹ヲ受取ル一名

ノ使役兵ハ船口ニ在テ馬體ノ船口縁ニ支障セシトスルヲ防キ其他ノ使役兵ハ盡ク船口下ニ在リ

船口下ニ在ル使役兵ハ舖床ノ類ヲ甲板ニ敷キ馬匹ヲ其上ニ卸下シ得ル如ク準備ス已ニシテ船口ヨリ馬匹ヲ鈎下スルヤ一名ノ使役兵馬頭ヲ持チ二名ノ使役兵馬ノ兩側ニ到リ之ヲ舖床ノ上ニ徐ロニ立タシム馬側ニアル兩名ノ一名ハ鞅帶ヲ脱シ他ノ一名ハ韃帶ヲ解キ及馬絡ノ一索ヲ起重機ノ鈎ヨリ脱ス馬頭ニ在ル助手ハ馬ヲ導テ馬欄ニ至リ順次ニ最遠ノ馬欄ニ牽入シ緊張シテ繫キ隣馬ト爭咬スルヲ防ク可シ又辦馬ハ偏隅ノ馬欄ニ繫クヲ良トス

使役兵前項ニ準シテ馬具ヲ受取りタルトキハ指示セラレタル位置ニ搬送ス總テ馬具其他濕氣ヲ含ミ易キ荷物ハ船中乾燥ノ所ニ設置スルヲ法トス

第二一九 便宜ニ依リ馬匹ヲ馬箱ニ收容シ乗船スルコトアリ然ルトキハ先ツ馬ヲ馬箱ノ前方ニ導キ馬箱ノ内ニ退却シツ、入ラシメ然ル後前方左右ノ柱ニ繫キ蓋ヲ閉テ馬腹ニ懸ク可シ埠頭ニ起重機ヲ備ヘ以テ端艇ニ移ストキハ陸上ニ於テ馬匹ヲ馬箱ニ收容スト雖モ埠頭ヨリ直ニ端艇ニ移搭スルトキハ端艇ニ馬箱ヲ置キ移搭ノ際收容ヲ爲スモノトス

第二二〇 船中馬匹ヲ乗船セシムルニハ馬絡ヨリモ馬箱ニスレハ安全ニシテ且馬欄ヲ構造スルノ煩ナキモノナリト雖モ多數ノ軍馬ニ在テハ之ヲ供給シ能ハサル場合多シ故ニ概ネ馬絡ニ依テ乗船上陸ノ動作ヲ爲スモノト思惟セサル可ラス

其四 人員ノ搭載

第二二二 輜重兵ノ乗船ハ單簡ナルコトヲ得ス之レ馬匹車輛及荷

物等ノ搭載ニ分任アレハナリ然レトモ必要ノ他ハ可成集團シテ端艇ニ搭シ以テ船舶ニ到ルヲ要ス總テ乗船時機ニ至レハ先ツ整列シ検査ヲ行ヒ以テ乗船準備ヲナス可シ

第一二二二 荷物車輛及馬匹ノ乗船終レハ陸上ニ在ル將校下士兵卒ハ整列シ而シテ船舶埠頭或ハ棧橋ニ接若スルトキハ一列若クハ二列ヲ以テ順序ニ從ヒ靜肅ニ乗船ス可シ

端艇ヲ以テ輸送スルトキニ每船下士或ハ上等兵ヲ分載シ兵卒ハ乗船前武器裝具等ヲ卸シ之ヲ提携シ乗船セハ順次ニ遠キ所ニ就テ靜坐シ船舶ニ向テ航進中ハ喫煙談話スルコトヲ禁ス

第一二二三 已ニ船舶ニ乗船セハ各自坐席ニ着キ武器ハ之ヲ坐側ニ置キ裝具ハ常ニ結束シ所要アリテ之ヲ解クモ必ス再ヒ之ヲ結束シ決シテ坐席ヲ亂雜セシム可ラス但外蓋ハ使用セサルトキハ之ヲ捲キ裝

具ト共ニ詰クヘシ

下士兵卒ハ先ツ馬匹及屬具ヲ整頓シ然ル後鞍囊ヲ受領シ所定ノ坐席ニ就クモノトス

第一二二四 軍隊ハ乗船時刻午前ナレハ二食分午後ナレハ一食分ノ糧食ヲ携帯スルモノトス但急ニ乗船ヲ要スルトキハ此限ニ非ス

第一二二五 乗船ノ際衛兵ヲ出ストキハ人員馬匹荷物材料ノ乗船終レハ直ニ乗船シ此衛兵司令ハ輸送指揮官ニ乗船完了ヲ報告ス可シ

第一二二六 總テ人員馬匹荷物材料ノ乗船終レハ輸送指揮官ハ監督將校若シクハ船長ト共ニ船内ヲ検査シ且直屬上官ニ搭載完了ノ報告ヲ爲ス此検査スル迄下士卒ハ裝具ヲ開ク可ラス

第一二二七 敵前乗船ノ場合ニ在テハ其搭載ス可キ順序ハ第一人員第二馬匹第三車輛及荷物等ノ如ク總テ貴重ナルモノヲ先トスルヲ緊

要トス而シテ兵卒ヲ濫乗セシメサル爲メ諸端艇ハ其定數ヲ搭載スル
 ヤ決シテ餘兵ヲ顧慮スルコトナク直ニ海岸ヲ離ル、モノトス
 凡ソ敵前ノ乗船ニ在テハ其乗船ヲ争フカ爲ニ端艇ヲ沈没シ全兵舉テ
 死歿スルニ至ル可シ斯ノ如キ場合ニ在テハ斷然兵ノ一部ヲ敵ニ委シ
 他ノ大部ヲ救済スルノ策ヲ執ル可シ

第三章 航海

第二二二八 乗船セル軍隊ハ總テ海運ニ處テ定メタル船則及命令ヲ
 遵守ス可シ船中一切ノ事ハ舉テ監督將校及船長ノ請求ニ應シ陸軍ノ
 將校ハ監督將校及船舶吏員ノ職域ヲ侵スコトナク船則執行ノ責ニ任
 ス

第二二二九 輸送指揮官ハ監督將校、船長ト協議シ左ノ諸項ヲ規定シ
 部下ニ命令スルモノトス

一 船室及馬欄ノ清掃ニ要ス可キ人員配布及其時限

二 哨兵ノ配置

三 食事時限、糧秣分配ノ方法及場所、炊事當番ノ配置

四 圖則ノ區分及面洗所、給水所浴室ノ位置

五 集合ノ方法及其位置

六 入寢起床、消燈時限

七 清潔検査時限時限ハ船日ナクノ清潔検査
時限ト同一ナルヲ其トス

第二二三〇 船中ノ内務ハ左ニ記スル外概テ營中ノ内務ニ異ナルコ
 トナシ

遇番ノ勤務ヲ凡テ日直ニ換フ

縦列ニハ日直士官準士官一名ヲ置キ乗船後直ニ輸送指揮官ノ命ヲ
 奉シ風紀衛兵ヲ備ヘ所定ノ位置ニ哨兵ヲ配置シ又規定サレタル諸

時限ニ各室及馬欄ヲ巡察シ以テ船則ノ遵守ヲ監視ス此日直ニ時ト
 シテ下士ニ代エルヲ得
 日直下士ニ糧秣ノ分配ニ立合並各室及馬欄ヲ巡察ス哨兵及巡察ノ
 最モ注意ス可キハ火災及不清潔ヲ戒ムルニアリ
 第二二二一 諸勤務ノ交代ハ毎日午前ニ之ヲ行フ
 兵卒ノ諸勤務ハ其之ヲ要スル員數ニ應シテ定メ殘餘ノ兵卒ニハ諸般
 ノ摘講ヲナス即チ船中ノ諸規則火災浸水ノ時ニ係ル心得清潔法及整
 頓ニ關スル禁令到着地ノ景況上陸前後ノ諸動作等ノ如シ特ニ長キ航
 海ニ在テハ日々學術ノ演習ヲ行フモノトス
 武器ハ航海中損廢ヲ來スヨト最モ速ナルヲ以テ時々之ヲ検査シ手入
 ノ度ヲ嚴密ニ施行セシムルヲ要ス
 第二二二二 食事ハ船員之ヲ調理ス

第一二二三 風紀衛兵ハ上甲板ニ在リ通常彈藥ノ所在荷物艙庫汲水
 場及炊事場ニ哨兵ヲ配置ス

縱列本部員ニハ當番卒若干馬欄ニハ概テ馬四十頭毎ニ看守兵一名ヲ
 配置ス

第二二三四 診斷ハ衛兵交代時限前ニ於テス

患者ハ離隔シ置ク可シ但傳染病者ハ之ヲ爲シ得レハ病院船ニ送致ス

第二二三五 火災浸水等ニ關スル非常若シクハ警報アルハ集合場ニ

集合シテ命ヲ待ツモノトス

第二二三六 船中ニ於テ一般ニ服膺スルキ要件左ノ如シ

- 一 船橋或ハ前樓ニ上リ舵室機關室及厠厨ニ入リ又羅針盤ノ周圍
 及檣梯ノ近傍ニ佇立ス可ラサルコト
- 二 盥嗽飲食喫煙ハ必ず指定ノ時限ト場所トニ於テシ又船内ヲ汚

二 磯ナラシメタルコト

三 清水ノ使用ヲ節約スルコト

四 其他船内ニ揭示セル禁令ヲ遵守スルコト

第二一三七 輻重兵ノ將校ハ乗船及航海中常ニ馬匹取扱ノ爲メ深ク

注意スルヲ要ス上陸後馬匹ノ健否ハ實ニ此注意ノ多少ニ依ル故ニ將

校ハ時々馬欄ヲ巡視シ馬匹ニ創傷若シクハ疾病ノ徵候ナキヤ、空氣ノ

流通宜シキヤ、馬欄ニ不清潔等ナキヤヲ検査ス可シ

第二一三八 馬匹搭載スレハ直ニ少量ノ乾秣ヲ與ヘ以テ鎮靜ナラシ

ム可シ

乗船後數日間ハ食量ヲ節減シ練飼ヲ専用ス可シ而シテ之ニ清涼劑ヲ

加味シ穀ノ類ヲ多ク與フルヲ良トス斯ノ如クシテ約十日ヲ經過シ始

メテ平常ノ馬糧ニ復シ爾後五日毎ニ麥ノ半量ヲ穀ニ代用スレハ可ナ

ヲ

總テ馬匹ニ秣飼ヲ與フルニハ成シ得レハ之ヲ裁切シ槽内ニ麥ノアヲ

ナルトキ數回ニ與フルヲ要ス

馬匹ハ海上ニ於テ多少苦惱セルノ状態ヲ呈ス波浪稍高キトキハ鬱憂

倦怠シテ食欲減シ粘膜潮紅、腹部捲縮ス且海路ハ便秘ヲ來シ易クシテ

乾燥硬固ナル小塊糞ヲ僅ニ排出ス故ニ此等ヲ豫防スル爲ニ一日一回

ノ食物ヲ練飼ニ換テ與フルヲ良トス

馬匹ニハ毎日二回水與ヲ爲ス其午前ニハ穀或ハ麥粉ヲ交ヘ午後ニハ

少量ノ海水ヲ混入ス可シ

第二一三九 馬糧給養ハ航海中特ニ注意ヲ加ヘ定量ヲ超過セサルコ

ト肝要ナリ若シ食餌其量ヲ過セハ馬匹ノ健康ヲ害スルノミナラス給

養品ノ缺乏ヲ訴フルニ至ル可シ

船中馬匹ニ與スル一日ノ飼糧ハ左ノ標準ニ據ルヲ宜トス

秣 八百五十目 約一升八合

麥粉 約一升八合

水 五升乃至八升

第一四〇 日々ノ馬匹手入ニハ鬃ヲ以テ四肢ヲ摩擦シ且ニ回宛眼

鼻孔陰部ヲ清拭シ鬣及尾ヲ櫛スルニ止ル又防火喇筒ニテ洗滌スル

ハ海水中蹄及四肢ニ灌ク可シ之レ四肢ノ腫脹及蹄炎等ヲ豫防スル

ハ一法ナリ

港灣ニ碇泊スルハ馬ヲ順序ニ馬欄ヨリ出シ舷側路ヲ逍遙セシメ

且管内ノ如ク充分ノ手入法ヲ施ス可シ

長キ航海ニ在テハ波濤靜釋ノ時ヲ量リ時々兵卒ヲシテ藁ヲ以テ四肢

ヲ摩察キシムルヲ要ス之レ長航海ニ在テハ馬體ノ關節凝硬トナルヲ

以テ之ヲ緩和スルノ良法タリ就中上陸後直ニ馬匹ヲ使用セントスル

ハキハ特ニ緊用トス

第二四一 馬欄ニハ舷窓風筒通風機等ニ依リ殊ニ新鮮ノ空氣ヲ流

通キシメ馬體ノ健康ヲ保全スル爲メ醋酸又ハ格魯兒化石灰等ヲ撒布

シ以テ糞尿ヨリ發スル菌類尼亞ノ氣ヲ消滅セシム可シ

第二四二 海上靜穩ナレハ懸帶ヲ以テ馬體ヲ鈎ス可シ風波激烈ナ

ルトキハ之ヲ脱去スルヲ要ス懸帶ハ腔脚ヲ休ムルニ至要ノモノナリ

且雖モ船動體搖ノトキ脱去セサレハ馬體各所ニ抵觸スルノ害アリ此

時馬脚ヲ立タシムレハ能ク船ノ動搖ニ一致シタ己ノ體量ヲ傾斜ノ反

對ニ支持スルヲ得レハナリ

懸帶ヲ以テ馬體ヲ鈎スルニハ常ニ馬腹ニ接セサル如ク些少ノ猶豫ヲ
存シ又馬蹄ノ滑走スルモ之ニ助ケラレテ顛倒モサル如ク其索ヲ緊張
スルヲ要ス

第二一四三 航海中ハ馬匹ノ運動全ク缺乏スルヲ以テ某日數ヲ經過
シタル後ハ著シク疲勞シ四肢ヲ運轉シ能ハサルニ至リ往々蹄炎ヲ發
スルモノアリ而シテ數日間波浪不穩ナルトキハ船中特ニ馬欄ハ空氣
ヲ流通不充分トナリ爲メニ危篤ノ疾病ヲ醸成ス之レ深ク戒慎ス可キ
要點ナリ

第二一四四 將校及下士ハ日々各馬ニ就テ衛生ノ検査ヲ行フ此検査
終レテ其情況ヲ輸送指揮官ニ報告シ併テ馬匹衛生ニ關スル意見ヲ具
申ス可シ

第四章 上陸

第二一四五 上陸ノ方法ハ乗船ノ要領ニ向シ唯其順序之ト相反スル

總テ上陸ノ中途ニ於テ風濤起ルトキハ殊ニ困難ナル動作ナリ然レト
モ上陸中假令日没ニ至リ兵員疲勞ヲ極ムルモ上陸セサル可ラサル場
合ニ在テハ百難ヲ凌キ之ヲ決行スルヲ要ス

第二一四六 上陸ハ諸兵種一船舶ニ搭載セシトキハ第一歩兵第二騎
兵(要領ニ最モ先キ)第三砲兵第四工兵(上陸點ヲ準備スル爲メ)トス輜重兵
ハ最後ニ上陸スルモノトス

第二一四七 數多ノ船舶ヨリ同時ニ上陸ヲ爲ストキハ各其上陸點及
集合場ヲ指示スルモノトス

第二一四八 上陸ノ命アレハ輸送指揮官ハ監督將校若シテハ船長ト
協議シ上陸ニ關スル諸般ノ計畫ヲナシ且上陸準備等ヲ命ス此際下士

乘者ノ獵リニ其位置ヲ去ルヲ禁ス
第一二四九 輸送指揮官ハ軍隊ノ上陸ニ先テ速ニ其地ノ運輸通信官
 衛若クハ兵站官衛ト交渉シ要スレハ將校下士兵卒若干名ヲ可成速ニ
 上陸セシメ上陸ニ關スル百般ノ設備ヲ協議セシメ集合場及荷物ヲ集
 積新ヲ標示シ又要スレハ宿營給養等ノ準備ヲ爲サシム但上陸地ニ是
 等官衛ナキトキハ豫メ受タル命令ノ趣旨ニ從ヒ監督將校(船長)ト協議
 上陸ノ順序方法開始ノ時限等ヲ規定シ投錨後直ニ所要ノ職員及使
 役兵ヲ上陸セシメ準備セシム此レ等職員ノ注意ス可キ諸件概テ左ノ
 如シ
第一二五〇 上陸ニ當リテハ輸送指揮官ハ部下下士ニ上陸動作ノ分
 擔ヲ命ス其大要左ノ如シ
第一二五〇 下士一名之ヲ兵卒二名ヲ屬スル

兵二馬匹擔任司令
第一二五一 上陸點一般擔任司令
第一二五二 各上陸擔任司令
第一二五三 衛兵ノ配屬ヲ要スルニキハ衛兵司令ハ衛兵ヲ隨ヘテ上
 陸ヲ所定ノ位置ニ哨兵ヲ配布シ以テ上陸場内ノ靜肅及風紀ヲ維持ス
第一二五四 人員ノ上陸
第一二五五 人員ノ上陸ハ人員乗船ニ準シテ行ク
第一二五六 人員上陸セハ海濱其リ若干ノ餘地ヲ存シタル處ニ於テ
 整列シ然ル後其集合場ニ到ルニ至ス
第一二五七 馬匹及重陸合
 大馬荷物材料ヲ上陸完了セハ輸送指揮官ハ速ニ之ヲ直屬上官ニ報告
 其
 馬匹及重陸合

第一五五 馬四擔任司令ハ馬匹馬具ヲ船舶ヨリ端艇ニ移搭シ集合場ヲ指示シ馬匹ヲ之ニ導キ使役兵ヲシテ馬具ヲ搬送セシム

第一五六 船舶埠頭ニ接着洋線且上陸材料缺乏シ困難ナク場浴池在テハ馬匹ヲ上陸スルニ游泳法ヲ用フルコトアリ蓋シ馬匹ノ性質自ラ游行シテ陸地ニ到テシコト欲スルモノアリ而シテ馬匹ヲ水中ニ卸スニハ馬絡ヲ施シ制帶ヲ用テ控着シテ之ヲ釣下シ馬體水中ニ遠セ共釣ト馬頭ヲ解脱シ馬絡ヲ外シ游泳セシム兵卒ハ船艇ニ在テ鞭ヲ執リ馬頭ヲ支持シテ之ヲ助成以テ共ニ上陸ス可シ

馬匹ヲ上陸セシメシテ欲スル岸上ニハ必ス若干ノ馬匹ヲ繋留スルヲ要ス是レ水中ニ馬匹ニ陸上ニ馬群ヲ目シテ常ニ其地ニ向テ游泳スルモノナク然レテ然レテ如キ上陸法ハ馬匹ニ後害ヲ殘シ多キヲ以テ萬並ニ得テ命トキニ非ナレ不行フ可クテ

馬匹上陸キハ各小隊長ハ馬具ノ細包ヲ解キ之ヲ馬ニ装着キテ馬具ノ喰糧ヲナシテ可シ

各小隊長ハ馬匹馬具ヲ検査シ其景况ヲ報告シ命ヲ待ツ可シ

第一五七 馬匹上陸終リシ後爲シ得ルトキハ馬匹衛生法ヲ實行ス其要左ノ如シ

馬匹ノ濕潤セルモノハ之ヲ乾シ其脱鐵シタルモノハ之ヲ裝シ一時間常歩ヲ以テ牽運動ヲ行ヒ次ニ少量ノ乾秣ヲ與フヘシ又上陸後一時間ヲ經過セサレハ水與ヲ爲スヲ禁ズ水與ノ際ニハ貪飲ヲ制止シ夫ノ渴後大量ノ流動物ヲ受容シ爲メニ不消化ヲ招クカ如キ害ヲ豫防スルヲ要ス食物ハ漸次ニ常食ニ就カシムヘク便秘スル間ハ練飼ヲ持續スルヲ可トス

其三 車輛ヲ上陸

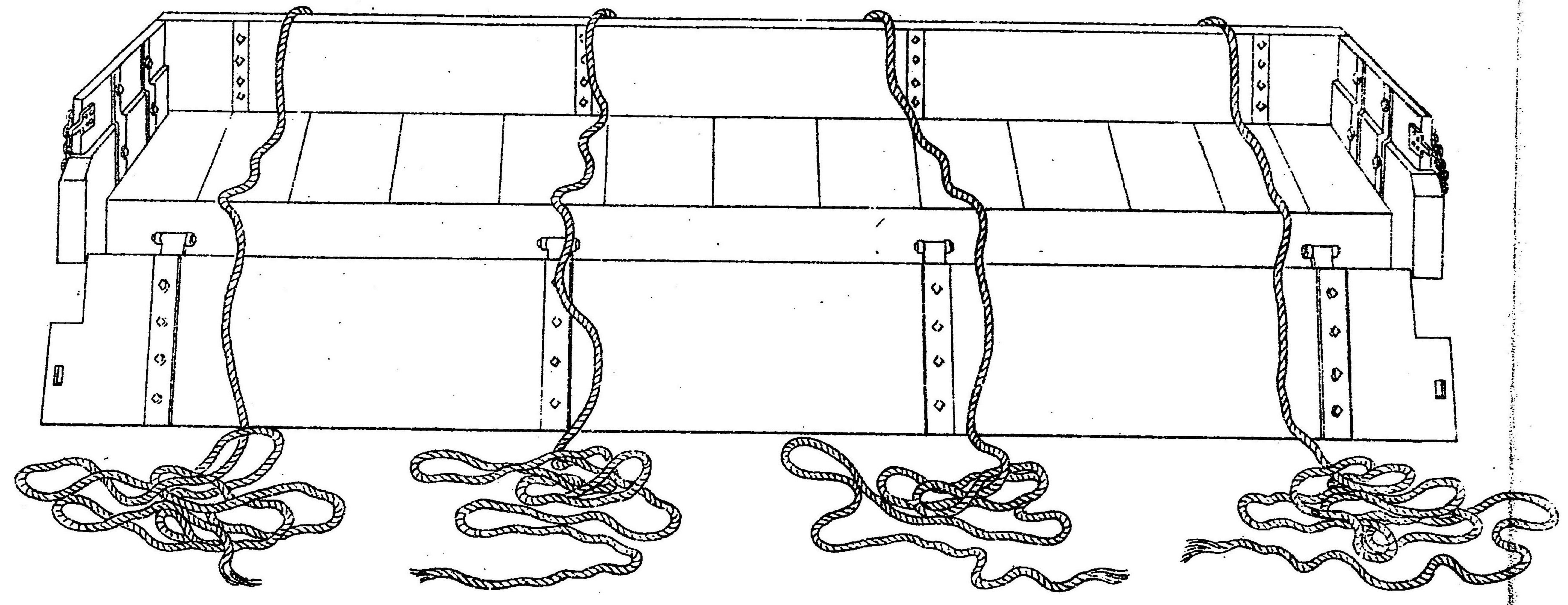
第二一五八 車輛擔任司令ハ車輛ヲ船舶ヨリ端艇ニ移搭シ埠頭ニ至
 テテ端艇埠頭ニ到着スレハ使役兵ヲシテ之ヲ集合場ニ搬送セシム
 第二一五九 車輛ヲ集合場ニ搬送シタリキハ車廠ヲ編成シ得ヘキ
 距離間隔ヲ取リテ小隊順序ニ配列シテ検査シ若シ破損等アレハ直ニ
 報告スベシ而シテ縦列直チニ使用モスル場合ニハ車輛ヲ結合スル
 必要スルニ至ラズ
 第四 荷物ノ上陸
 第二一六〇 荷物擔任司令ハ荷物ヲ船舶ヨリ端艇ニ埠頭ニ到ラシム
 其端艇埠頭ニ到着スレハ使役兵ヲシテ之ヲ所定ノ集積所ニ搬送セシ
 小隊並ニ
 第二一六一 荷物ヲ集積所ニ搬送シ之ヲ整頓スルニハ各小隊混雜ナ
 以テ車輛ニ積載シ得ヘキ集積所時荷物ヲ検査シ梱包等ニ破損成

ハ弛緩等ナルトキハ直ニ修理スルヲ要ス

輜重兵教程 第二部 終

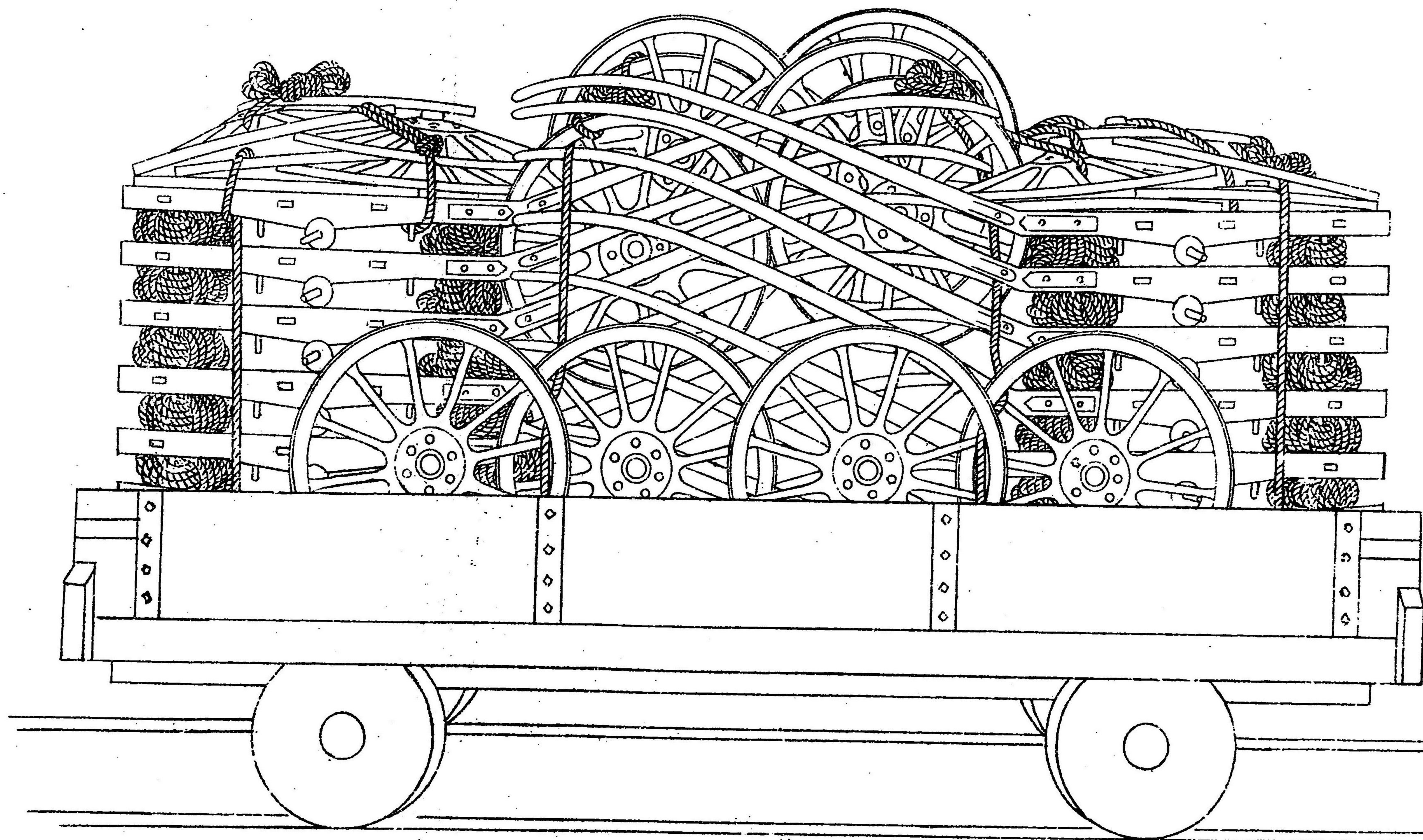
圖ルタニ置配ヲ條四綱荷キ開ヲ板側

附圖第一



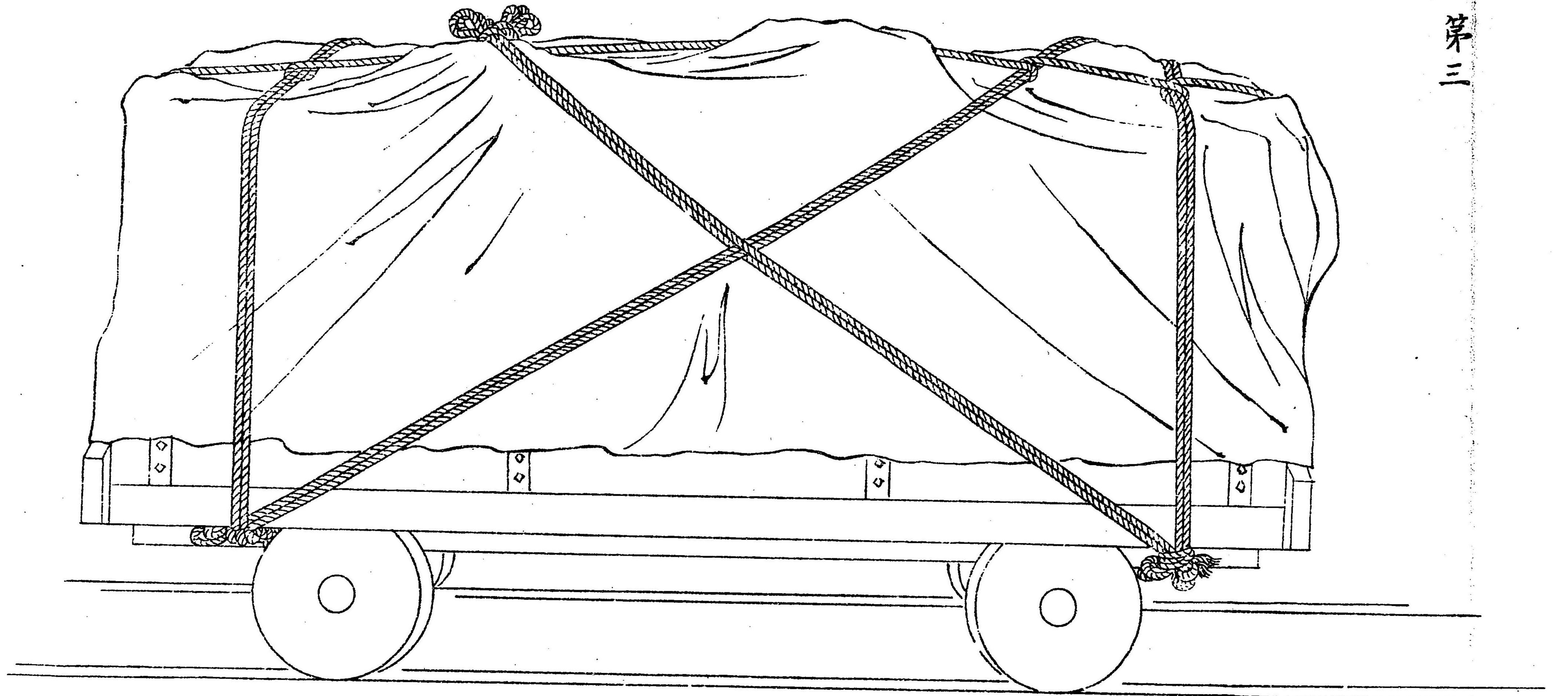
圖ルタシ締緊ヲ輪車及臺車ヲ以テ網荷

附圖第二



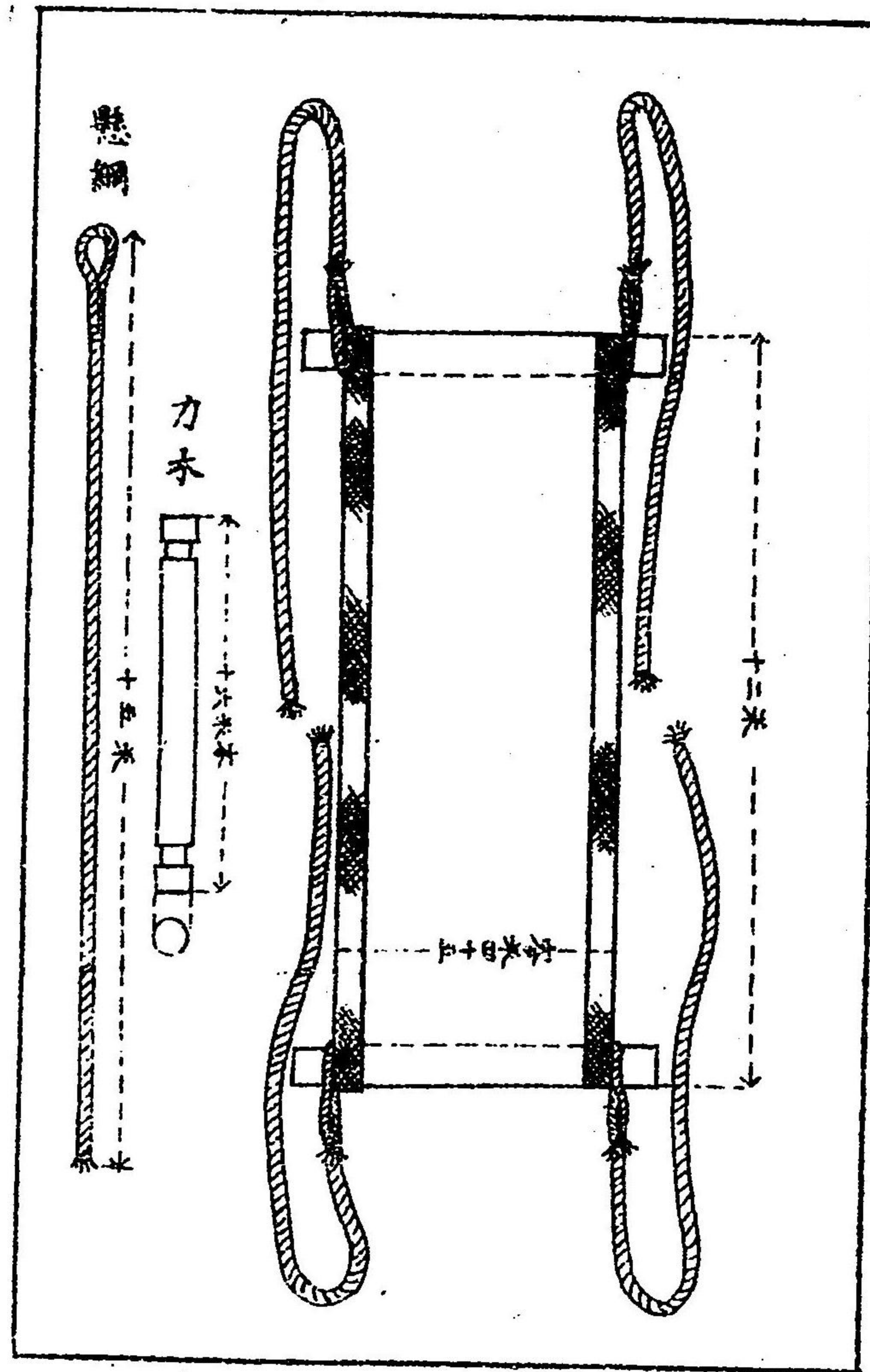
貨車用覆以テ貨車大用網荷以テ梱タリル圖

附圖第三



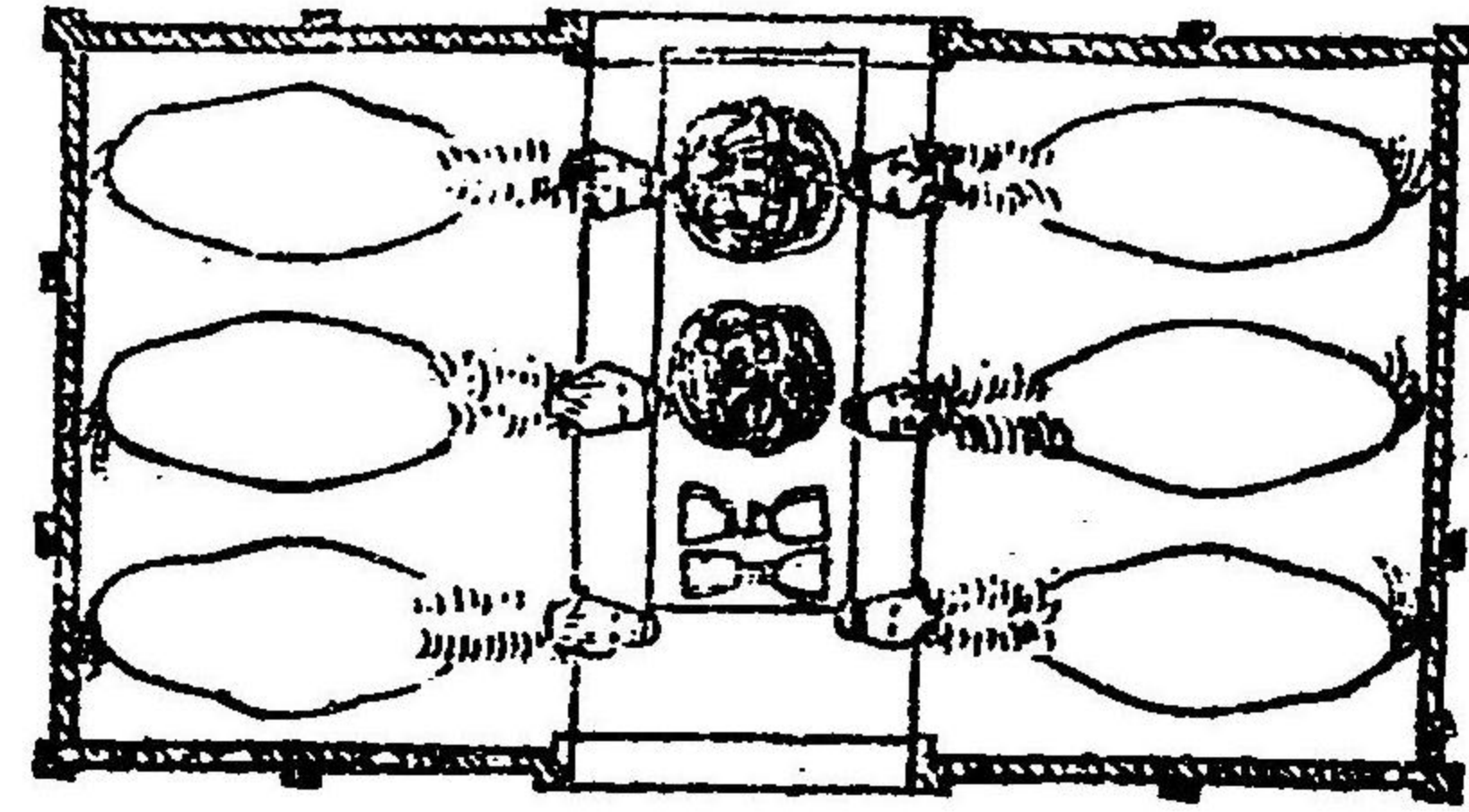
附圖第六

懸帶

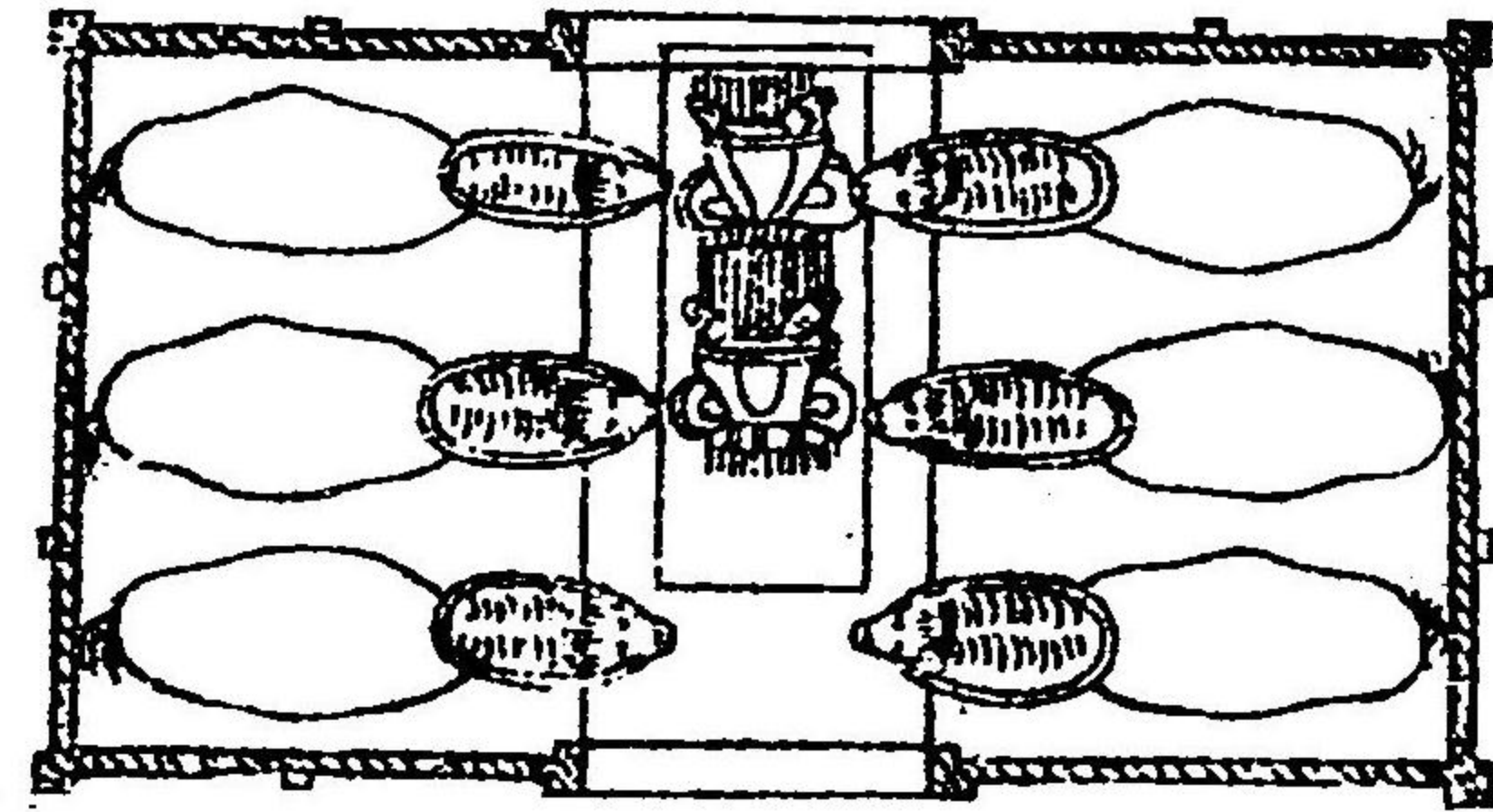


八第圖附

馬 挽



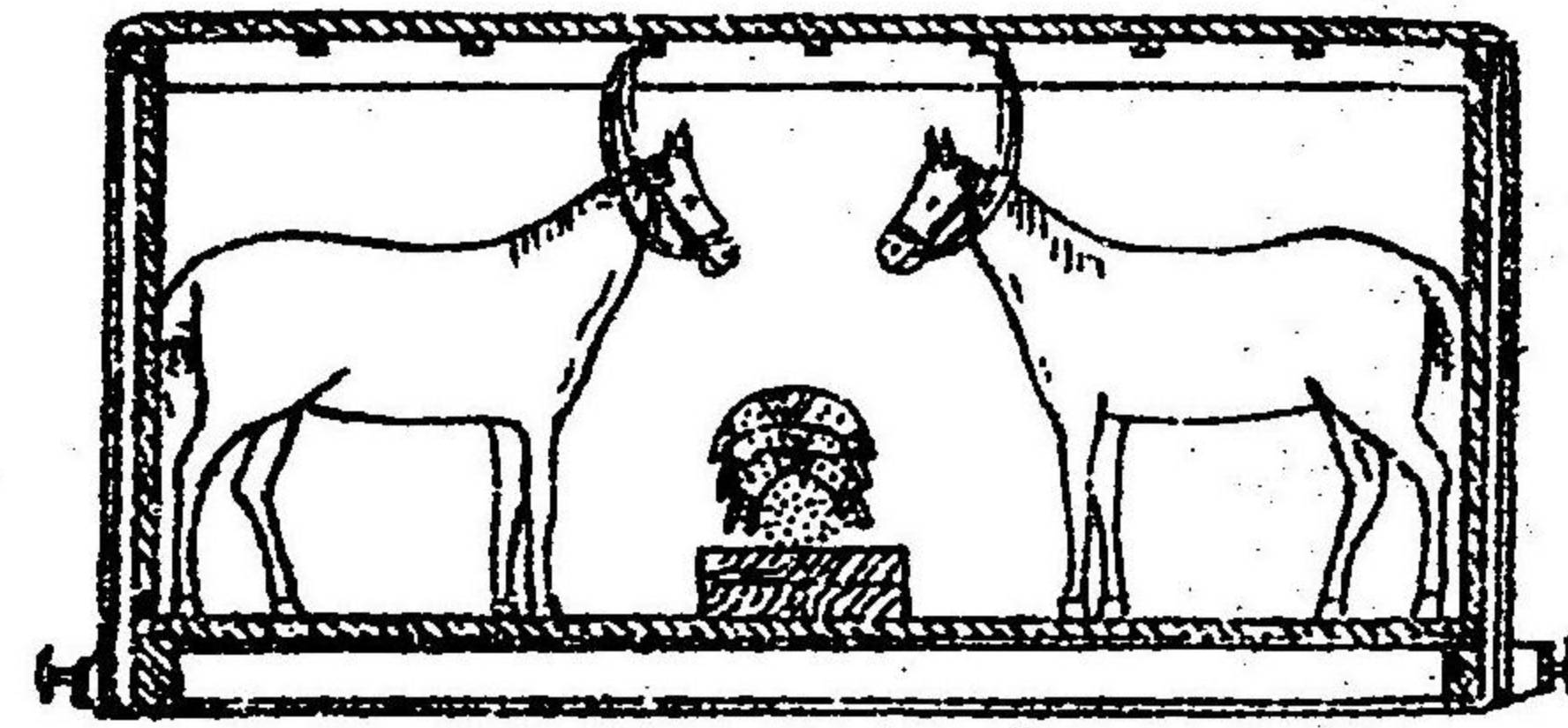
馬 乘



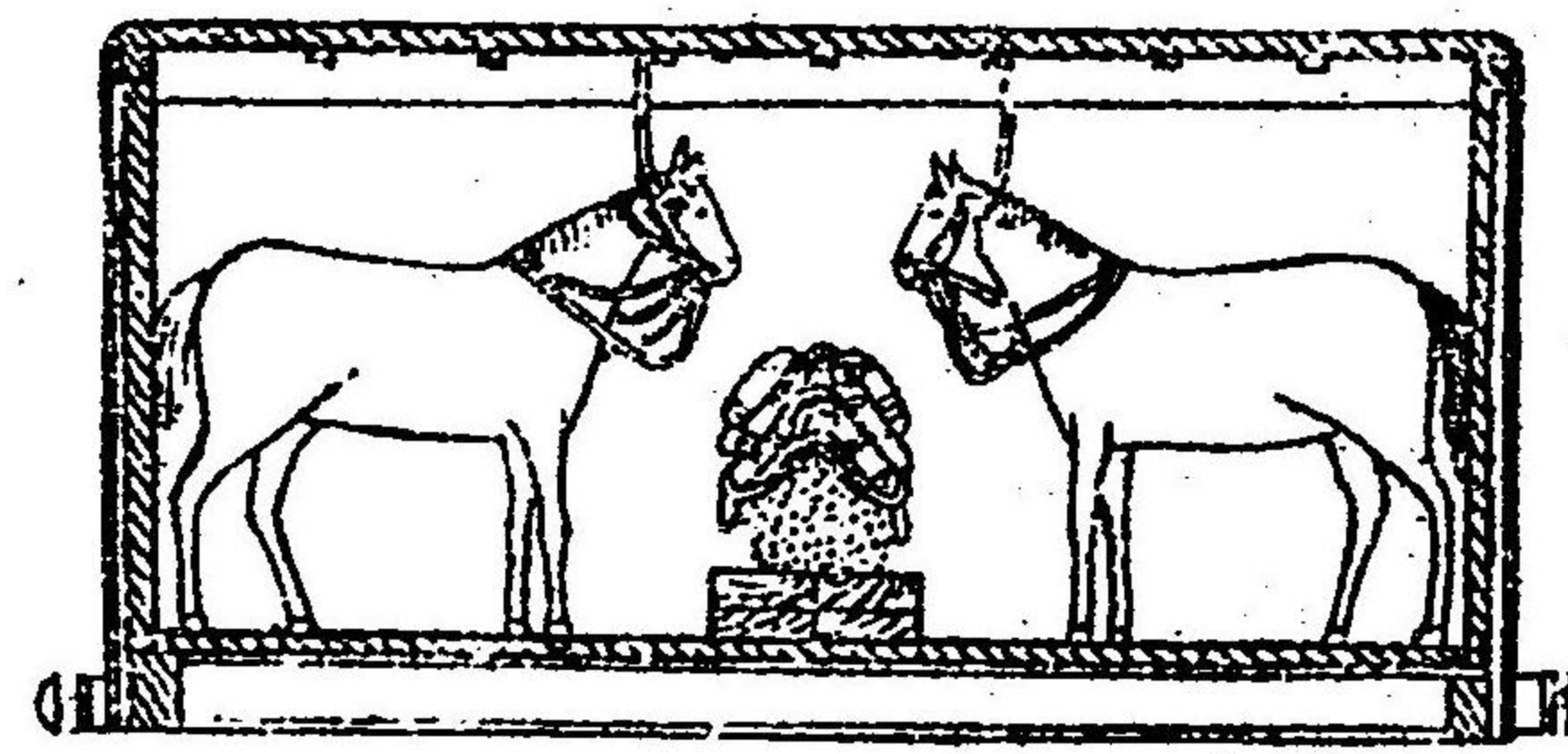
有蓋貨車ニ馬匹ヲ搭載セル平面圖

七第圖附

馬 挽



馬 乘

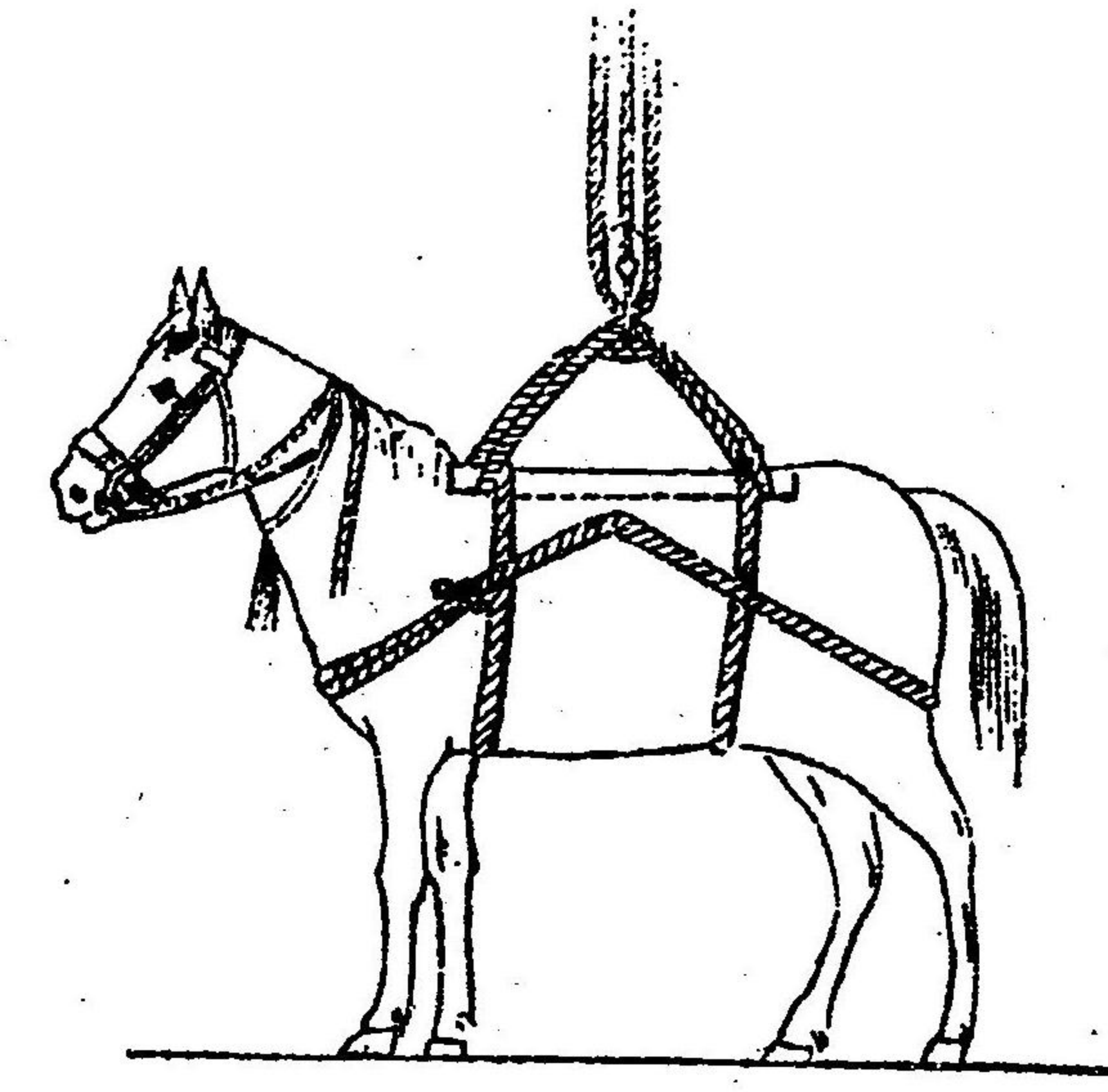


有蓋貨車ニ馬匹ヲ搭載セル側面圖

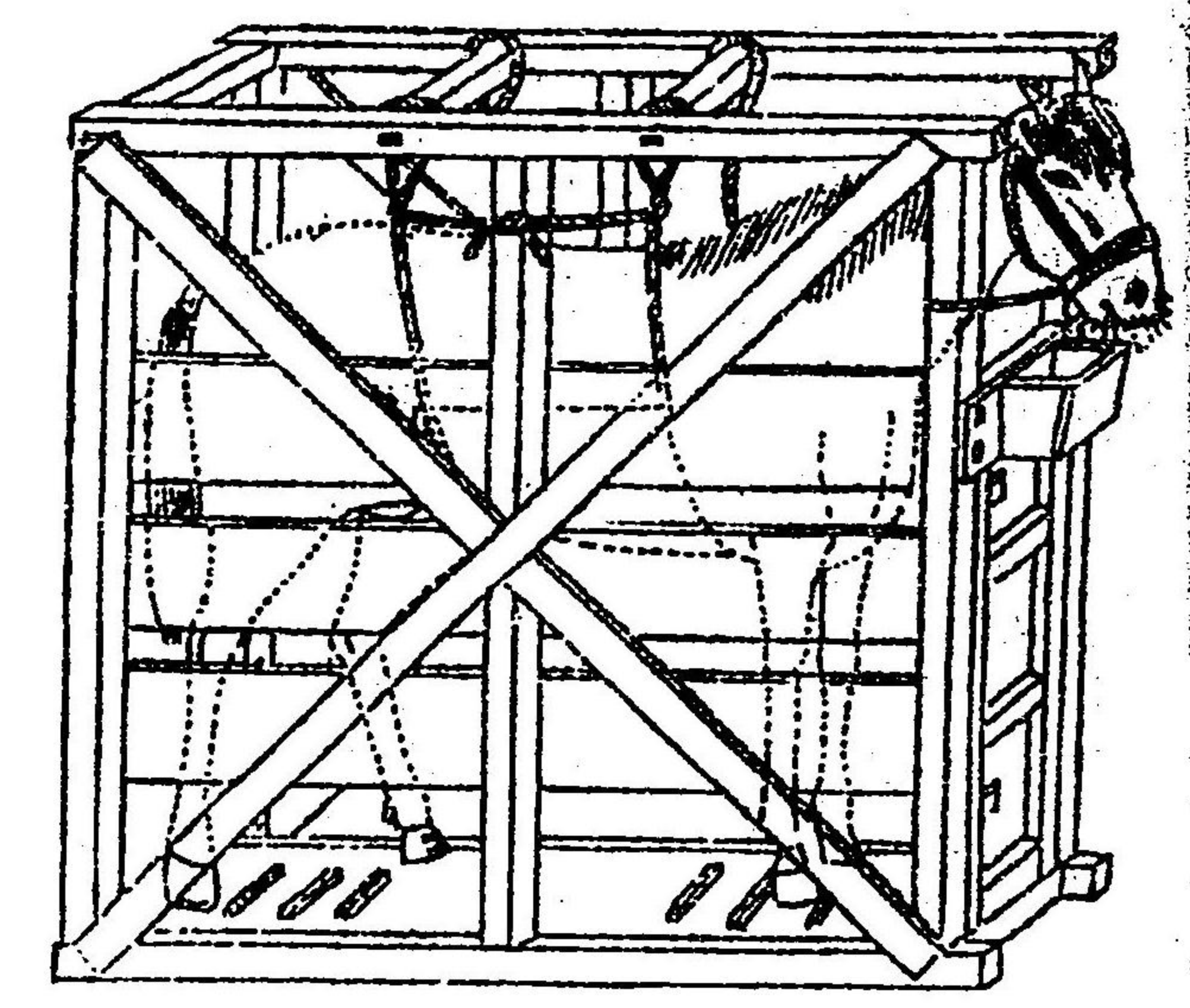
馬匹ニ馬絡ヲ施セル圖

馬箱ニ馬匹ヲ容レル圖

附圖第九



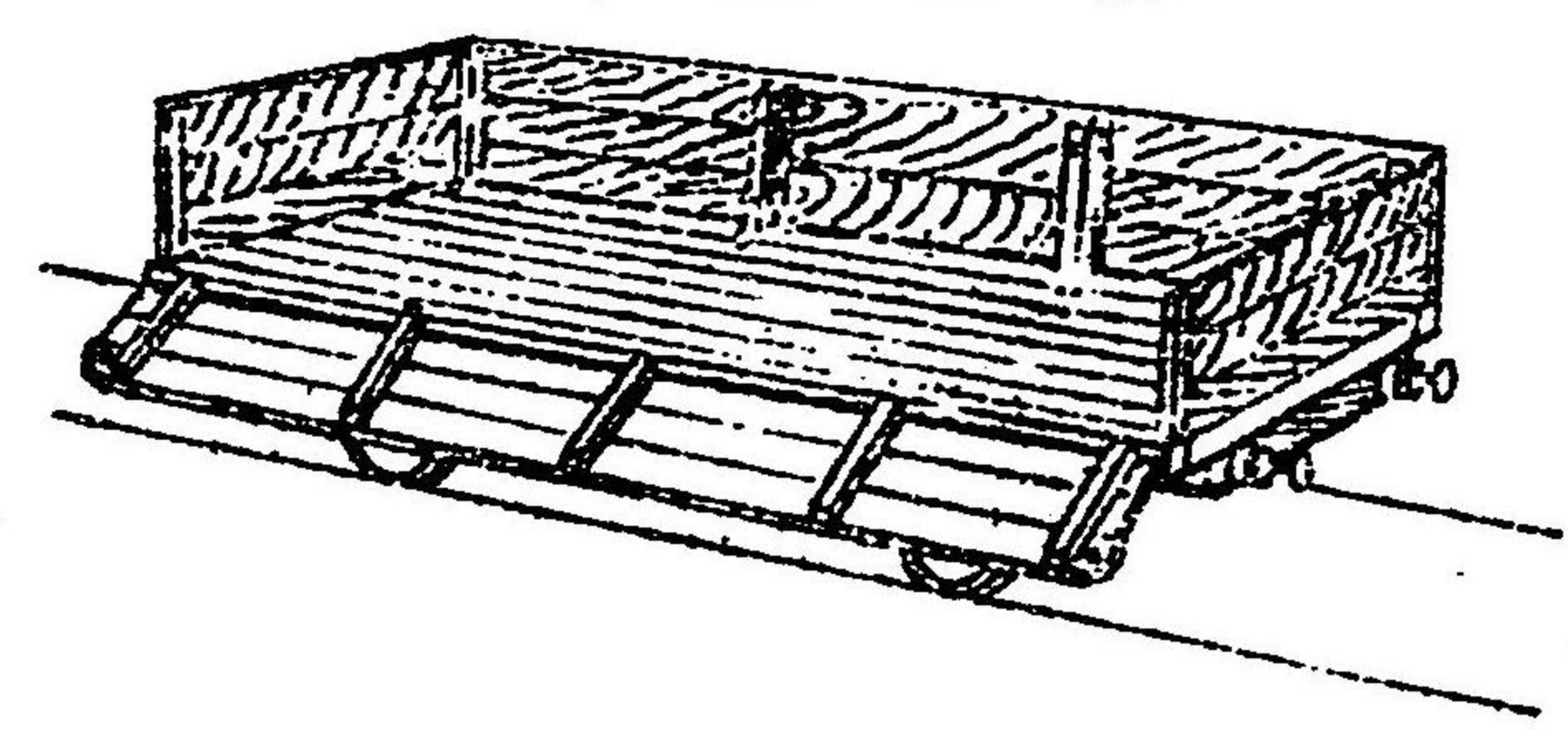
鉤網ハ二折シ其折目ヲ箱ノ
 上部中央ニ置キ而テ餘條ヲ
 横ケ底ノ前後ヨリ廻ハシ反
 對側ニ致シ其端ヲ折目ニ懸
 ケ鉤ヲ嵌入スルニ傾ナル如
 ク緊結ス



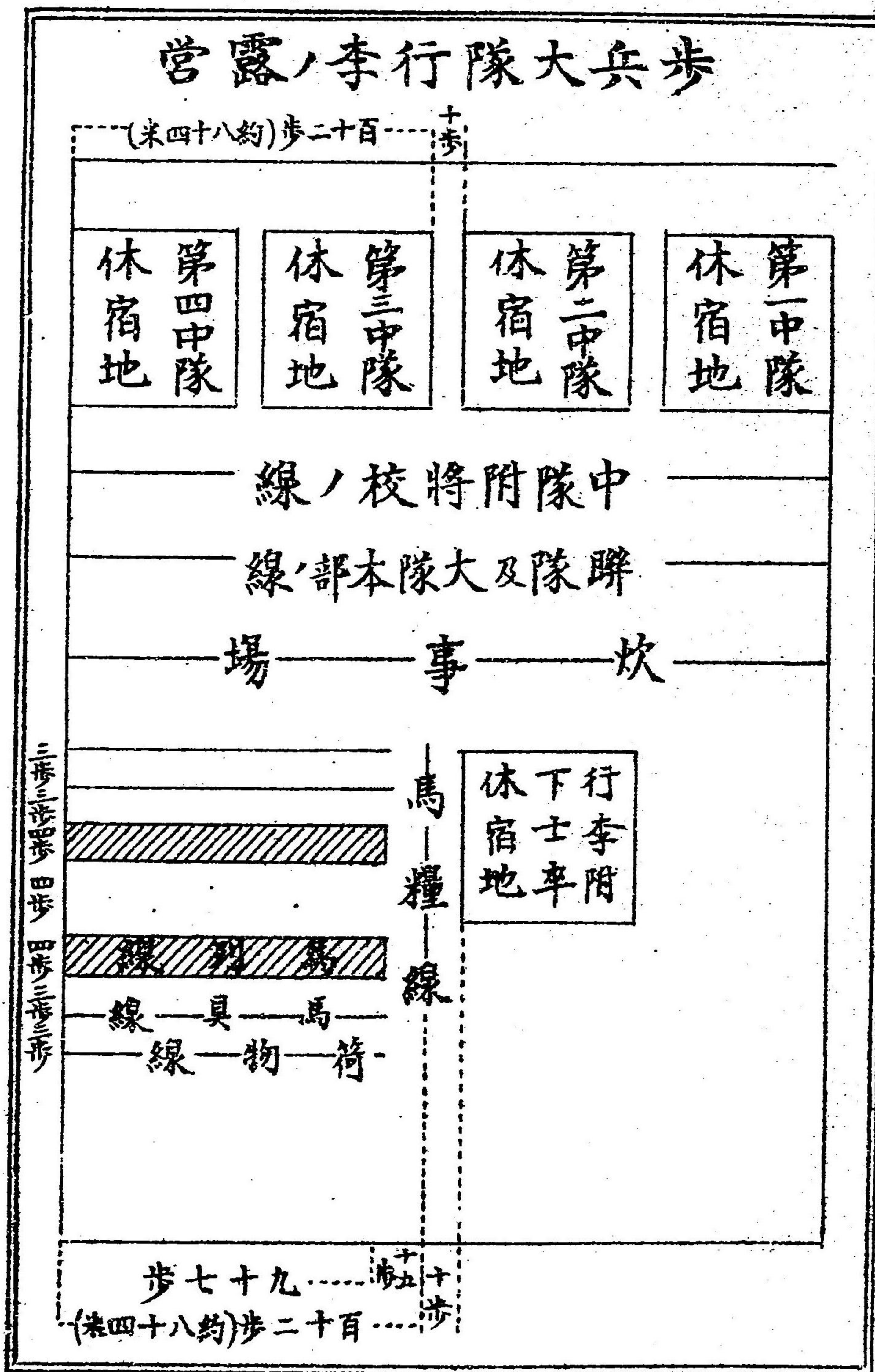
無蓋貨車搭載準備之圖

附圖第十

無蓋貨車



附表第一

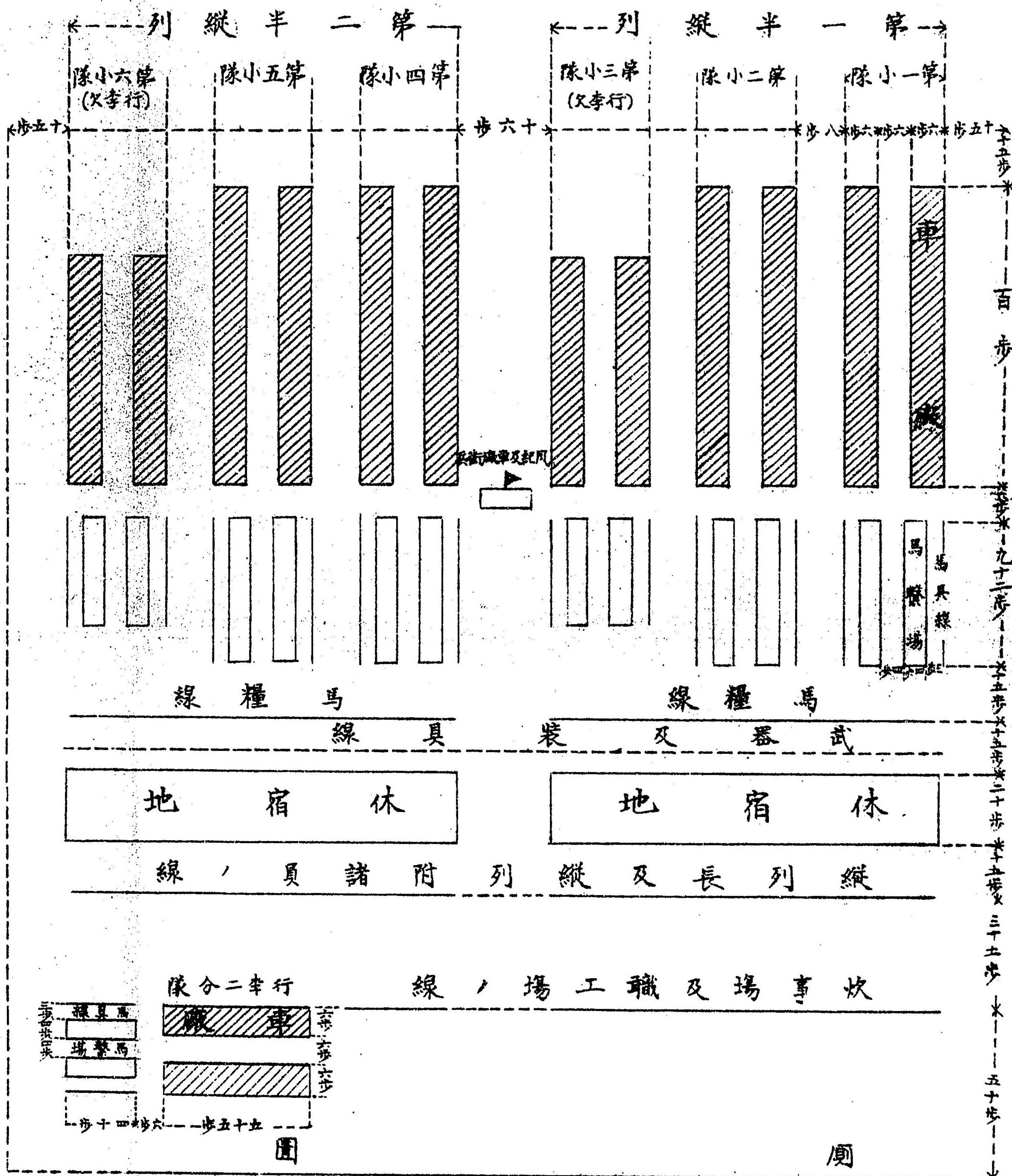


附表二

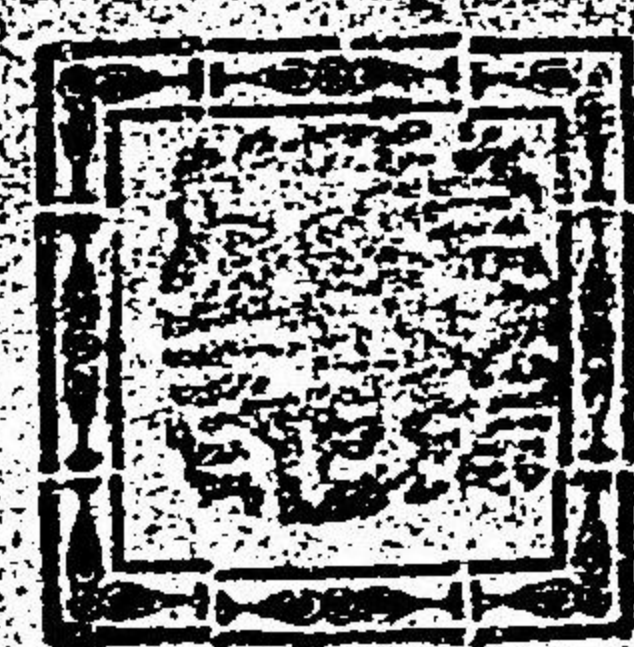
步六十八百計合面正
(突米十四百約)

師團糧食縱列、露營

縱深合計三百六十三步(約二百七十五米突)



318
82

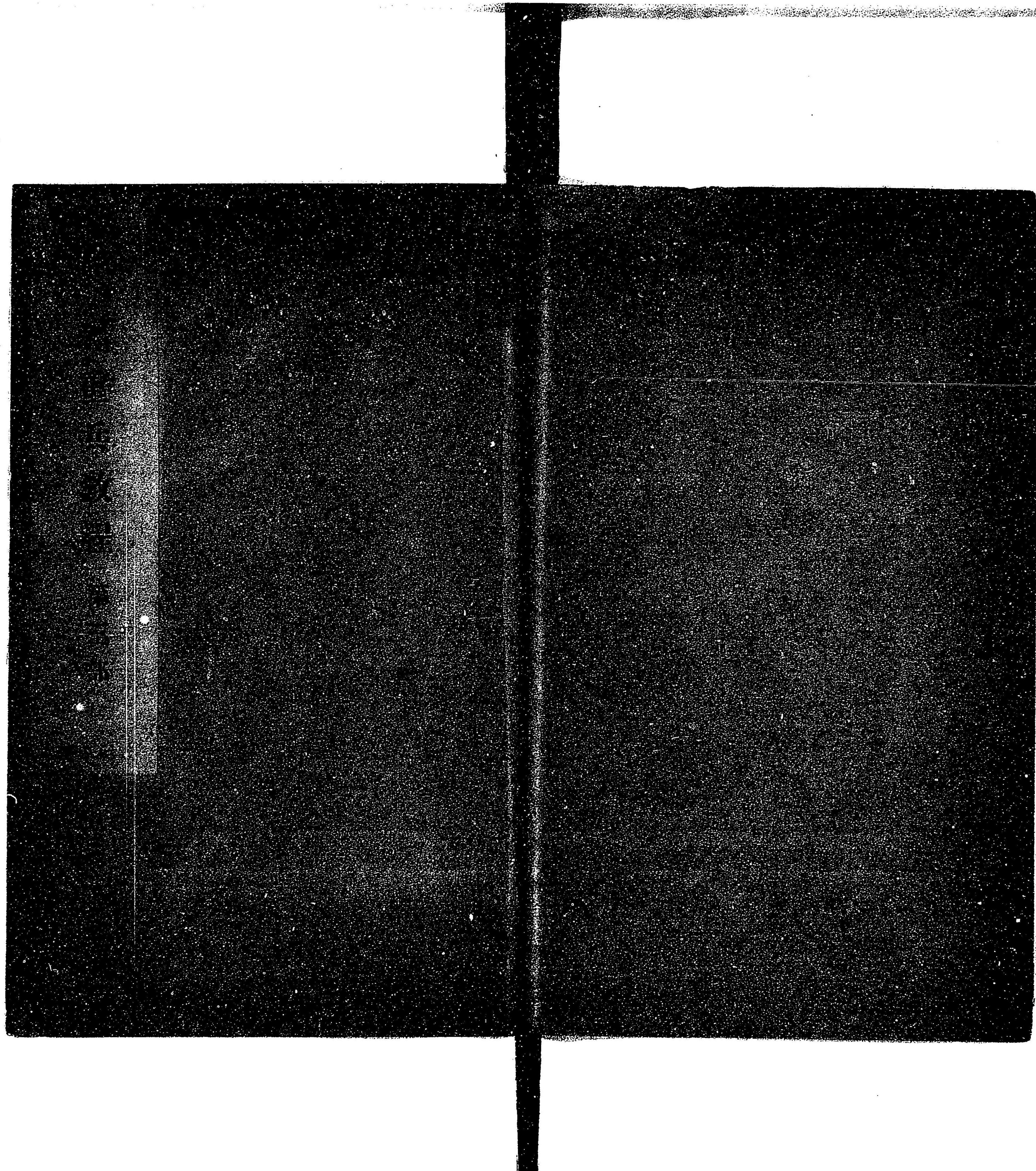


明治三十六年四月五日發行

教育總監部

印刷者 井口松次郎

東京市京橋區新町十五、十六番地



下士輜重兵教程第三部正誤
 目次第一頁第一行輜重兵教程ノ上下士ノ四字ヲ脱ス
 本文第一頁第一行 同 上
 同 第二十二頁第十一行 同 上

輜重兵教程第三部 野外工作之部

目次	一
第一編 總說	二
第一章 交通	二
第二章 道路及橋梁ノ補修	五
第三章 徒涉ニ關スル設備	一〇
第四章 水上通過ニ關スル設備	一六
第五章 舟艇ニ依ル渡河ニ關スル設備	一七
第六章 游泳ノ補助ニ依ル渡河	一四

目次

第七章 作業ノ設備ニ関スル事項	一四
第三編 築營ニ関スル事項	一七
第四章 露營ニ設備スル事項	一八
第三章 附屬設備ニ関スル事項	一九
附録 露營ノ設備ニ関スル事項	二〇
第一章 阻絶工事ノ設備ニ関スル事項	二三
第二章 交通ニ関スル事項	二四
第一章 總論	二五
目次終	

輜重兵教程第二部

第一編 總論

第一 凡ソ軍隊ノ行軍ニ方リテハ通路ノ補修ハ通常工兵之レカ任ニ當ルモノナリト雖トモ已ニ補修ノ個所モ再ヒ破壊シ或ハ止ムヲ得ヌ不利ナル道路ニ入りテ爲メ僅少ノ障碍ニ遭遇シ或ハ築營工事等必要ニシテ簡易ナルモノハ輜重大行李ヲ含ム以下做之自ラ設備セサルヘカラス之レカ爲メ下士ハ其作業ノ施行法等ヲ知得スルコト甚タ緊要ナルモノトス

第一 作業ノ實施ハ巧飾ニ涉ラス専ラ實用ニ適スル如ク迅速且確實ナラサル可ラス而シテ其施行シタル工事ニ付キテハ迅カニ報告シ凡ク其責任ヲ帯ヒサル可カラス

第三 作業ノ施行法以下逐次示セシ如シト雖トモ現場ノ地形地質材料及他ノ狀況ニ依リ作業ノ方法ヲ斟酌シテ施行スルハ一ニ實施者ノ任トス

第二編 交通

第四 野外ニ於テ交通ノ爲メ輜重兵ノ大スヘキ工作ハ他兵ノ力ヲ借ル能ハサルニ方リ獨立シテ道路及橋梁ノ單簡ナル臨時補修ヲ施行シ僅ニ車輛馬匹ヲ通過シ得セシムルヲ以テ目的トス故ニ著大ナル工事ハ之ヲ工兵ノ力ニ委セサルヘカラス

第一章 道路偵察報告及標示

第五 輜重ノ行進ハ最良ノ道路ヲ選ヒ不利ナル道路ヲ避クル爲メ僅少ノ迂回路ヲ利用スルハ却テ速ニ目的地ニ達スルヲ得ルコト屢

之ヲアリ或ハ狀況ニ依リ不良ノ道路ヲモ利用セサルヘカラスルコトアリ則他隊ニ遭遇シテ之ヲ避ケサルヘカラスル時或ハ他ニ依ルヘキノ道路ナキ時等ナリ

斯ノ如キ場合ニ於テ偵察ノ結果ハ指揮官ニ爾後ノ決心ヲ與フルモノニシテ偵察ニ任セラレタルモノハ偵察ノ目的ヲ了解シ指揮官ノ意圖ヲ服膺シ迅速ニ報告ヲ呈セサルヘカラス

第六 報告ハ偵察ノ目的ニ適合シ至要ナル事項ノミヲ單簡ニ且確實ニ報告セサルヘカラス(野外要務令第二十第二十二乃至第二十四參照)

之ヲ要スルニ報告ニハ概ネ左ノ各項ニ準シ所要ノ件ヲ記載スベシ

一、全道路ニ就キテノ判決

二、輜員〇基本ノ行進隊形ヲ以テ通過シ得ルヤ且狹窄ナル部分

三、良否〇構造法及傾斜雨時ノ景況修理ヲ要スル時ハ其時間人員材料並ニ材料ノ所在地及其運搬法

四、迂回平行路及岐路〇方向分岐點及到着地點及其通路ノ良否
五、隘路ノ部〇其種類長短側方ノ景況特ニ橋梁等存在スル時ハ其抗力或ハ其修理法

第七 部隊ニ先行シテ偵察ニ任セラレタルモノハ後續部隊ノ其道路ヲ誤ラサルコトニ注意セサルヘカラス之レカ爲メ若シ兵卒ヲ從フ時ハ本道ヲ離ルヘキ地點或ハ行進方向ノ疑シキ地點ニ兵卒ヲ立タシム此兵卒ハ後續部隊ノ先頭到着スル迄茲ニ停止スルヲ要ス後續部隊モ又逐次之ニ準シテ標兵ヲ配置スルモノトス
困難ナル土地例令ヘハ森林内殊ニ暗夜ニ際シテハ岐路及十字路ニ於テ不用ナル道路上ニハ使用スヘキ道路ニ接近シテ竹木等ヲ以テ簡易

ナル閉塞ヲ設ク可シ

又森林内ノ縱隊路ハ樹皮ヲ削リ之ヲ標示ス可シ
夜間ハ使用道路及橋梁ノ入口等ニ燈火ヲ以テ標示ス可シ

第二章 道路及橋梁ノ補修

第八 道路及橋梁ノ補修ハ其地形及材料ニ應シ勉メテ迅速ニ且最モ堅固ニ行フヘシ姑息ノ補修ハ多數車馬ノ通過ニ無効トス

第九 堅硬ナル敷石砂利等ヨリ成ル道路ノ深孔及轍跟等ヲ補修スルニハ務メテ溜水泥土ヲ去リ舊形ニ復セシム然ラサレハ大石(成シ得レハ)ヲ下方ニ置キ割石砂利磚壁ノ破片等ヲ以テ之ヲ埋填ス粗沙モ又填料ニ用フルコトヲ得而シテ之ヲ層々搗固スレハ補修ノ價值ヲ増加スルモノトス然ルニ道路ノ高起ヲ平削シテ凹部ヲ填料トナスハ通常無効ナリトス

堅硬或ハ糾草ノミヲ填料トスルハ乾燥セル天候ニ在リテハ短時間ノ用ニ供スルコトヲ得ヘシト雖トモ固ヨリ善良ナルモノニアラス泥濘濕潤等不良ナル道路ヲ補修スルニハ先ツ排水ヲ行ヒタル後ナ樹枝及竹等ヲ適宜ノ長サニ編束シタルモノ若クハ木板疊等ヲ横臥セシメ其上ニ砂礫土壤等ヲ堆積ス道路ノ曲形小ニシテ行進困難ナル時ハ其地ノ景況ニ應シ旋回スベキ内方或ハ外方ニ路巾ヲ擴大スヘシ坂路ニ在リテ馬蹄滑走スル時ハ小階段ヲ設ケテ之ヲ防クヘシ水結セル道路ニハ其上ニ土砂藁灰等ヲ撒布スヘシ道路ノ傾斜部ニ於テ殊ニ然リトス

第一〇 良好ナル道路ト雖トモ車輛ノ連續通過ニ由リ著シク損傷スルモノニシテ濕潤ナル天候ニ在リテハ殊ニ然リトス故ニ要點ニハ

豫メ工事ニ任ズル人員ヲ備ヘ速ニ修繕セシムルヲ良トス

第一 橋梁ノ補修ハ簡易ナルモノニテラサレハ實施スルニ難シ場合ニ依リテハ最モ單簡ナル橋梁ヲ新設スルニ却テ優水口トアルヘシ

第一 橋礎破壊シ或ハ其近傍ニ土地凹陥セル時等ニ方リテ橋礎杭ヲ堅固ニシ之ニ樹枝ヲ纏組シ或ハ樹枝竹等ヲ適宜ノ長サニ編束シタルモノ若クハ板等ヲ挿入シタル後土壤ヲ層々搗固スヘシ尙角材丸太等ヲ橋礎材ニ用ヒ杭ヲ以テ固定ス而シテ新ニ土地ヲ積堆セシ處ニハ樹枝石板疊或ハ樹枝竹等ヲ適宜ノ長サニ編束シタルモノ等ノ類ヲ敷キ以テ陥没ヲ豫防スヘシ

橋脚薄弱ニシテ橋床動搖スルカ如キ時ニハ單簡ナル架柱ヲ以テ橋梁適宜ノ點ニ於テ之ヲ支保スヘシ

橋床ニ於テ橋板破壊ノ或ハ缺損部等存在スル時ハ板或ハ丸太ノ如キヲ併列シ其上ヲ土壤ヲ以テ覆ビ堅固ニスヘシ

第一二 橋梁ノ幅員狹小ニシテ且道路ニ直角ナル時ハ其行進甚タ困難ナリ然ル時ハ橋梁出入口ニ於テ旋回スヘキ内方ヲ板編條或ハ土工ヲ以テ土地ヲ擴大スルカ或ハ橋梁出入口ノ前後ニ橋梁ノ方向ニ準シテ大ナル餘地ヲ作り車輛ノ直線狀トナリテ橋梁上ニ進入スルカ如ク土工スヘシ

第一四 溝渠幅狹ク且水少キモノニアリテハ橋梁ヲ補修スル代リニ兩岸ヲ緩傾斜ノ斜坡ニ構築スルコト却リテ利ナルコトアリ

第一五 通過スヘキ水流或ハ濠等ノ幅五米突以下ニシテ之ニ橋梁ヲ架設スルヲ要スル時ハ單筒ニ兩岸上ニ橋桁ヲ架シ其上ニ厚板丸太若シクハ樹枝或ハ竹等ヲ適宜ノ長サニ編束シタルモノヲ併置シ要ス

レハ之ヲ覆フニ土砂ヲ以テス(第一圖)

又橋桁ヲ密接シテ安置シ横材ヲ以テ之ヲ結合シ全部ヲ土砂ニテ覆フコトアリ

第一六 橋桁脆弱ニシテ支柱ヲ要スル時ハ濠底ヘ垂直ニ打入スル杭ヲ以テ之ヲ支保スヘシ而シテ此支柱上ニ橋桁ヲ安置スルニハ或ハ直ニ之ヲ結着シ或ハ冠材ヲ成形スル一横材ヲ以テス此横材ハ索繩ヲ以テ堅固ニ支柱ニ固定スルモノトス(第二圖)

第一七 水流或ハ濠ノ幅稍廣キ時ハ杭橋ヲ構築ス之レカ爲メニハ中徑約〇米突十二ノ杭二個若クハ數個ヲ一列ニ打入シテ支柱ヲ組成シ其上部ニ一横材ヲ結着シ之ニ橋桁ヲ架ス(第三圖)

第一八 水流或ハ濠ノ水深淺キ時ハ土俵樽等ヲ支柱ニ應用シ其上ニ橋桁ヲ架シテ構築スルコトヲ得ヘシ

第三章 徒涉ニ關スル設備

第一九 徒涉場ノ搜索ハ土民ニ質シ或ハ兩岸ノ輻痕大馬ノ足跡等ニ依ルヲ第一着トシ偵察者自ラ歩行或ハ騎行通過ヲ試ムル時ハ最モ確實ニシテ同時ニ水底ノ地質ヲモ探知シ得可シ又徒涉場ハ増水ニ由リ徒涉シ難キニ至ルコトアリ且最初水深少シト雖トモ數車輛ノ連續通過ニ由リ河底損傷回陷シ爲メニ其深サ著シク増加スルコトアリ須ラツ注意ス可シ

冰流ノ形状ニ依リテ豫メ徒涉場ヲ探知スルコトヲ務(第四圖)

第二〇 徒涉場ノ深サハ乘馬者ノ爲メニハ一米突駄馬ノ爲メニハ馬腹ニ冰ノ及ハサルヲ度トシ車輛ノ爲メニハ〇米突四十ヲ以テ最上限トシ流速一米突以上ナル時ハ水深更ニ淺キヲ要ス

第二一 徒涉場ハ兩岸ノ地勢出行及到着ニ便利ニシテ流勢緩ナル

カ島トシ又河床ニ甚シキ傾斜ナク平坦硬固ニシテ人馬車輛等通過ノ爲メ陷凹セザルヲ要ス而シテ其最良ナルハ礫質ナリトス

第二二 徒涉場ニ要スル工事ハ竹木或ハ浮體ヲ以テ夜間若若干燈火ヲ兩岸及其中間ニ置キテ限界及方向ヲ標示シ河底ニアル大石等ヲ排除シ或ハ徒涉場ノ一部水深キ時ハ土俵礫石等ヲ以テ水底ヲ高起セシメ兩岸ノ通路ヲ補修スル等トシ流速急ナル時ハ救助船ヲ備フルヲ要ス

第四章 氷上通過ニ關スル設備

第二三 結氷ハ水面ニ層接スルカ或ハ融解時ニ至リテ其抵抗力微弱ナラザル時ハ徒歩者一名ノ通過ノ爲メニハ〇米突十乘馬者及馬車部隊ノ爲メニハ〇米突十二車輛部隊ノ爲メニハ〇米突十六ノ厚ヲ要ス

第二四 氷面上ニ土砂或ハ藪灰等ヲ敷キ以テ人馬ノ失脚ヲ豫防シ殊ニ氷厚充分ナラサル時ハ單獨徒歩者ノ爲メニハ長キ薄板或ハ板ヲ釘着シタル梯子ヲ布キ乗馬者ノ爲メニハ短キ薄板ヲ敷キ又馬匹一頭ツニ通過セシメ又車輛ハ三條ノ厚板上ニ車輛ヲ旋轉セシムルヲ良トス

第五章 舟艇ニ依ル渡河ニ關スル設備

第一二五 舟艇ヲ以テ渡河スルニ其舟ノ浮力及廣狹ニ應ジ搭載スベキ人馬材料數ヲ定ムルヲ要ス而シテ舟艇ノ負擔量ハ其搭載スベキ材料ト略ホ同重量ノ人ヲ載セテ之ヲ檢知スベシ

馬匹ヲ搭載スル舟ハ扁平ニシテ大ナルヲ要ス而シテ底板ニハ成ル可

ク藪等ヲ散布シテ滑走ヲ防クヲ良トス若シ底板薄弱ナル時ハ之ニ數枚材ヲ横置シ其上ニ厚板ヲ釘着スヘシ兩舷深キ船ニ在テモ亦此方法ニ依リ適宜ノ位置ニ踏板若クハ藪ヲ層積シタル階段ヲ作ルヲ要ス

第一二六 舟ノ幅員狭ク又ハ浮力足ラスシテ馬匹ヲ搭載スルニ充分ナラサル時ハ三舟ヲ同方向ニ併列シテ堅固ニ連結シ其上ニ數枚材ヲ架シ更ニ厚板ヲ釘着シテ門橋ヲ構成スルヲ要ス第五圖或ハ單ニ二舟ヲ同方向ニ併列シテ連結シ馬匹ヲシテ兩舟ニ跨リ位置セシムル其類落ヲ防クニ利アリトス

第二七 水涯ニ接スル河底ハ通常淺クシテ人馬車輛ノ乗船及上陸ニ便ナルコト稀ナリ故ニ兩岸ニ着船場ノ構造ヲ要スルトキハ土囊土袋或ハ礫石等ヲ以テ突出堤ヲ築設スヘシ若シ兩岸急峻ナル時ハ斜坂ヲ設クルヲ要ス

第三二八、突出堤ハ河岸ヨリ突出シテ築キ其脇側及頭端ヲ土俵土盛
 敷等ヲ以テ被覆シテ其幅ハ成ル可ク廣ク車輪
 又卸載スルモノハ三米突出減ス可キヲ又堤面ニハ礫或ハ樹枝竹
 等ヲ適宜ノ長類ニ編束シテ其ノ編束盛成ハ板等ヲ敷ク可シ(第六圖)

第六章 游泳ノ補助ニ依ル渡河

第三二九、游泳ニ依ル渡河ハ單身或ハ數人渡河スルニ過キテ而シテ
 其方法ハ兵卒ト馬匹ハ裸體ニテ游泳シ武器及諸物品ヲ浮游材料ヲ以
 テ造ラズ小舟或筏上ニ搭載シ索若クハ綱ヲ以テ之ヲ牽引シツマ馬
 匹ト共ニ游泳ス可シ其ノ方法被服及武器ヲ頭上ニ結束シテ彼地ニ
 達スルニ至ラズトシテ其ノ方法被服及武器ヲ頭上ニ結束シテ彼地ニ
 達スルニ至ラズトシテ其ノ方法被服及武器ヲ頭上ニ結束シテ彼地ニ

第七章 土工器具ノ使用

第三一〇、土工器具

輻重土工器具ヲ携行セサルトキハ其時機ニ
 際シ地方材料ヲ徵集シ或ハ附近他軍隊ヨリ借リ受クルモノトス

第三一一、土工器具ノ使用法

軍隊規定ノ圓匙ハ掘開セル土ヲ
 掘ケ或ハ軟土ヲ掘取リ十字鍬ハ硬土ヲ掘開スルニ用ユ徵集材料モ之
 ニ準ジテ使用スヘシ
 規定圓匙ハ全長一米三〇其鐵部長〇米三五幅〇米二五十字鍬ハ全長
 一米其鐵部長〇米四五ヲ有ス故ニ作業ノ施行ニ當リ各種ノ尺度
 ナ定ムルニ用ユルコトヲ得
 圓匙ヲ使用スルニハ右或ハ左手ヲ鐵部ニ接近スルニ從ヒ右手前或ハ
 左手前稱ス此手前ハ時々之ヲ變更ス
 土質柔軟ニシテ掘土ノ爲メ十字鍬ヲ要セサル間ハ圓匙ヲ以テ掘土及
 掘土ノ用ヲ兼ネシメ十字鍬ト併用スル時ハ圓匙ハ單ニ掘土ニ使用ス

圓匙ヲ以テ土ヲ掘リ及之ヲ投スルニハ其四面ヲ前方ニシ足ヲ以テ鐵部ヲ壓シ勉メテ多量ノ土ヲ入レテ之ヲ投ス可シ已ニ掘起セル土ヲ圓匙ヲ投スルニモ概ネ前ト同法ニ準ス但投ス可キ土ノ凝固ナラサル時ハ足ヲ以テ鐵部ヲ壓スルコト無シ
十字鍬ハ通常右手前ニシテ使用シ其刃部ヲ以テ掘土シ硬土又ハ礫石地等ニ遭遇セハ其尖部ヲ以テ掘起ス

第三二二 作業着手前ノ動作 施行スヘキ作業ノ如何ヲ鑑ミ必要ノ人員ニ必要ノ器具ヲ分配シ之ヲ速ニ作業地ニ誘導シ至レハ其附近ニ於テ作業ノ障礙トナラサル地點ニ先ツ不要ノ裝具等ヲ卸サシメ（豫シメ卸脱セシムルコトヲ得器具ノミヲ持チテ作業地ニ對シテ整理セシメ）作業ノ方法及必要ノ指示ヲ與フルモノトス
作業施行ニ臨ミ使用スヘキ人員及土工器具ノ員數及其配當ハ作業ノ

指揮ニ任セラレタル幹部特ニ之ヲ指定スルモノトス

第三二三 作業ノ實施 以上ノ準備終レハ指揮者ハ一齊ニ作業ニ從事セシム各作業手ハ作業ヲ始メ嚴肅ニ之ヲ施行スヘシ
積土ハ薄キ層ヲ順次踏固スル規定ノ方法或ハ全キ層ヲ一時ニ踏固スル簡略ノ方法ニ依ルヘシ
作業時間長キニ涉ル時ハ指揮者ノ見込ヲ以テ暫時休憩セシメ又作業手ヲ交代セシムルコトアリ

第三編 築營

第三四 輜重暫時村落外ニ駐留スル場合ニ在テハ露營ヲ布ク其設備ハ天候ニ對スル防護ノ爲メ最モ單簡ナル裝置ニ止メ輜重自カラ之ヲ實施スルモノトス但其駐留久キニ亘ルトキハ廠營ヲ設クト雖トモ

其工事ハ主トシテ工兵ノ在ル所トス

第一章 露營ノ設備

第三五 單簡ナル露營ノ爲メハ携帶天幕ヲ以テ足レトシテ和永

キ駐留ニ於テモ良好ナル氣候ニ在テハ亦然リ

幕營ハ通常小部隊毎ニ設クルヲ良トス而シテ其短側ヲ風ノ方向ニ面

セシムルベシ

大ナル幕營ヲ設クルニハ所在ニ木桿木板等ヲ補助シテ數枚ノ天幕

ヲ單簡ニ接續シ第七圖ノ如ク構造スルコトヲ得但中央直柱上ニ棟木

ヲ架シ置クヲ可トス而シテ防寒ノ爲メハ第八圖ノ如ク土地ヲ掘開

シ其幕壁ノ脚ニ沿テ崖徑ヲ存シ之ヲ裝具置場ニ供スルコトヲ得

各幕布ノ端末ヲ重複スルトキハ風ヲ侵入ヲ防ク得而シテ幕布

ノ端末ハ凡テ地面ニ控留スルニシテ

第二六 携帶天幕ヲ使用シ得ザル時又ハ之レナキ時ハ屢樹枝藎
邊藎板等ヲ掩覆物ヲ以テ單簡ナル掩蓋ヲ造リ天候ニ對スル應急防護
ニ供スルコトヲ得(第九、第十圖)

第二章 附屬設備

第二七 鞍架及銃架 鞍架ヲ構造スルニハ長サ約一米突三〇ノ

二脚材ヲ斜ニ地中ニ打入レ地上約〇米突七〇ノ高サニ於テ交叉セシ

メ繩ヲ以テ之ヲ結束ス此交叉脚材ハ大約二米突毎ニ設置シ水平ノ梁

材ヲ以テ各交叉部ヲ連結シ尙其兩側ニ橫材ヲ結着シタルモノトス

銃架ニハ此兩側ノ橫材ヲ除キ而シテ梁材ニハ繩ヲ纏繞シテ銃及軍刀

ノ滑倒ヲ防クベシ(第十一圖)

第二八 圍厠 短時間ノ用ニ供スル圍厠ハ深サ約〇米五〇幅〇米

三〇ノ壘溝トシ其長サハ毎米ニ三十人乃至四十人ノ比トナスヲ以テ

是レリトス

脚ハ炎暑ノ候ハ毎日其他ノ季候ニ於テハ隔日ニ〇米一〇ノ土ヲ以テ掩テ可シ爲シ得ルトキハクロール石灰ヲ以テ消毒スヘシ
行李ニ在テハ獨立シテ露營スルトキノ外其圃圍ハ所屬部隊ノモノヲ共用スルモノトス

第三九 井 凡ソ軍隊ノ宿營ニ方リ一名ノ兵卒ハ飲用及盥嗽用等ノ爲メ一日ニ付大約六升馬匹ヲ有スル一名ノ兵卒ニハ馬匹共ニ一日ニ付約一斗四升ヲ消費スルモノトス故ニ流水等ノ存セサル時ハ井ノ配當ニ顧慮スルヲ要ス

第四〇 飲馬場 馬匹ノ飲フ爲メ流水ノ存スル時ハ之ヲ利用シテ飲馬水トナス之ニ適當ナル場所ハ出入ノ道路アリテ河底ハ堅牢水深〇米突七十五以下ナルヲ要ス馬脚水面ヨリ高キ位置ニ在ル時ハ岸上

ヨリ飲水スルコト能ハサルモノトス故ニ水ノ滲通セサル土地ノ小流ニハ第十二圖ノ如クニシテ馬匹ノ近接ヲ便ナラシム可シ

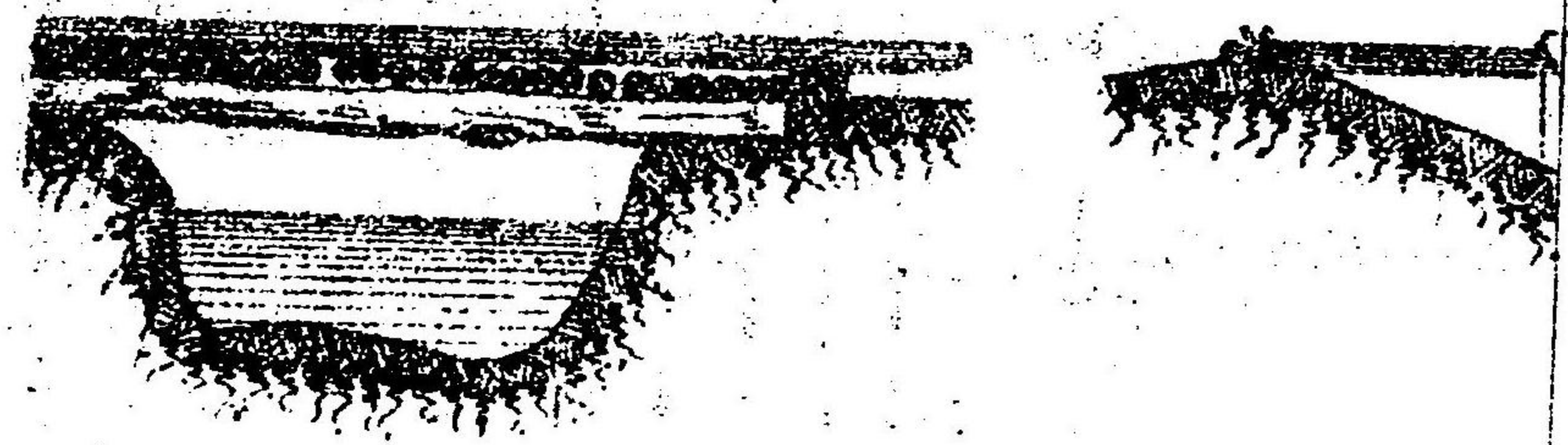
附 録

阻絶工事

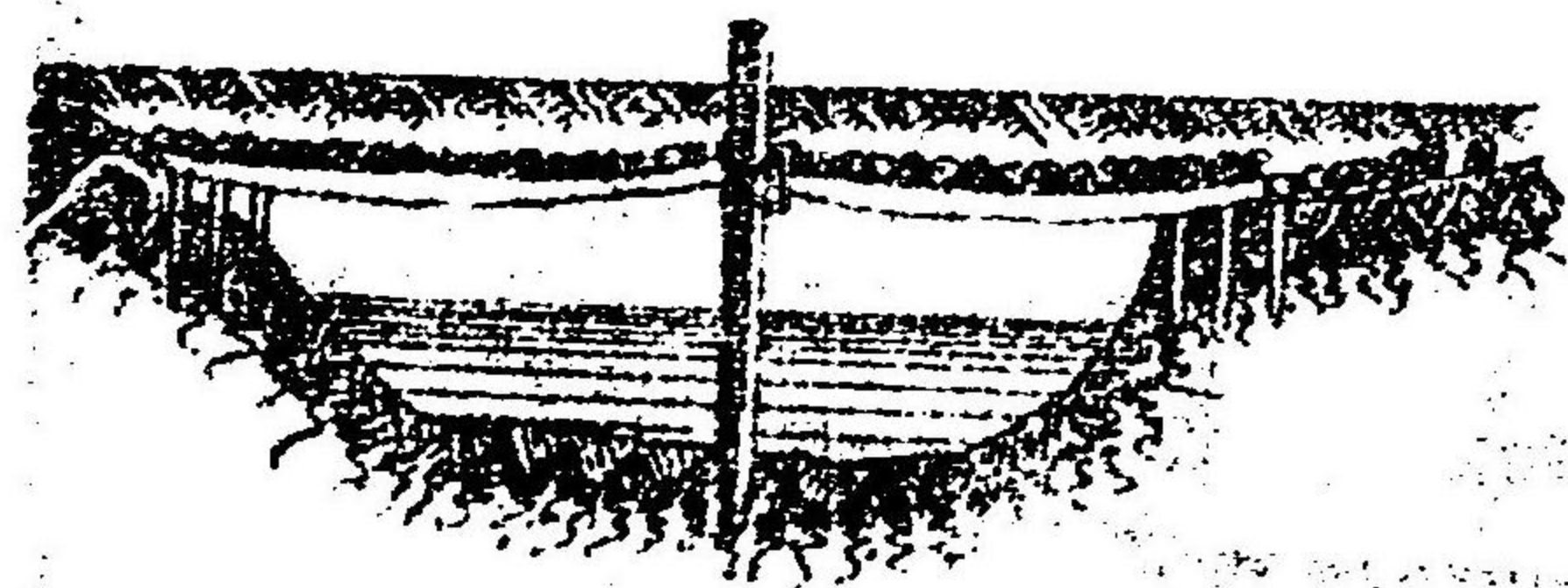
第一 輜重ハ行軍或ハ駐軍中ニ護衛兵ヲ附セラレサル時ハ僅少ナル敵騎ノ近接ニ對シテモ兵器ノミヲ以テ之ヲ防クコト殆シト難シ故ニ爲シ得ヘクンハ迅速ニ簡易ナル障礙ヲ設置シテ之カ進路ヲ阻絶スルヲ可トス

第二 然シテ其位置ノ選定ハ(一)狹隘等ニシテ其一點ヲ阻絶スル時ハ敵騎ヲシテ已ムヲ得ス他方ニ迂回セサルヲ得ササシムル點(二)阻絶ヲ設クルニ容易ナル點(三)其地點ハ騎銃ノ射距離内ニアラシムルヲ最

第一圖



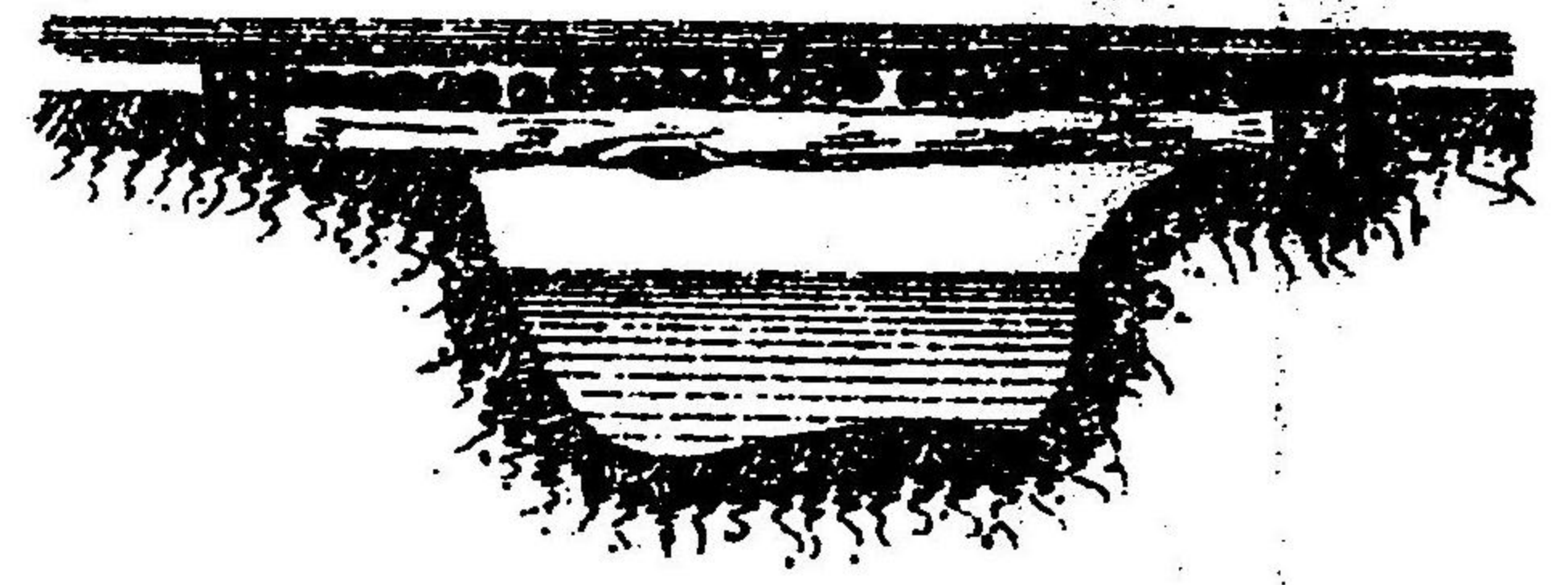
第二圖



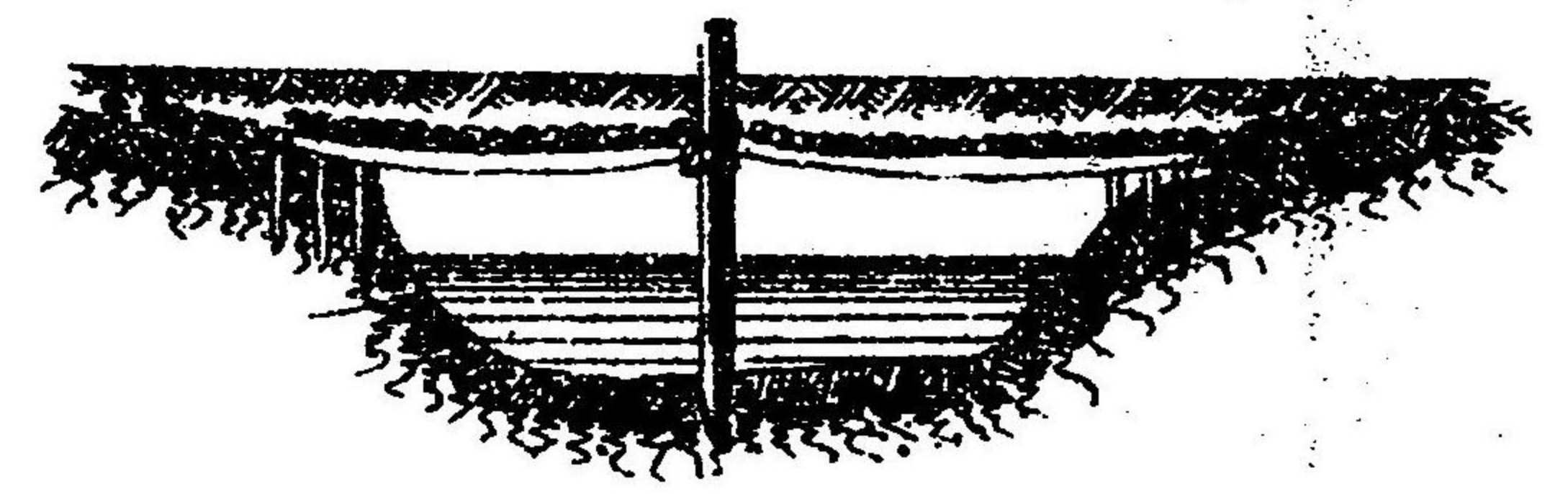
輜重兵教程第三部終

氏長トス即チ橋梁隘路凹道村落森林ノ入口山腹道等ノ如キ地點之レ
 ナリ
 第三 閉塞ノ材料ハ其地ニ現在スルモノヲ應用ス可シ即チ荷物ヲ
 積載スル車家具大ナル耕作具伐倒セル並木等種々ナル物件ヲ利用シ
 又鐵銅鋼線軟枝削竹等ヲ數列ニ緊張スヘシ
 第四 橋梁ノ欄干村落森林ノ入口ニアル樹木等ニ鐵銅線等ヲ上下
 左右ニ纏匝シ僅少ノ深サヲ有セシムル時ハ敵騎ヲ防止シ得ル最モ有
 効ナルモノナリ而シテ鐵線ハ強ク引張ス可カラス
 其他凹道ヲ木材ヲ以テ閉塞シ或ハ橋梁ノ床板ヲ撤去シ置ク等時機ニ
 從フヘシ

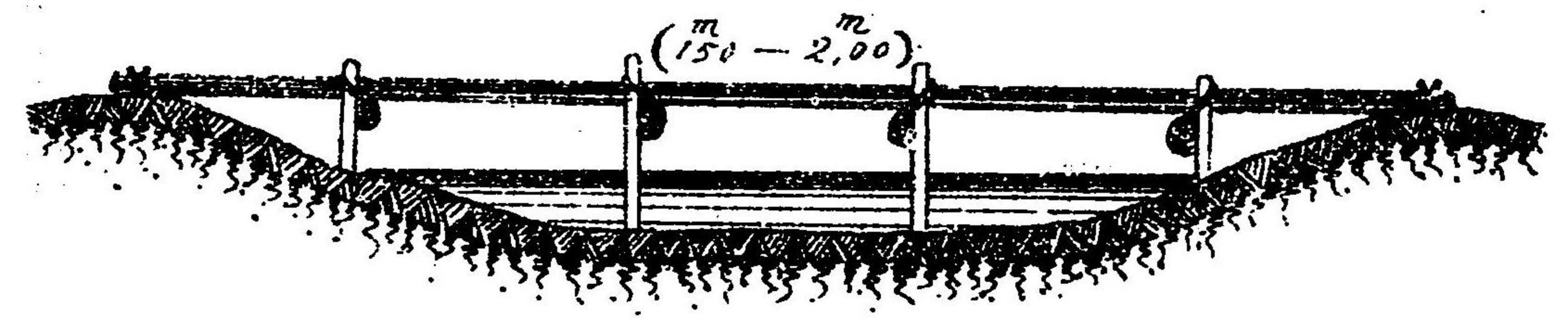
圖一第



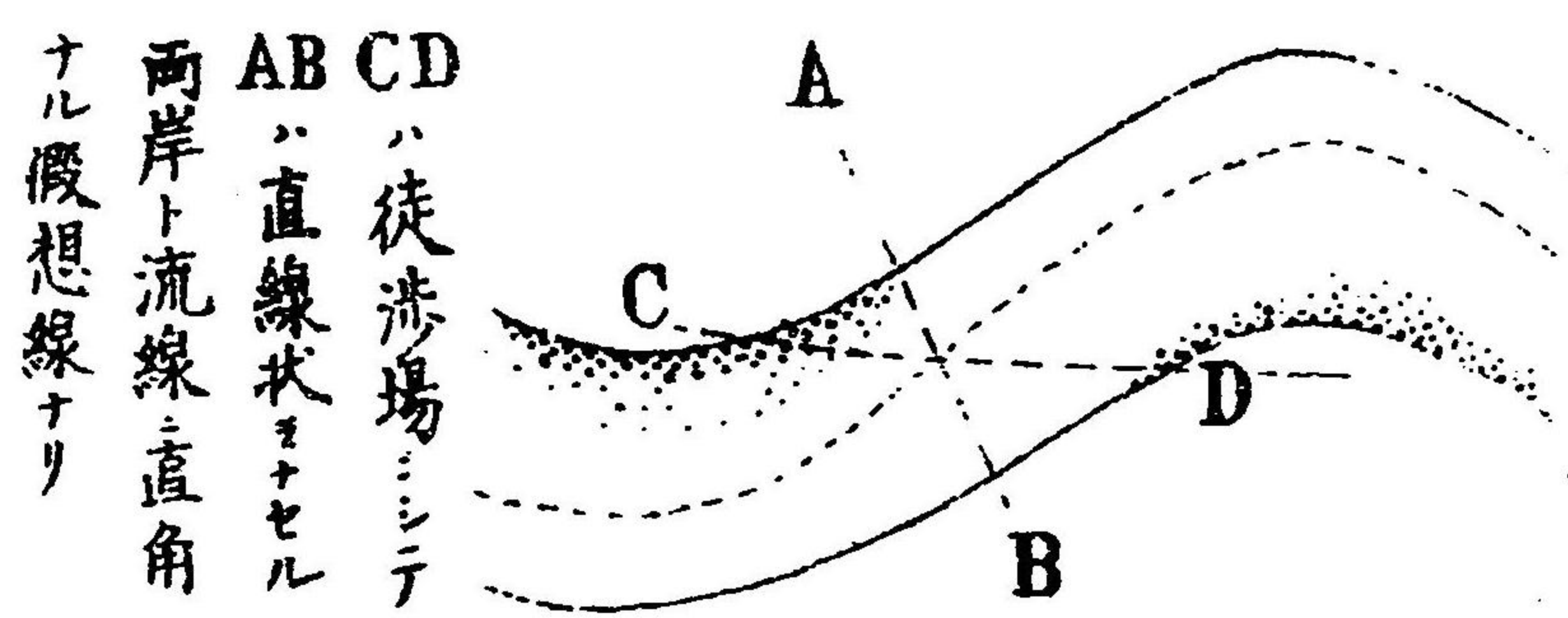
圖二第



圖三第

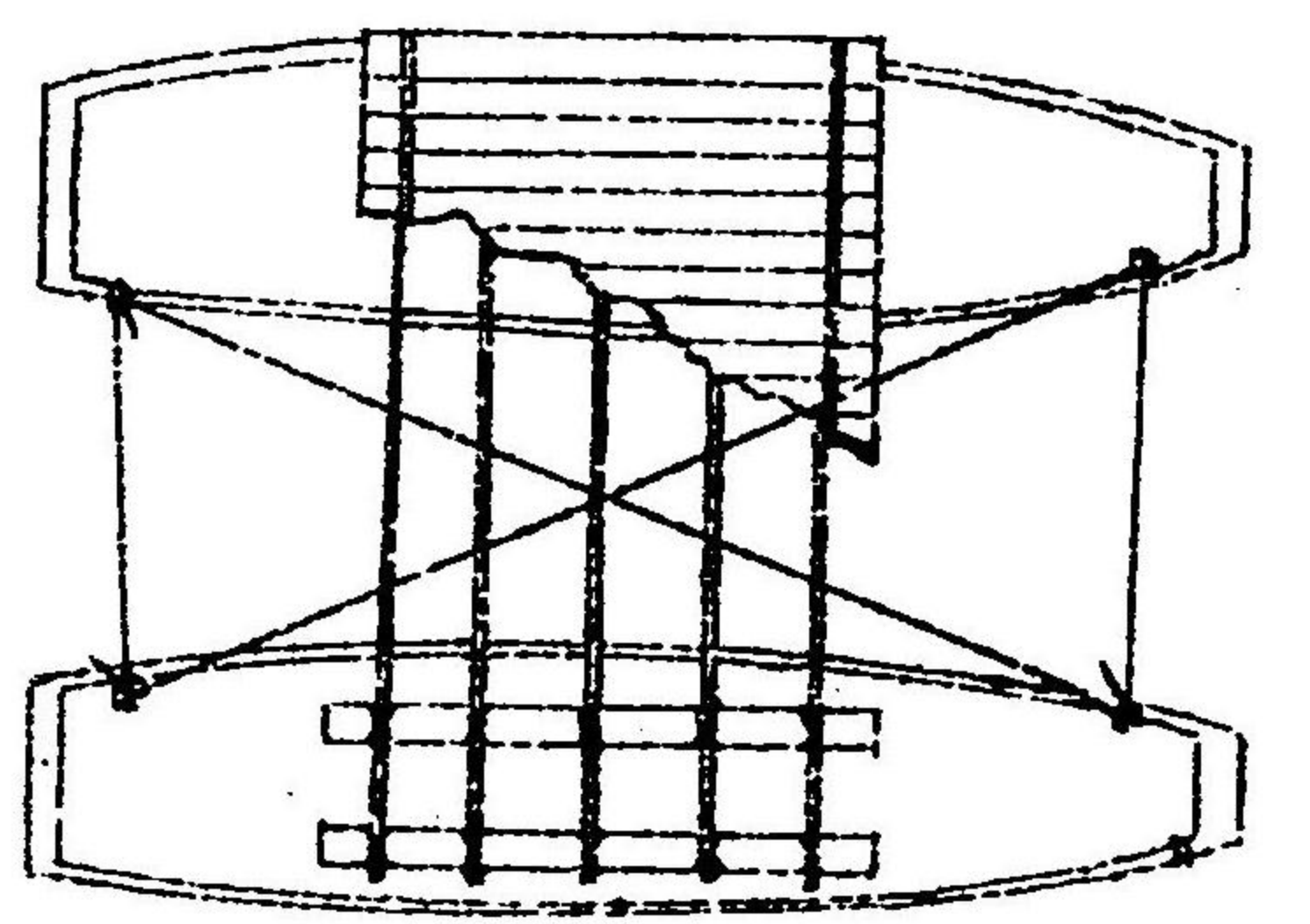


圖四第

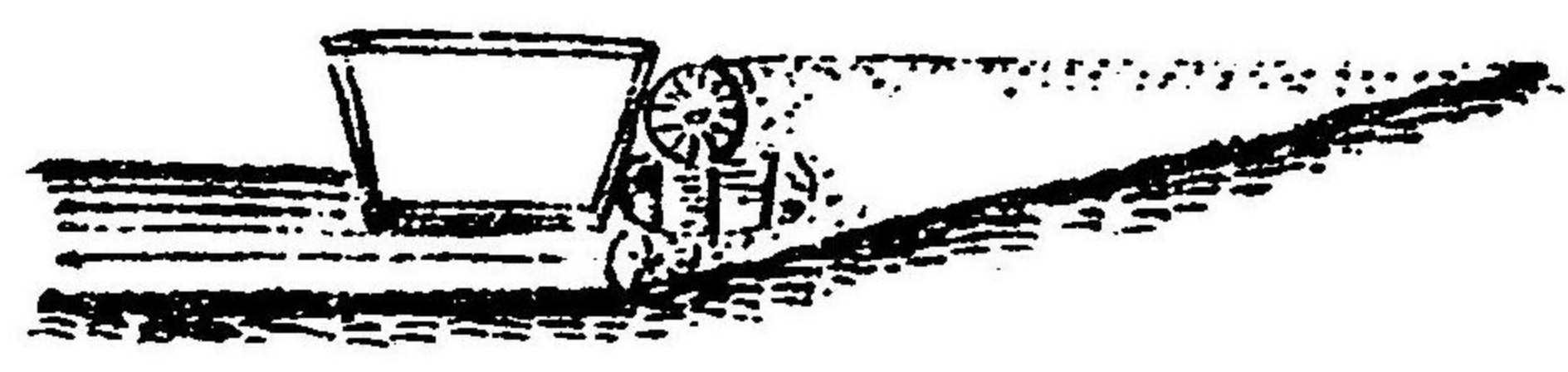


CDハ徒涉場ニシテ
ABハ直線状ニナセル
兩岸ト流線ニ直角
ナル假想線ナリ

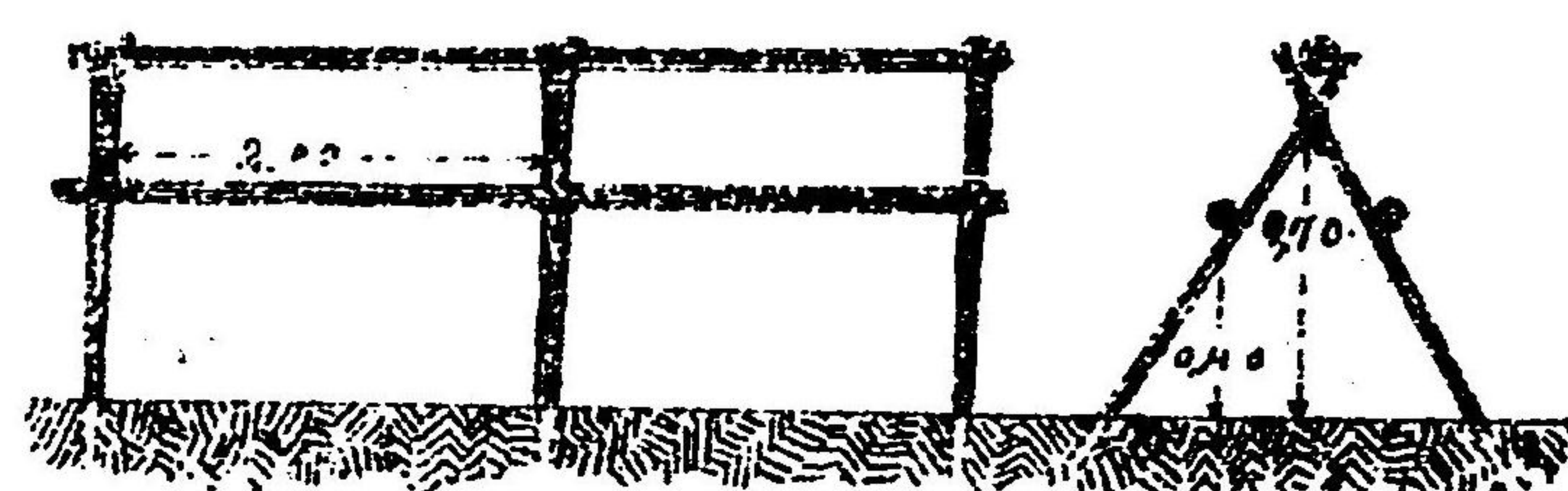
圖五第



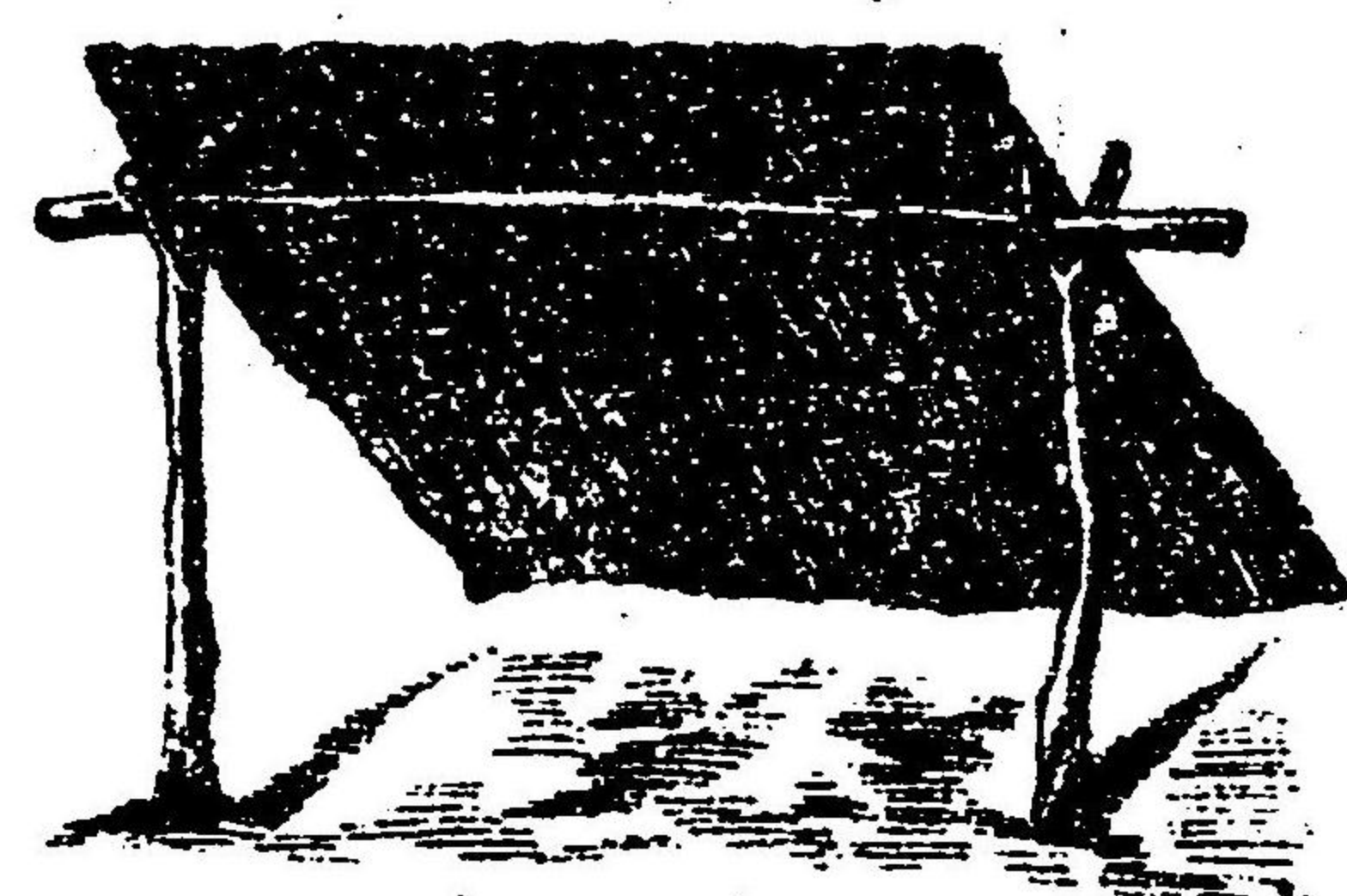
圖六第



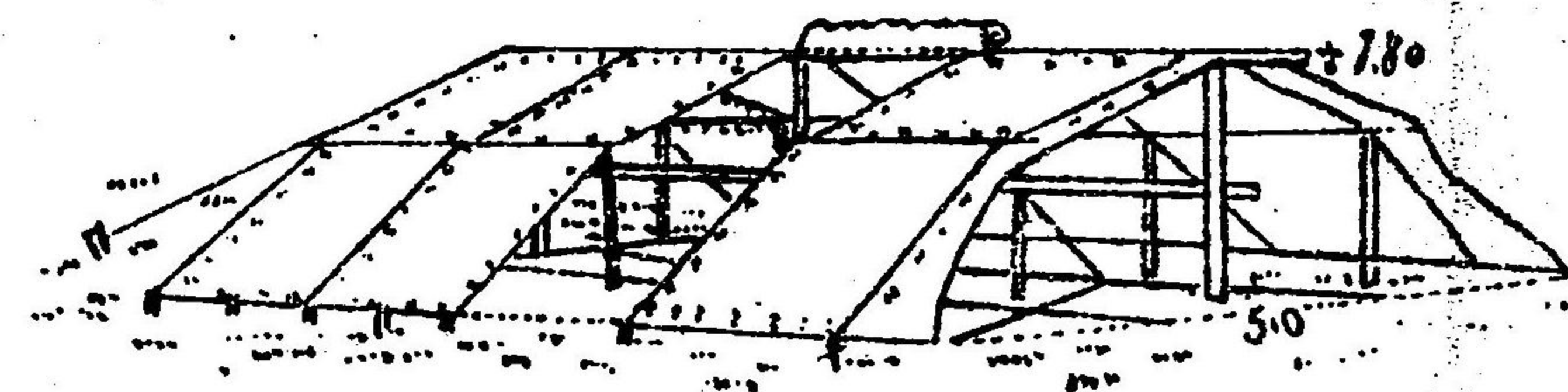
圖一十第



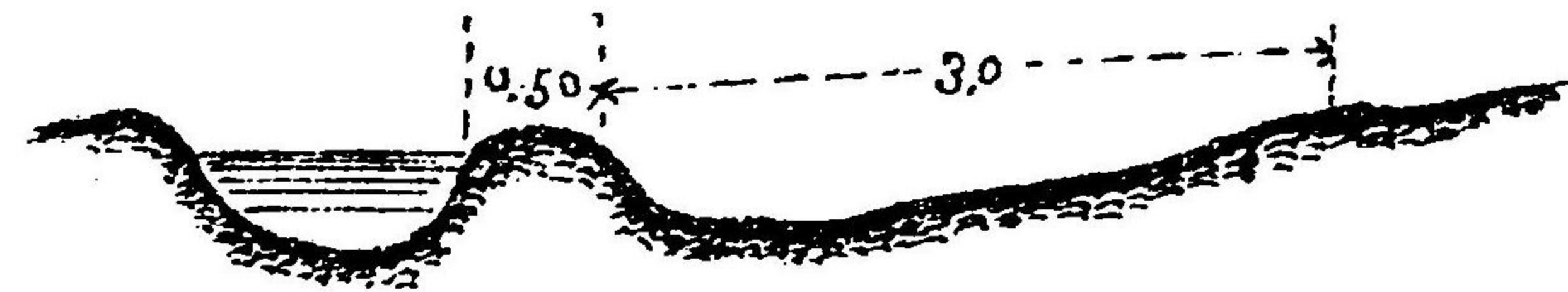
圖九第



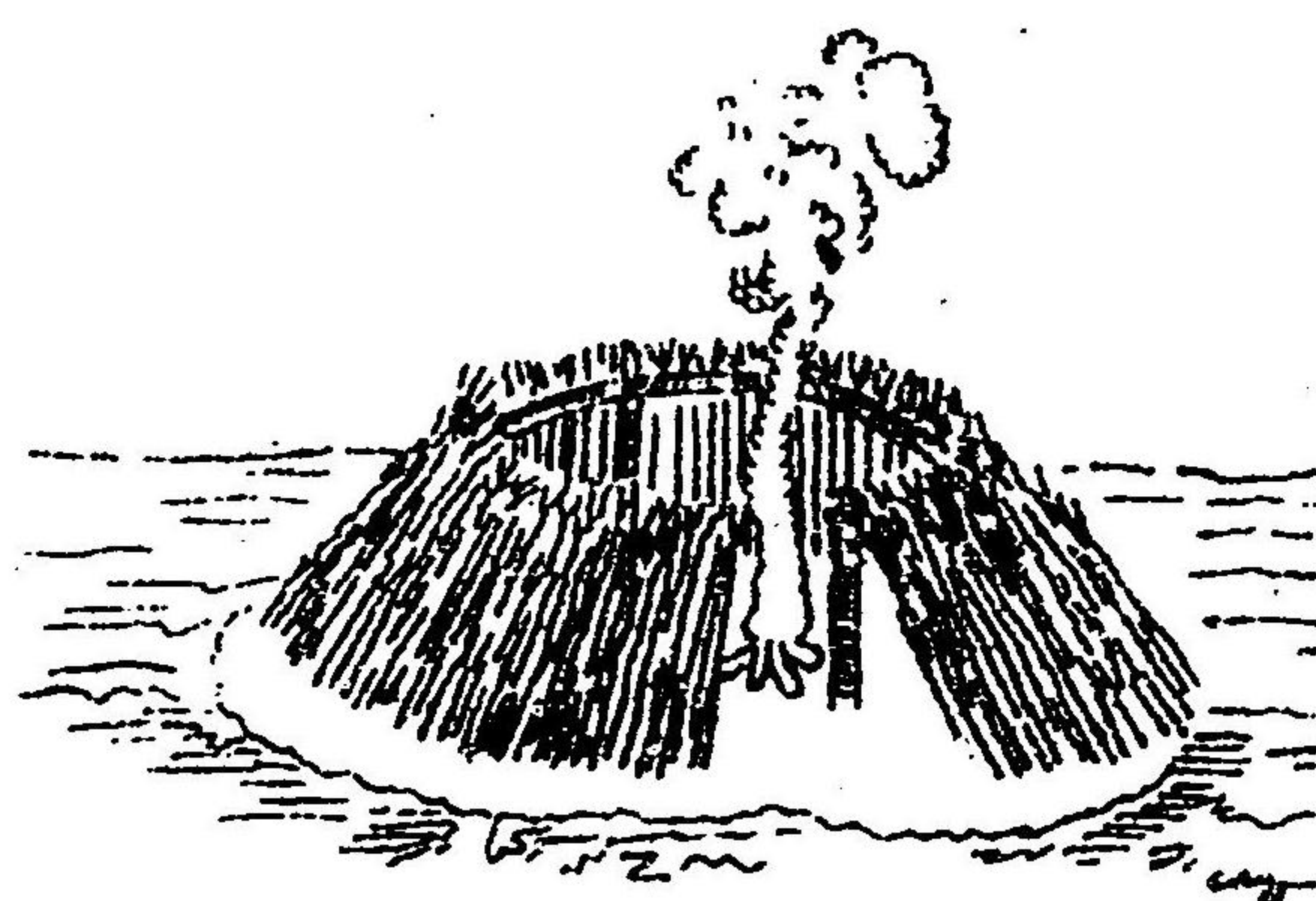
圖七第



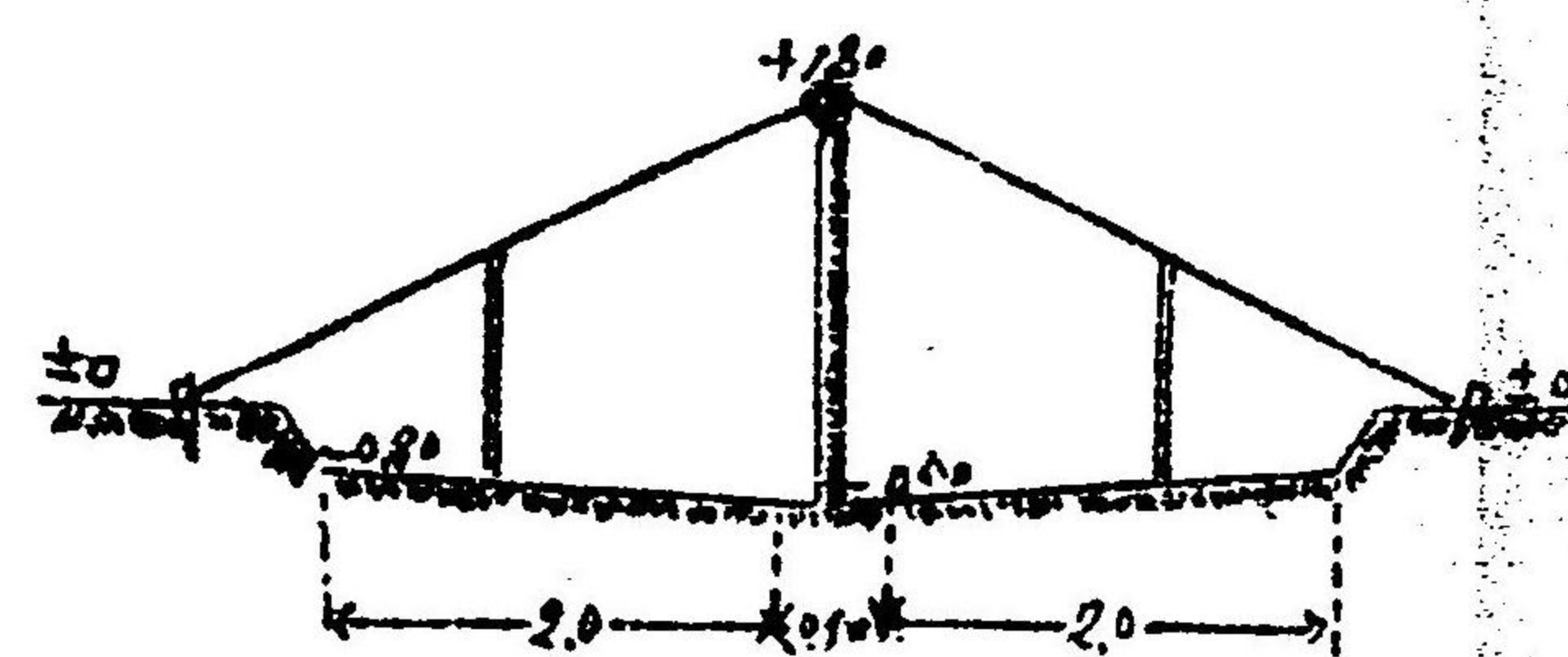
圖二十第



圖十第

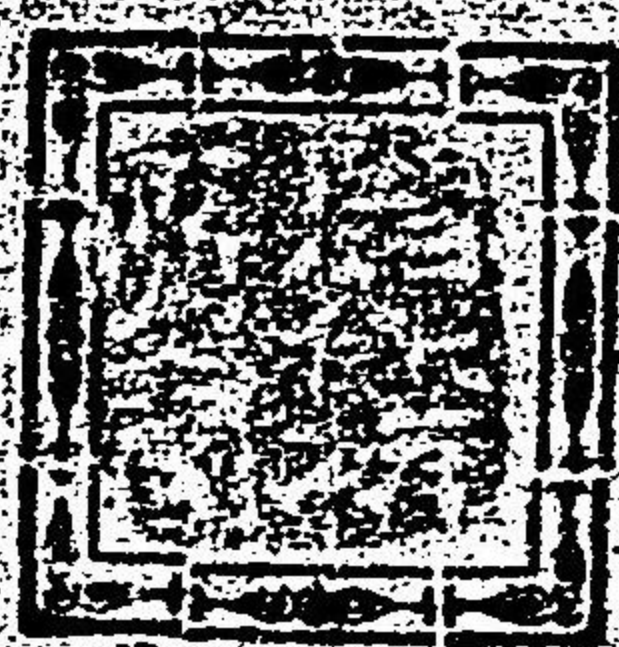


圖八第



318
82

明治三十六年三月二十三日
明治三十六年四月五日發行

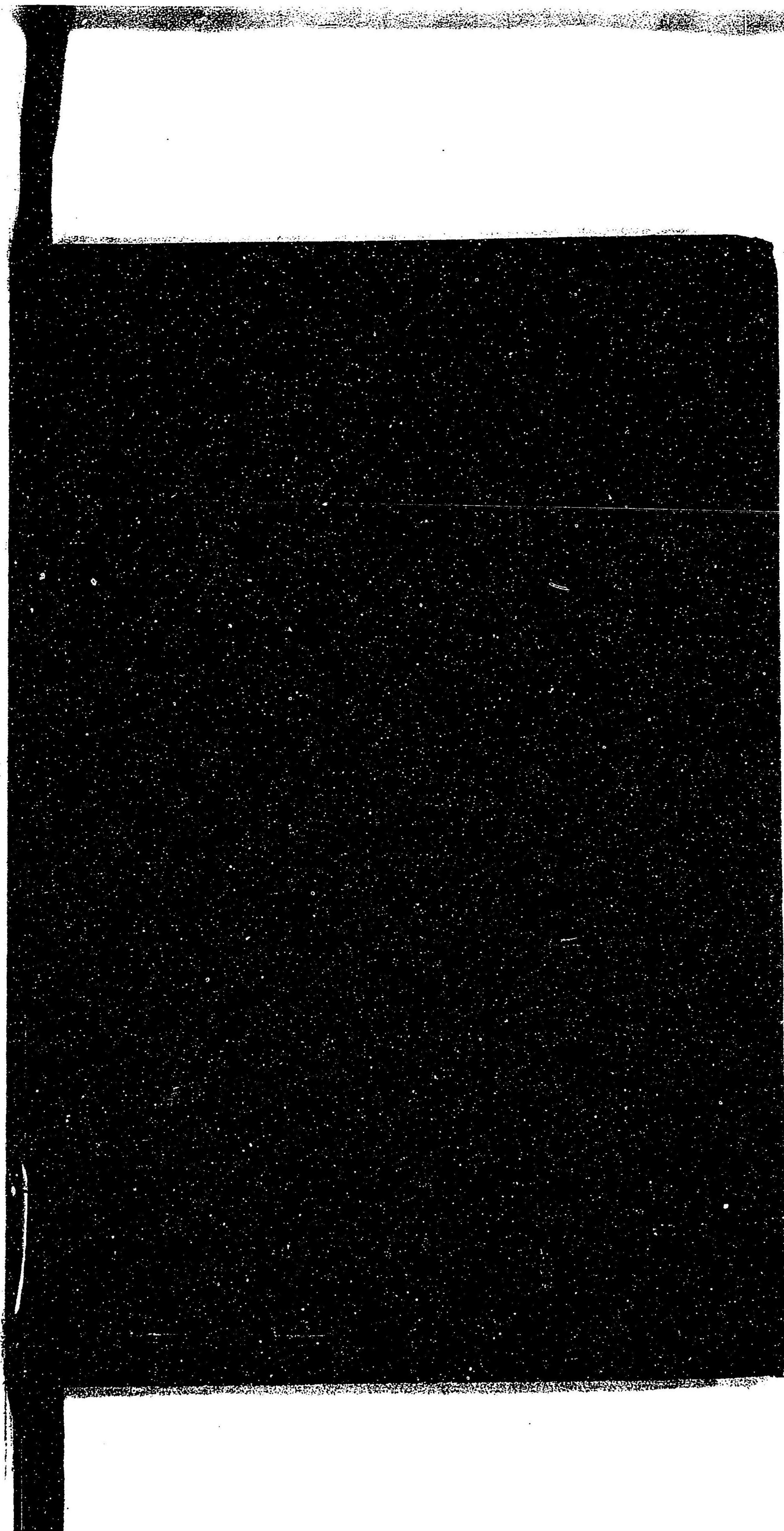


教育總監部

印刷者 井口松次郎

印刷所 元真社

東京市京橋區新町十五、十六番地



318
82

052549-000-9

318-82

精重兵教程(下士教科) 第1-3部

教育総監部

M36

BFG-0015

